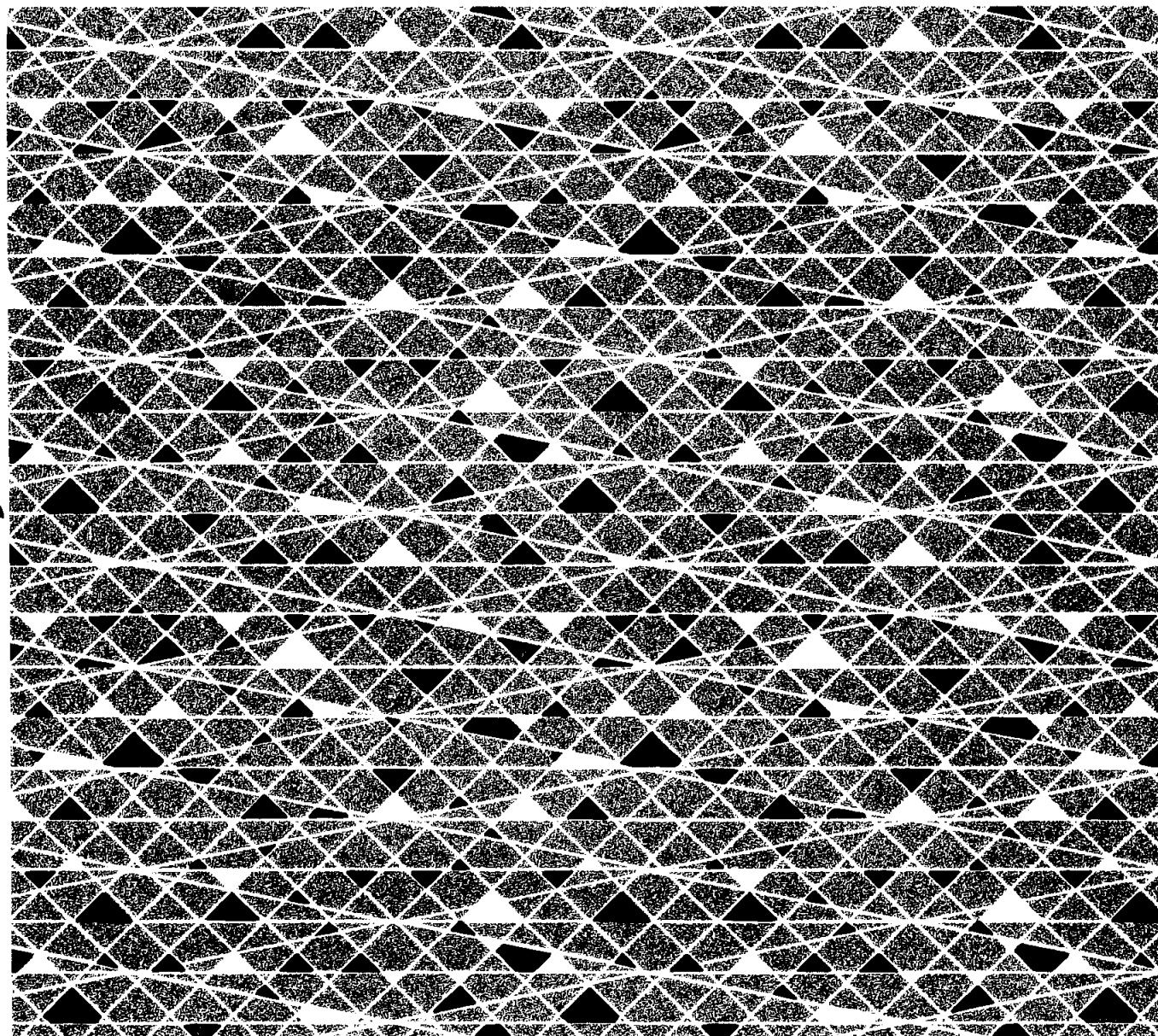


PORTATONE PSR-500

取扱説明書



YAMAHA

このたびは、ヤマハ・ポータートーンPSR-500をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

この取扱説明書の見方

本書は、PSR-500の豊富な機能、操作方法を理解しやすいように、少しずつステップを踏んで読んでいただけるような構成になっています。従って、基本的には前の方から順にご覧ください。また、次のような見方をされるのもアイデアです。

全てをご理解いただいた後は……

“もくじ”を見て、目的に合った所をさがす。

ボタン等のはたらきが分からなくなった時……

“各部の名称とはたらき”を開いて調べる。

さらに詳しく知りたい時は、そこに記載してある参照ページを見る。

もくじ

1 プレイの前に

1. 特長 2
2. ご注意 2
3. 譜面立ての立て方 3
4. 和文シートの使い方 3
5. 電源のしたく 3
6. PSR-500早わかり 4

2 各部の名称とはたらき

1. 操作パネル 7
2. 付属端子 11

3 鳴らしてみよう

1. デモンストレーション曲を聴いてみよう 12
2. 好きな音色で弾こう 13
3. チューニング 15
4. トランスポーズ 16
5. スプリット 17
6. デュアルボイス 19
7. スプリット+デュアル 21
8. パーカッション 23

4 音に効果をかけてみよう

1. ピッチベンド 26
2. オートハーモニー 27
3. DSP(リバーブ) 29
4. ボリューム 30
5. オクターブ 31
6. パン 32
7. サステイン 32
8. マルチパッド 33

5 リズムに合わせて弾こう

1. リズムに合わせて弾く 35
2. シンクロスタート 39
3. イントロ 40

4. フィルイン 40
5. エンディング 41

6 オートアカンパニメント(自動伴奏機能)を活用しよう

1. モードについて 42
2. シングルフィンガーモードで楽々演奏 43
3. シングルフィンガーコード一覧表 47
4. フィンガードモードでじっくり演奏 49
5. フィンガードコード一覧表 53
6. カスタムスタイルのパターンを作る 55
7. レッツプレイ 59

7 ソングメモリーを活用しよう

1. 10個の録音トラックについて 61
2. 録音の方法 61
3. 再生の方法 67
4. 再生の順番設定 70

8 その他の機能

1. ボイスメモリー 72
2. ページメモリー 73
3. 他の機器と接続する 75

9 MIDI

1. MIDIとは? 76
2. 本機のMIDI端子 76
3. MIDIのできる事 76
4. MIDIの設定方法と機能 77
5. MIDI送受信メッセージ 79

10 資料

1. 初期化する 82
2. 操作不能になったら 83
3. おかしいな?と思ったら 84
4. 仕様 85
5. 同時発音数について 86
6. アフターサービスと保証 裏表紙

1. プレイの前に

1. 特長

◆高音質100種類の音色

AWM音源による高音質な100種類の音色を内蔵しています。

◆103種類のリズムスタイル

様々な演奏スタイルに対応する103種類のリズムを内蔵しています。

◆簡単にアンサンブル演奏が楽しめる

自動伴奏(オートアカンパニメント)機能を使えば、選んだリズムスタイルに合ったアレンジで、簡単にアンサンブル演奏が楽しめます。

◆オリジナルパターンを作成可能

自動伴奏のイントロ、フィルイン、ノーマル、ブリッジ、エンディングを、全て自分好みのパターンに変更できます。

☛オートハーモニー機能搭載

オートハーモニー機能により、単音で弾いても和音でプレイしているような効果を簡単に演出できます。ハーモニーのタイプは6種類用意されています。

◆デジタルリバーブを内蔵

2つのタイプのリバーブを内蔵しており、リバーブのかかり具合もトラックごとに調節できます。

◆音色の設定を変更可能

各音色の設定を変更して演奏したり、変更した音色をメモリーできます。

◆マルチトラックレコーディングが可能

ソングメモリー機能により、自分の演奏を録音したり再生したりできます。
最大5パターンのコード進行、最大5パターンのメロディーを録音して、後でそれらをつなげたり重ねたりしてオリジナル演奏曲に仕上げることができます。

☛パーカッションプレイが楽しめる

パーカッションの音色番号にするだけで、PSR-500がパーカッションに変身します。

◆マルチパッド装備

マルチパッドを4つ装備しており、それぞれに装飾用のリズムやフレーズを録音できます。

◆録音内容や設定内容を4ページ分メモリー可能

録音した内容や設定した内容を、4ページ(4セット)分メモリーできます。ステージでの演奏に向けてセッティングが可能です。

◆MIDI端子を装備

電子楽器をコントロールするための統一規格であるMIDI端子を装備しています。シンセサイザーやシーケンサーなどと接続すれば、楽しみ方がさらに広がります。

2. ご注意

こんな所には置かないでください。



- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・日中の車内
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

こんな所では使わないでください。



- ・ラジオやテレビのすぐ近くで使用されますと、ラジオやテレビ側で雑音が発生することがあります。十分に離してお使いください。

乱暴に扱わないでください。



- ・落としたり、物をぶつけたり、上に座ったりしないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

使わない時は…



- ・パワーオン/オフボタンを押して電源をオフにしてください。
- ・長い間使わない時は、乾電池を取り出してください。
※ただし、電源アダプターを抜いて乾電池を取り出し約10分以上放置すると、メモリー内容が初期化されます。(82ページ参照)

美しく保つために…



- ・汚れは、柔らかい布でカラ拭きしてください。
- ・汚れがひどい時は、少し水で湿らせた布で拭いてください。
- ・アルコールやシンナー類は、絶対に使わないでください。
- ・ビニール製品を上に乗らないでください。貼り付いてしまうことがあります。

保管してください。



- ・この取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

音楽を楽しむエチケット

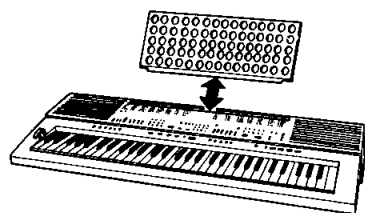


これは電子機械工業会
「音のエチケット」キャンペーンの
シンボルマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。特に、夜間は小さな音でもよく通り、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使うなど、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

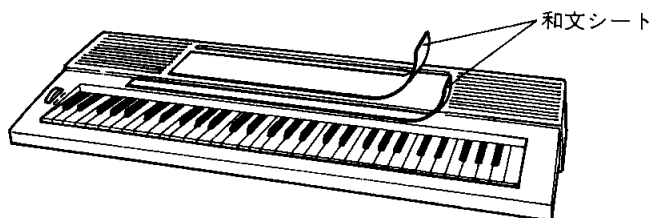
3. 譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、PSR-500のパネル上のミゾに差し込んでお使いください。



4. 和文シートの使い方

付属の和文シートは粘着テープ式になっています。PSR-500のパネル面に貼り付けてお使いください。和文シートを使用すれば、各部の名称を日本語で読みとることができます。



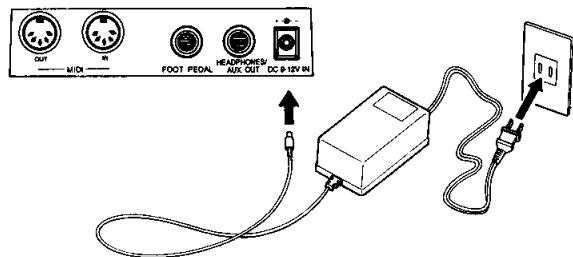
5. 電源のしたく

PSR-500は、家庭用コンセントでも乾電池でも使えます。お使いになる前に、どちらかを選んで準備してください。

家庭用コンセントから電源をとる場合

付属の電源アダプターPA-5を使用します。図のように接続してください。

①背面パネルにある電源アダプター接続用端子<DC 9-12V IN>へ差し込む。

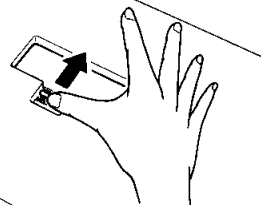


②家庭用(AC100V)コンセントに差し込む。

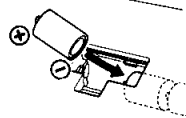
※他の電源アダプターは使わないでください。他の電源アダプターの使用による障害は保証しかねる場合もございますので、ご注意ください。

乾電池を使う場合

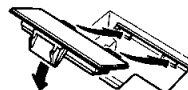
①PSR-500を裏返し、電池ブタを外します。



②市販の乾電池(単1乾電池)を6本入れます。向きを間違えないように入れてください。



③電池ブタを閉めます。



※乾電池が入っていても、電源アダプターが接続されると、自動的に電源アダプターから電源が供給されるように切り替わります。

※乾電池でご使用の場合は、電源を入れたまま使用しないしていると、電池の消耗を防ぐため約10分後に自動的に電源が切れます。

※古い乾電池や種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。

※乾電池の容量が少なくなりますと、“batt”の表示がディスプレイに出ます。その場合、一旦電源を切り、マスターボリュームを下げて再び電源を入れれば、しばらくの間は使用可能ですが、音が歪んだり、途切れたりするようになりますので、早めに電池交換をお勧めします。

乾電池交換の際は、単1乾電池6本と指定し、6本共新しいものと交換してください。

※乾電池は内部メモリーの保持用にも用いられていますので、乾電池の容量が少なくなりますとメモリーの内容が失われます。(電源アダプターから電源が供給されている間は、同様に保持されます。)

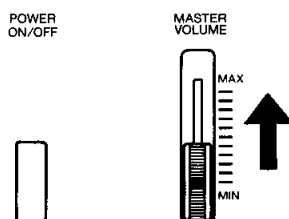
※乾電池の交換程度に要する時間(約10分間以内)は、乾電池を抜いてもメモリー内容が保持されます。

6. PSR-500早わかり

最初にPSR-500のアウトラインをご紹介します。

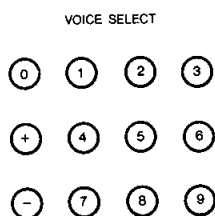
とにかく、まず使ってみたいという方は、☆印の項目を読んで、PSR-500を実際に操作してみましょう。

☆まず音を出してみよう



- ①パワーオン/オフボタンを押して電源を入れてください。
- ②マスターボリュームを上げてみましょう。鍵盤を押さえると、今選ばれている音色で鳴ります。

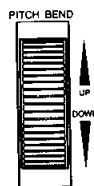
☆音色を変えてみよう



- ①ボイスセレクトボタンの0～9ボタンで指定します。たとえば音色番号35のストリングス1を指定する時には、3ボタンを押し、次に5ボタンを押します。
- ②また、-ボタンや+ボタンを使えば、音色番号を1番ずつ上げ下げすることもできます。たとえば、35番の状態で-ボタンを1回押せば34番のチェロに変わります。各音色番号と音色名の関係は、コントロールパネルのボイスリストをご覧ください。

※音色番号は2桁の数字で指定します。はじめに10の位、次に1の位の順番で指定してください。

☆ピッチベンドホイール



音を出しながらピッチベンドホイールを回すことにより、ギターのコッキング奏法のように音程を上げ下げできます。

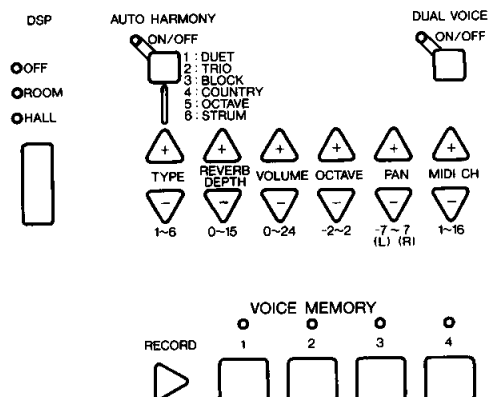
※詳しくは26ページをご覧ください。

マルチディスプレイ



見やすい4桁表示のディスプレイを搭載。現在の状態が一目でわかります。

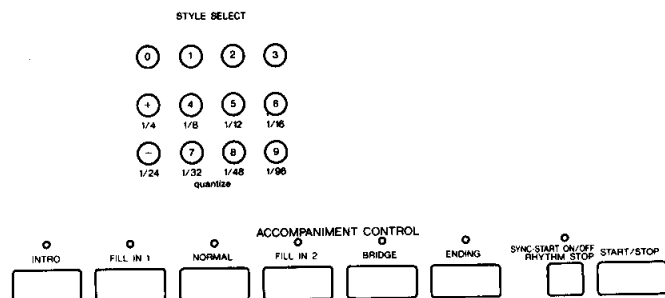
効果かける



リバーブやオートハーモニー、デュアルボイスなどの効果をかけて弾くことができます。また、リバーブの深さを変更したり、発音をオクターブずらすなどの設定変更も可能です。
※詳しくは27ページをご覧ください。

※設定を変えた音色をメモリーすることもできます。詳しくは72ページをご覧ください。

☆リズムを鳴らそう



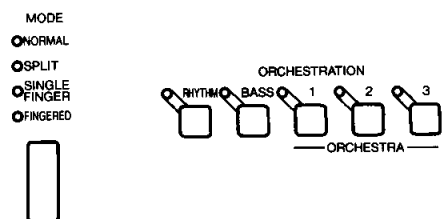
①スタイルセレクトボタンの0~9ボタン、または-ボタンや+ボタンで指定します。各スタイル番号とスタイル名の関係は、コントロールパネルのスタイルリストをご覧ください。

②ノーマルパターンを鳴らすか、ブリッジパターンを鳴らすかをボタンを押して指定します。そして、スタート/ストップボタンを押すと、リズムが鳴り出します。

③リズムを止めたい時は、スタート/ストップボタンまたはエンディングボタンを押してください。

※詳しくは35ページをご覧ください。

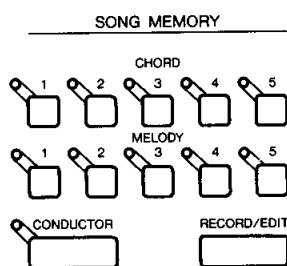
オートアカンパニメント(自動伴奏機能)



自動伴奏のモードには、コード演奏が苦手な人でも簡単な押さえ方で自動伴奏を加えることができるシングルフィンガーモードと、複雑なコードの曲にもバッチリ対応するフィンガードモードの2種類あります。左手で自動伴奏向けにコードを押さえ、右手でメロディーを弾いてみましょう。

※詳しくは42ページをご覧ください。

ソングメモリーを活用しよう

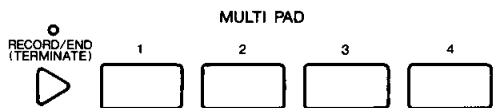


ソングメモリー機能を活用すれば、自動伴奏パート、メロディーパートを、パートごとに録音できます。(録音済みのパートを再生させながら、別のパートを録音したり演奏したりできます。)

1曲を分割して録音したものを、つなぎ合わせて1曲にすることも可能です。

※詳しくは61ページをご覧ください。

☆マルチパッドを押してみよう



マルチパッド1~4を指で押すと、打楽器音等によるフレーズが鳴ります。曲の中で装飾音としてお使いください。
※各パッドの録音内容を変えることもできます。詳しくは33ページをご覧ください。

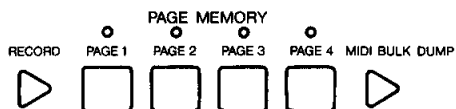
☆デモンストレーションを聴いてみよう

DEMO



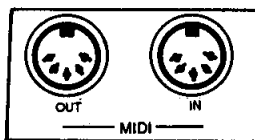
①3曲のデモンストレーションがあります。デモ1ボタン~デモ3ボタンのいずれかを押して指定します。押したボタンに対応する曲がスタートします。
②デモンストレーションは繰り返し再生されます。止める時は、スタート/ストップボタンまたは、再生中の曲のデモボタンを押します。

ページメモリーを活用しよう



PSR-500には4ページのメモリーがあります。各ページメモリーにはパネル全体の設定と、カスタムスタイルのパターン、ボイスメモリー1~4、ソングメモリー、MIDI設定、マルチパッド1~4の内容をメモリーできます。演奏する曲に合わせてページを切り替えるなどして、全ページをフルに使いましょう。

MIDIにチャレンジ

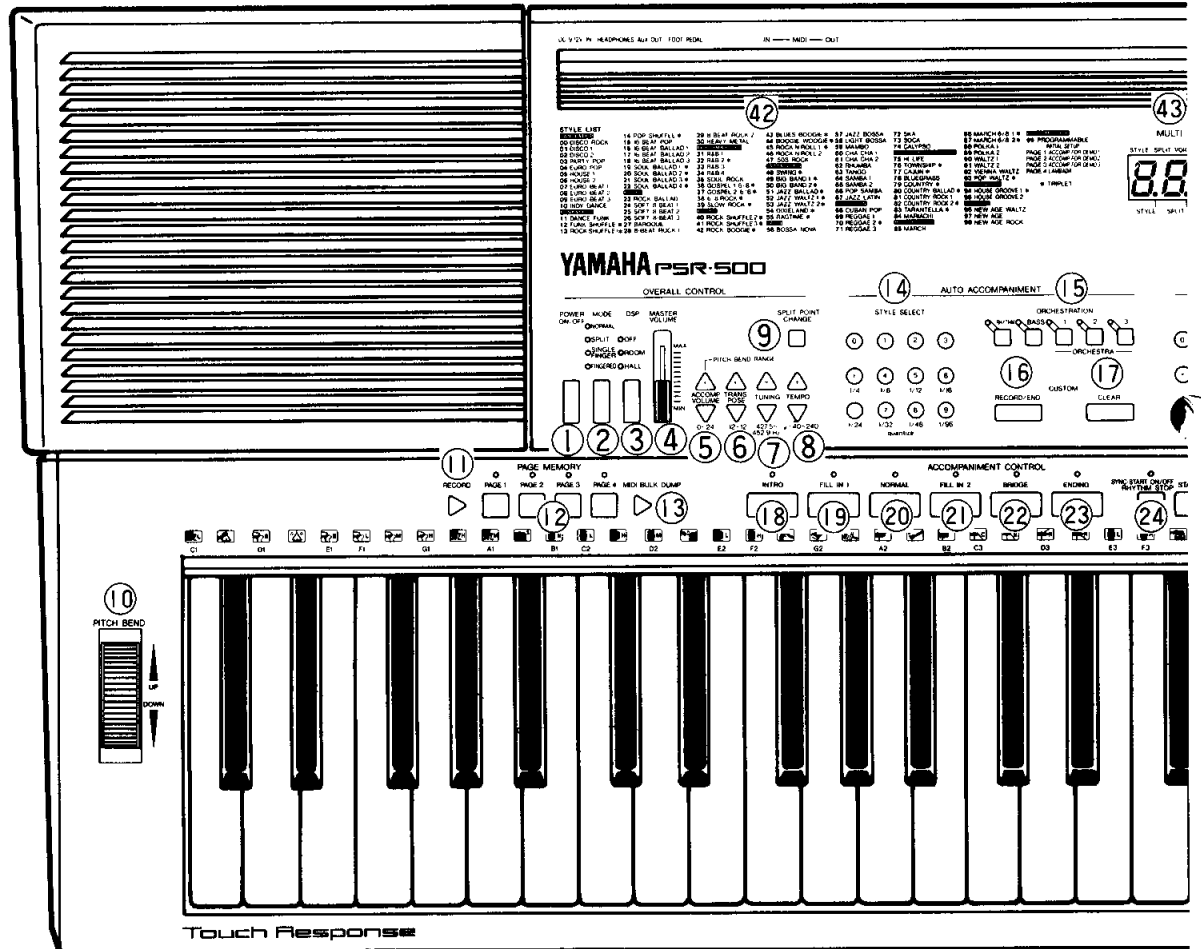


PSR-500での演奏をシンセサイザーでも同時に鳴らしたり、シーケンサーやリズムマシンでPSR-500をコントロールしたり、MIDIを使えばもっと世界は広がります。というわけで、76ページでMIDIについてわかりやすく解説していますので、知っている人も知らない人も是非ご一読ください。

2.各部の名称とはたらき

→マークのところにくわしく説明してあります。

1. 操作パネル



全体のコントロール

①パワーオン/オフボタン(→12ページ)

このボタンを押すと電源が入ります。もう一度押すと切れます。電源が入ると、④の[マルチディスプレイ]にスタイル番号と音色番号が表示されます。乾電池でご使用の場合は、10分以上使わないでいると自動的に切れます。

②モードボタン(→17、21、43、49ページ)

演奏モード(演奏のしかた)を切り替えるためのボタンです。選択したモードのランプが点灯します。

ノーマル

基本的な演奏ができます。

スプリット

低音側の鍵盤を弾いた時に鳴る音と高音側の鍵盤を弾いた時に鳴る音の音色を、異なったものにできます。

シングルフィンガー

低音側の鍵盤を指1本~3本で押さえて自動伴奏させることができます。自動伴奏は、リズム、ベース、オーケストラパートから成り立ちます。もちろん、自動伴奏に合わせて高音側の鍵盤で演奏できます。

フィンガード

低音側の鍵盤を普通のコードの押さえ方で自動伴奏させることができます。自動伴奏はシングルフィンガー時と同じで、リズム、ベース、オーケストラパートから成り立ちます。もちろん、自動伴奏に合わせて高音側の鍵盤で演奏できます。

③DSPボタン(→29ページ)

リバーブの種類を切り替えるためのボタンです。選択した種類のランプが点灯します。

④マスターボリューム(→36ページ)

全体の音量を調節するためのレバーです。

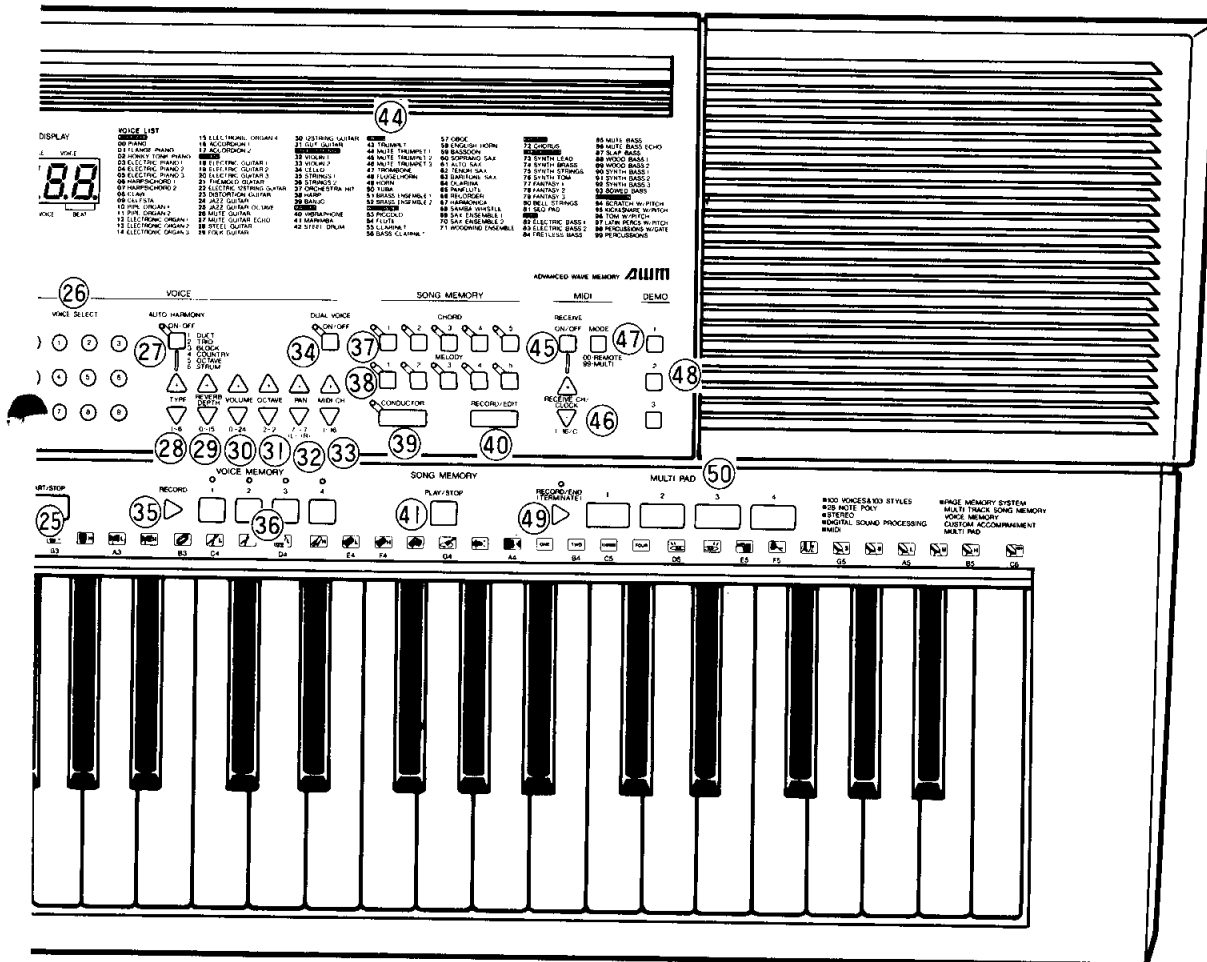
⑤アンプボリューム(+、-)ボタン(→36ページ)

ピッチベンドレンジ(+、-)ボタン(→26ページ)

自動伴奏(リズム、ベース、オーケストラパート)の音量を全体的に調節するためのボタンです。ピッチベンドレンジを変更する時にも使います。

⑥トランスポーズ(+、-)ボタン(→16ページ)

トランスポーズ(移調)の量を設定するためのボタンです。



⑦チューニング(+,-)ボタン(→15ページ)

他の楽器と音程を合わせるための、微調整ボタンです。

⑧テンポ(+,-)ボタン(→36ページ)

リズム(曲)の速さを調節するためのボタンです。

⑨スプリットポイントチェンジボタン(→17、43、49ページ)

スプリット、シングルフィンガー、フィンガードモード時それぞれの低音側と高音側の境を変更する時に押します。

⑩ピッチベンドホイール(→26ページ)

このホイールを回すことにより、手弾き音の音程だけを上げ下げできます。

ページメモリー

⑪レコードボタン(→74ページ)

現在の各部の設定や録音内容を1セットにして記憶させたい時は、このボタンを押しながら、メモリー先のページボタンを押します。各ページに1セットずつメモリーできます。

⑫ページ1~4ボタン(→74ページ)

各ページに記憶させた内容を、瞬時に各部に呼び出すことができます。

⑬MIDIバルクダンプボタン(→78ページ)

各ページに記憶させた内容を、MIDIデータレコーダーやもう1台のPSR-500にページ単位で送り出すことができます。これにより、他の機器に各ページの内容を保存したり、コピーできます。

オートアカンパニメント(自動伴奏)

⑭スタイルセレクト(0~9,+,-)ボタン(→35、55ページ)

クオンタイズ(1/4~1/96)ボタン(→57ページ)

これらのボタンでリズムスタイルを指定できます。カスタムスタイルのパターン作成時には、クオンタイズの値を指定するためのボタンになります。

⑮オーケストレーション(リズム、ベース、オーケストラ1~3)ボタン(→45、51ページ)

各伴奏パートの音を鳴らすか鳴らさないか指定できます。ボタン左上のランプを点灯させるとオン(鳴る状態)、消灯させるとオフ(鳴らない状態)です。

⑯カスタムレコード/エンドボタン(→56、58ページ)

このボタンを押すと、スタイル番号99のカスタムスタイル(オリジナルスタイルのパターン)を作成可能になります。

もう一度押すとカスタムスタイルの作成が終了します。

⑰クリアボタン(→57、58ページ)

カスタムスタイルのパターン作成時に、録音済みパートのパターンを消去するためのボタンです。

アカンパニメントコントロール

⑱イントロボタン(→40ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、途中でイントロパターンを入れる時に押します。

⑲フィルイン1ボタン(→40ページ)

途中でフィルイン1パターンを入れたり、フィルイン1パターンでリズムをスタートさせる時に押します。

⑳ノーマルボタン(→37ページ)

ノーマルパターンでリズムをスタートさせたり、途中でノーマルパターンに切り替える時に押します。

㉑フィルイン2ボタン(→40ページ)

途中でフィルイン2パターンを入れたり、フィルイン2パターンでリズムをスタートさせる時に押します。

㉒ブリッジボタン(→37ページ)

ブリッジパターンでリズムをスタートさせたり、途中でブリッジパターンに切り替える時に押します。

㉓エンディングボタン(→41ページ)

エンディングパターンでリズムを停止させたり、エンディングパターンでリズムをスタートさせる時に押します。

㉔シンクロスタートオン/オフボタン(→39ページ)

シンクロスタート待機状態にする時(鍵盤を押すと同時にリズムをスタートさせる場合)に押します。もう一度押すと、シンクロスタート待機状態が解除されます。

また、リズムをスタートさせた後に押すと、リズムが停止してシンクロスタート待機状態になります。

㉕スタート/ストップボタン(→37、38ページ)

このボタンを押すと、指定したリズムパターンからスタートします。もう一度押すと、すぐに停止します。

ボイス(音色)

㉖ボイスセレクト(0~9、+、-)ボタン(→14、18、19ページ)

これらのボタンで、手弾き音の音色を指定できます。

㉗オートハーモニーオン/オフボタン(→27ページ)

オートハーモニーをオン/オフするボタンです。ボタン左上のランプを点灯させるとオン(付加音が付く状態)、消灯させるとオフ(付加音が付かない状態)になります。

㉘オートハーモニータイプ(+、-)ボタン(→27ページ)

オートハーモニーのタイプ(種類)を切り替えるためのボタンです。6タイプの中から選べます。

㉙リバーブデプス(+、-)ボタン(→29ページ)

リバーブの深さを調節するためのボタンです。

㉚ボリューム(+、-)ボタン(→30、36ページ)

手弾き音の音量を調節するためのボタンです。

㉛オクターブ(+、-)ボタン(→31ページ)

手弾き音の発音音程をオクターブ単位で切り替えるためのボタンです。

㉜パン(+、-)ボタン(→32ページ)

手弾き音の音像定位(左右の間のどの辺から聞こえるようにするか)を、調節するためのボタンです。

㉝MIDI送信チャンネル(+、-)ボタン(→77ページ)

PSR-500のMIDI OUT端子を使用する場合のみ関係します。手弾き音のMIDI送信チャンネルを切り替えるためのボタンです。

㉞デュアルボイスオン/オフボタン(→19ページ)

2音色の状態と1音色の状態を切り替えるためのボタンです。ボタン左上のランプを点灯させるとデュアルオン(2音色の状態)、消灯させるとオフ(1音色の状態)です。

デュアルオン時には、デュアルオン時に追加される方の音色(デュアル音色)の番号を指定できます。

ボイスメモリー

㉟レコードボタン(→72ページ)

現在の音色番号を記憶させる時は、このボタンを押しながら、メモリー先の番号(1~4)ボタンを押します。各番号に、音色関係の設定も含めて1音色ずつ記憶されます。

㊱1~4ボタン(→72、73ページ)

各番号にメモリーした音色を、音色関係の設定も含めて呼び出すことができます。

ソングメモリー

⑩コード1～5ボタン(→62～70ページ)

各ボタンそれぞれにコード進行を録音し、再生させることができます。

⑪メロディー1～5ボタン(→62～70ページ)

各ボタンそれぞれにメロディーやオブリガートを録音し、再生させることができます。2つ以上のトラックを選んで、いっしょに再生させることもできます。

⑫コンダクターボタン(→69、71ページ)

各ボタンに録音したコード進行やメロディーを連結させて1曲に仕上げたり、連結させて仕上げた曲を再生する時に使用します。

⑬レコード/エディットボタン(→62～69ページ)

このボタンを押しながら録音先の番号ボタンを押すことにより、そのボタンへの録音待機状態にできます。録音内容を修正する時にも使います。

⑭プレイ/ストップボタン(→63～71ページ)

連結させて仕上げた曲、またはコード進行やメロディーを単独にスタートさせるためのボタンです。もう一度押すと停止します。

表示

⑮スタイルリスト(→35、43、50ページ)

103種類のスタイル名が表示されています。これらの中から演奏に使うスタイルを選択できます。

※99番はカスタムスタイルです。ページ1～4の各パターンを、オリジナルパターンに変更できます。

⑯マルチディスプレイ(→14～49ページ等)

スタイル番号と音色番号がここに表示されます。なお、テンポ、スプリットポイントチェンジ、チューニング、トランスポーズ等の設定時は、設定の間のみその値が表示され、数秒後にはスタイル番号と音色番号の表示に戻ります。

⑰ボイスリスト(→13、18、19、44、50ページ)

100種類の音色名が表示されています。これらの中から手弾き音の音色を選択できます。

MIDI

⑱受信オン/オフボタン(→77ページ)

⑱のボタンで表示させたMIDI受信チャンネルの情報を受信可能にするか、不可能にするか選択できます。

⑲受信チャンネル/クロックボタン(→77ページ)

MIDI受信可能/不可能の選択をするチャンネルを表示させるボタンです。また、内部クロック/外部クロックの選択をするための表示にする時にも使います。

⑳MIDIモードボタン(→78ページ)

MIDI受信モードをリモートコントロールモードにするか、マルチモードにするか指定できます。

デモ

㉑1～3ボタン(→12ページ)

デモンストレーション曲1～3それぞれをスタートさせるボタンです。もう一度押すと止まります。

マルチパッド

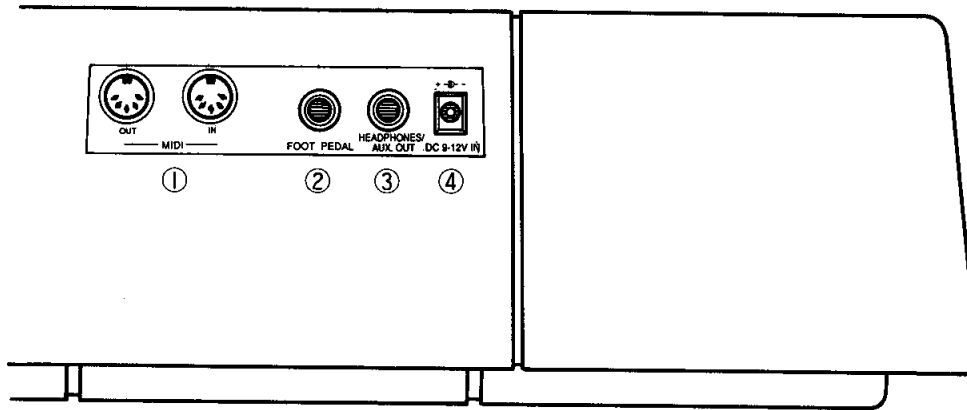
㉒レコード/エンド(ターミネイト)ボタン(→34ページ)

リズムやメロディーをマルチパッド1～4に録音する場合は、このボタンを押しながら、録音先のパッドを押します。もう一度押すと録音が終了します。また、再生時には再生の途中で停止(ターミネイト)させるボタンとして働きます。

㉓マルチパッド1～4(→33、34ページ)

録音したリズムやメロディーを再生させるボタンです。

2. 付属端子



①MIDI(アウト、イン)端子(→76ページ)

他のMIDI(ミディ)機器と接続するための端子です。他のMIDI機器と接続すると、MIDI機能を使えるようになります。

②フットペダル接続用端子(→32ページ)

付属の専用フットペダルを接続するための端子です。フットペダルを踏むと、押鍵音にサスティンがかかります。

③ヘッドホン/AUX出力端子(→75ページ)

PSR-500の音を出力する端子です。ヘッドホンを接続して夜間練習したり、キーボードアンプやステレオに接続して、より大きな音で鳴らすことができます。

この端子にプラグを差し込むと、PSR-500のスピーカーからは音が出なくなります。

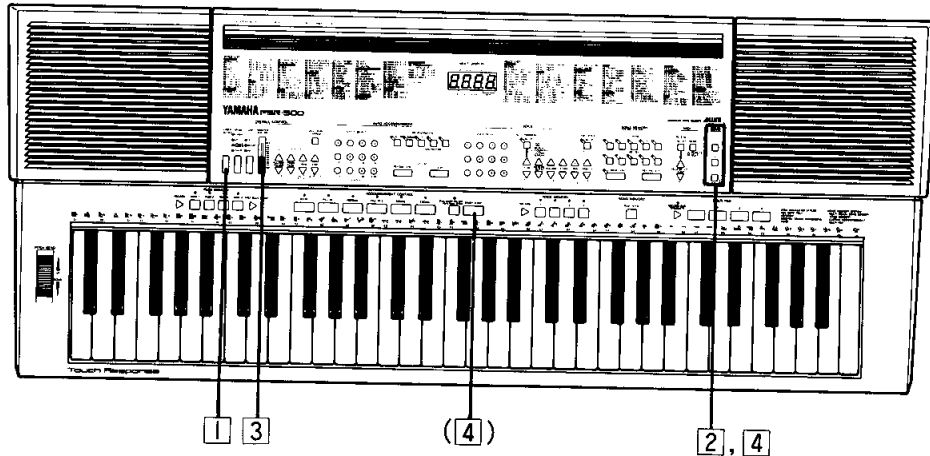
④電源アダプター接続用端子(→3ページ)

付属の電源アダプターPA-5を接続するための端子です。PA-5を接続すると、家庭用の電源コンセントから電源をとって使用できるようになります。

3. 鳴らしてみよう

1. デモンストレーション曲を聴いてみよう

PSR-500にはデモンストレーション曲が3曲入っており、いつでも自由に聴くことができます。



1 電源を入れる

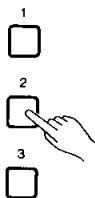
POWER ON/OFF



パワーオン/オフボタンを押して電源を入れます。

2 曲のスタート

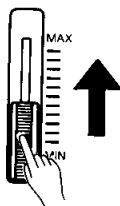
DEMO



デモ1~3ボタンの内、聴きたい曲のボタンを押します。
押したボタンの曲が、すぐにスタートします。
※スタート後に他のデモボタンを押すと、押したボタンの曲の再生に変わります。

3 音量の調節

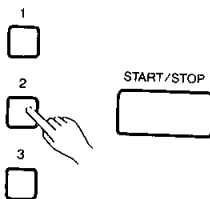
MASTER VOLUME



マスターボリュームで適度な音量になるように調節します。

4 ストップ

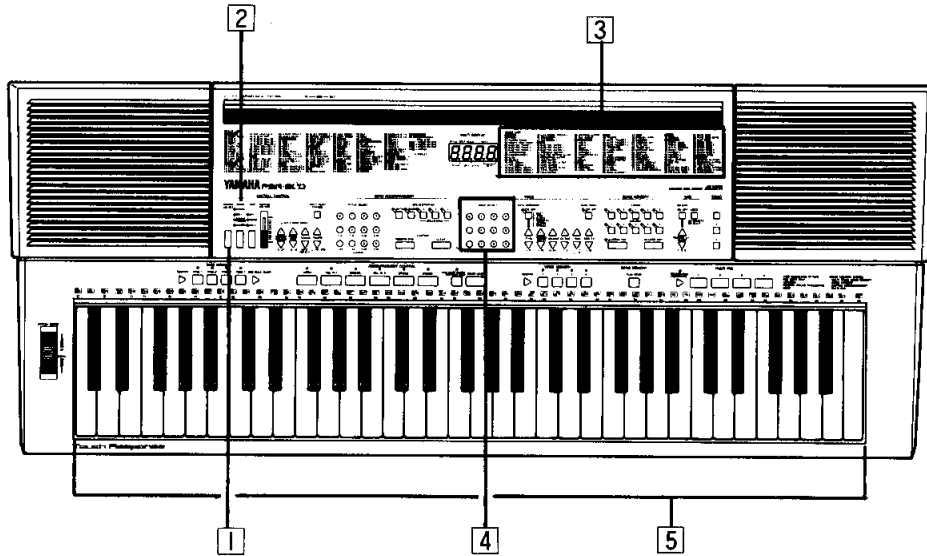
DEMO



曲は繰り返し再生されます。停止させる時は、押した番号のデモボタン、スタート/ストップボタンのどちらかを押します。

2. 好きな音色で弾こう

PSR-500には演奏する曲に合わせて選べる100種類の音色がプリセットされています。いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。



1 電源を入れる

パワーオン/オフボタンを押して電源を入れます。

2 ノーマルモードにする

- MODE
- NORMAL
 - SPLIT
 - SINGLE FINGER
 - FINGERED



ノーマルモードになっていない場合は、モードボタンを押してノーマルのランプを点灯させます。

3 音色番号の確認

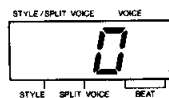
ボイスリストの中から、演奏に使う音色を見つけます。

4 音色の指定

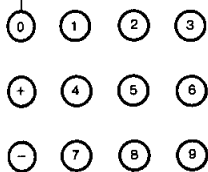
0~9ボタンで指定する場合

例) 音色番号08のクラビを指定する

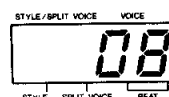
0ボタンを押して、



VOICE SELECT

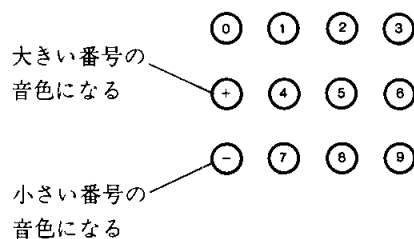


次に8を押します。



+、-ボタンで指定する場合

VOICE SELECT



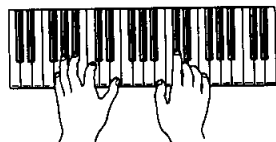
指定の方法には2種類あります。

10の位のボタンを押したうえで、1の位のボタンを押します。

+ボタンを押すと1大きい番号の音色になり、-ボタンを押すと1小さい番号の音色になります。

押し続けると連続して変わります。

5 演奏



好きな曲を弾いてみましょう。

※音の大きさは押鍵の強弱に応じて変化しますので、抑揚の表現(タッチレスポンス)が可能です。

また、音色によってこの感度は異なります。ピアノやビブラフォンの音色はハーブシコードやフォークギターの音色よりも感度が高く、オルガン系の音色にはタッチレスポンスがありません。

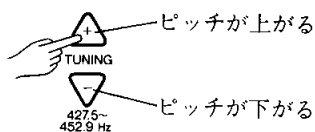
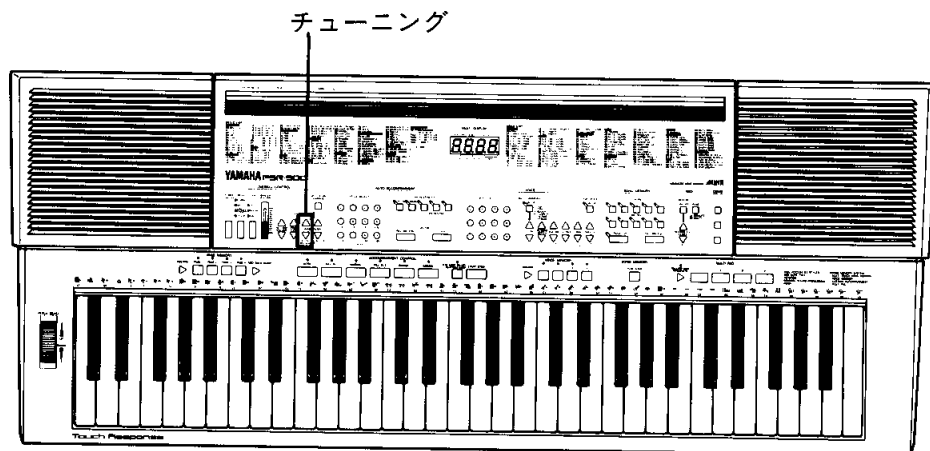
※いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

※最大同時発音数については、86ページを参照してください。

※音色によって最適な音域が鍵盤に割り付けられます。

3. チューニング

合奏する時や、CD、テープ等の音楽に合わせて演奏する時に、微妙に自分の楽器とチューニングが違って困ることがよくありますが、PSR-500なら心配ありません。チューニング機能でピッチ(音程)を変えれば、合わせたい楽器や音源に合ったチューニングで演奏できます。



チューニングボタンでピッチを合わせます。
ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。
音を聴きながら、こきざみにボタンを押してピッチを合わせてください。
※押し続けると値が連続して変わります。
※+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準のA3=440.0Hzに戻ります。
※パーカッション(音色番号94~99)の音色のピッチは変わりません。

4. トランスポーズ

押さえる鍵盤(運指)を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせる。つまり移調(トランスポーズ)することができます。(弾く高さで発音される音の高さをずらすことができます。)

±12半音(±1オクターブ)の範囲で設定できます。たとえば値を+5にすると、

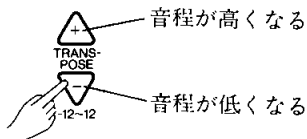
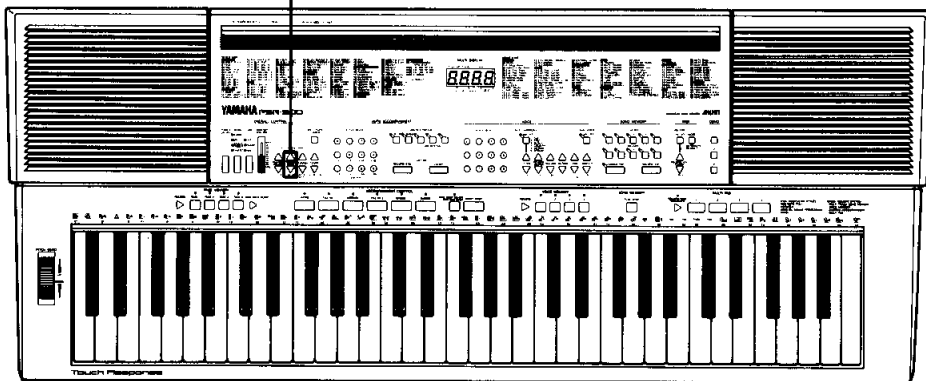


のように弾いたものが、



のように5半音高く鳴ります。

トランスポーズ



移調量をトランスポーズボタンで指定します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

値を1大きくするごとに半音高く、1小さくするごとに半音低く発音されるようになります。

※押し続けると値が連続して変わります。

※+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の0に戻ります。

※この機能は、合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキー(調)を合わせる時にも便利です。

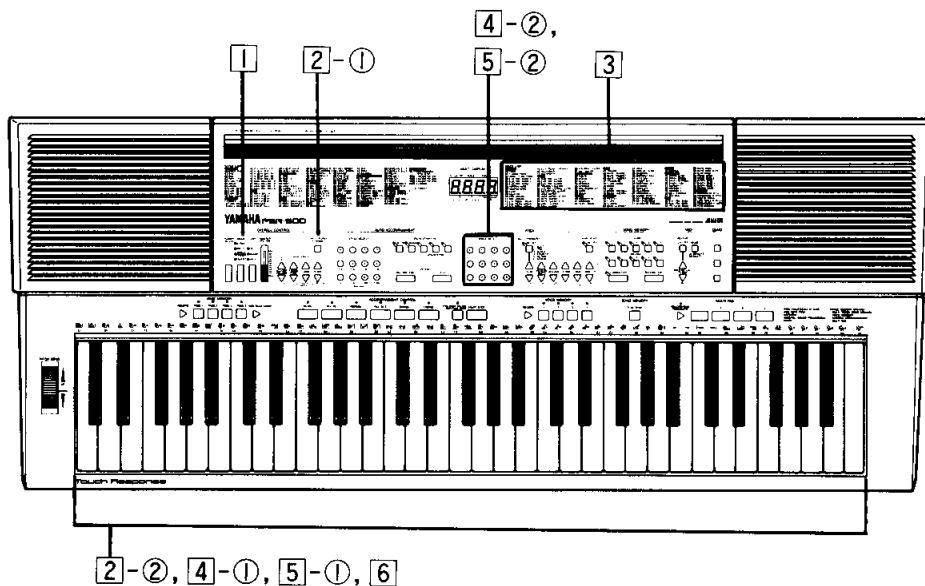
また、鍵盤の最低音より低い音や最高音より高い音が必要な時にも役立ちます。

※パーカッション(音色番号94~99)の音色には、トランスポーズはかかりません。

※押鍵中にトランスポーズの設定を変えることはできません。

5. スプリット

スプリットの機能を使うことにより、低音(左手)側と高音(右手)側に分けて別々の音色で演奏できます。主に低音側では伴奏を、高音側ではメロディーパートを演奏します。

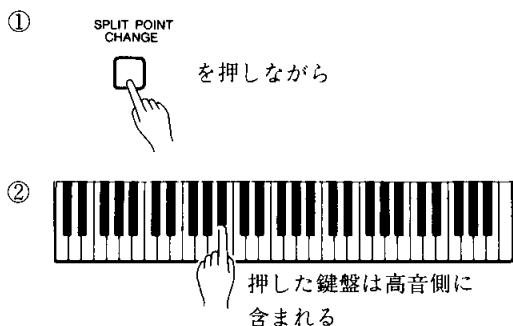


1 スプリットモードにする



モードボタンを押してスプリットのランプを点灯させます。

2 スプリット位置の指定



スプリットポイントチェンジボタンを押すと、ディスプレイに低音側と高音側の境が表示されます。必要であれば、次の方法で、低音側と高音側の境を変更します。

- ①スプリットポイントチェンジボタンを押しながら、
 - ②境にする鍵盤(高音側の最低音)を押します。
- 例) A#2をスプリット位置にした時の表示

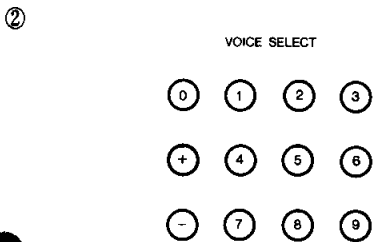
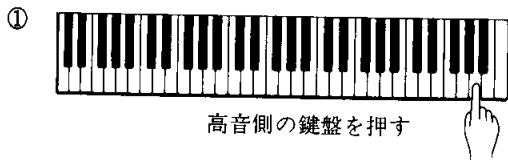


※モードボタンが“ノーマル”の場合、スプリット位置は存在しません。したがって、スプリットポイントチェンジボタンを押すと、[-----]が表示されます。

3 音色番号の確認

ボイスリストの中から、それぞれの音色を見つけます。

4 高音側の音色の指定



高音側の音色は、スプリットに切り替える前の音色になっています。音色を切り替える場合は、

①高音側のいずれかの鍵盤を押します。

②ボイスセレクトボタンで、高音側の音色を指定します。
(指定した音色の番号が右2桁に表示されます。)

5 低音側の音色の指定



左2桁は低音側、右2桁は高音側の音色番号

低音側の音色は、以前スプリットモードで指定した音色が再び呼び出されます。音色を切り替える場合は、

①低音側のいずれかの鍵盤を押します。(押鍵後の約2秒間は、スタイル番号のかわりに低音側の音色番号が表示されます。)

②ボイスセレクトボタンで、低音側の音色を指定します。
(スタイル番号の表示に戻ってからも、ボイスセレクトボタン押すと指定した音色の番号が左2桁に約2秒間表示されます。)

6 演奏

好きな曲を弾いてみましょう。指定したスプリットポイントを境に別々の音色で演奏できます。

※スプリットからノーマルモードに戻すと、高音側で指定していた音色になります。

※いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

※デュアル機能(19ページ参照)を併用することができます。そうすれば、高音側と低音側それぞれ2音色(21ページ参照)で演奏できます。

※スプリット位置の表示は、次のようになります。

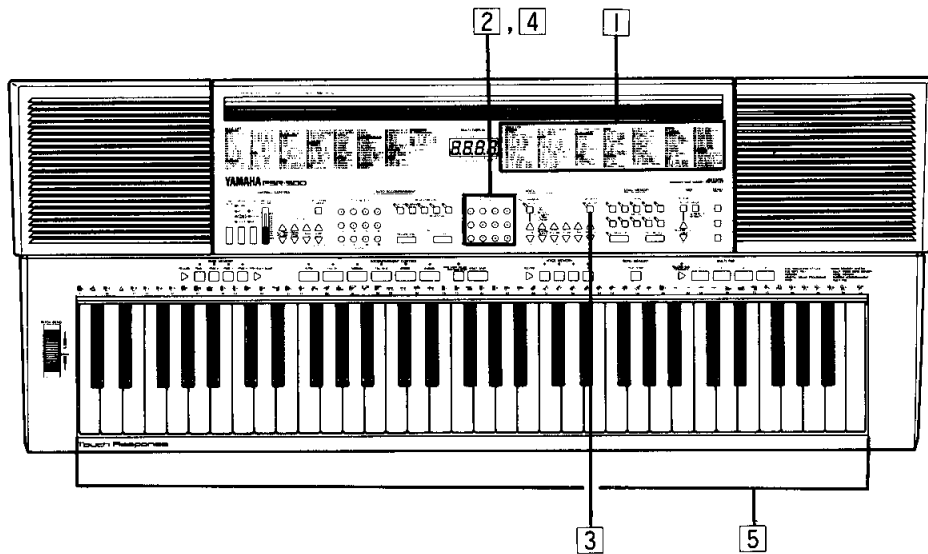
C	D	E	F	G	A	B
c	d	e	f	g	a	b

※スプリットポイントは、スプリット、シングルフィンガー、フィンガードモード別に指定できます。

※ボイス部の設定値を、低音側と高音側別々の値にすることもできます。それぞれ設定を変える側の鍵盤を押した後に設定します。ただし、低音側の音にはオートハーモニー効果はかかりません。

6. デュアルボイス

100種類の音色の中から2つの音色を選んで、同時に鳴らすことができます。



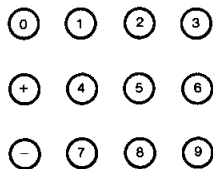
1 音色番号の確認

ボイスリストの中から、組み合わせる音色を見つけます。

2 片方の音色の指定

デュアルボイスオン/オフボタン オフの状態、ボイスセレクトボタンで、2つの音色の内の片方(ノーマル音色)を指定します。

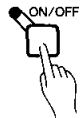
VOICE SELECT



3 デュアルボイスオン/オフボタンをオンにする

デュアルボイスオン/オフボタンを押してランプを点灯させます。

DUAL VOICE
ON/OFF



4 もう一方の音色の指定

ボイスセレクトボタンで、もう一方の音色(デュアル音色)を指定します。
※ここで指定したデュアル音色は、デュアルボイスをオンにした時のみ呼び出されます。

5 演奏

好きな曲を弾いてみましょう。

※いろいろな音色を組み合わせ弾いてみましょう。

※スプリット機能を併用することができます。そうすれば、高音側と低音側それぞれ2音色で演奏できます。21ページをご覧ください。

※押鍵中にデュアルボイスオン/オフボタンをオンにすると、押鍵中の音が消えます。

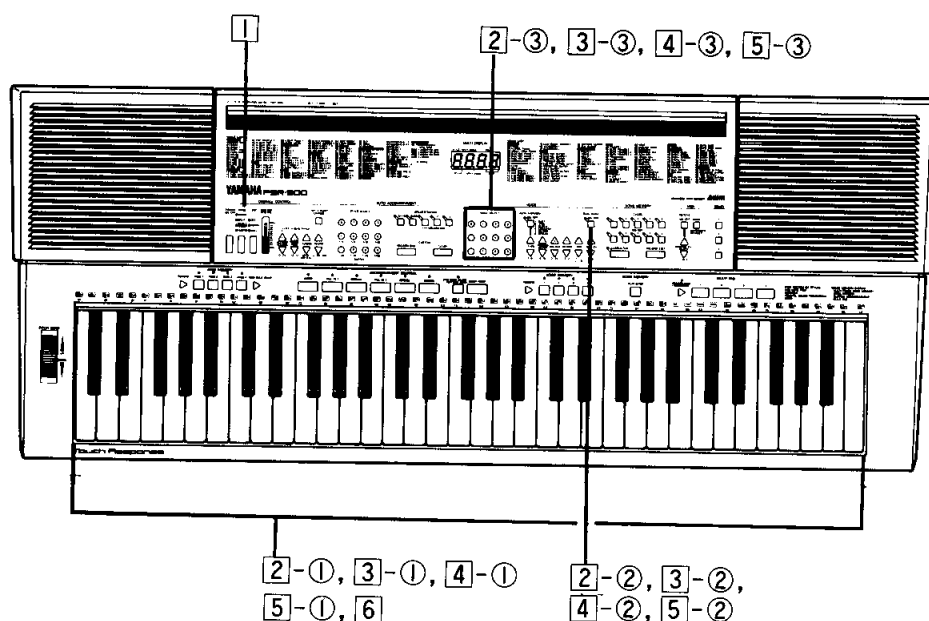
オンした後の押鍵より、デュアルで発音されます。

※押鍵中にデュアルボイスオン/オフボタンをオフにすると、押鍵中の音が消えます。

7. スプリット+デュアル

スプリットとデュアルの機能を同時に使うことにより、低音側と高音側別々に2音色割り当てて演奏できます。

※ここでは、スプリットポイントの切替方法などの詳しい説明は省略します。(17ページ参照)



1 スプリットモードにする	モードボタンを押してスプリットのランプを点灯させます。
2 高音側のノーマル音色を指定	①高音側のいずれかの鍵盤を押します。 ②デュアルボイスオン/オフボタンのランプが付いていたら押してオフにします。 ③ボイスセレクトボタンで、高音側の音色を指定します。 (指定した音色の番号が右2桁に表示されます。)
3 低音側のノーマル音色を指定	①低音側のいずれかの鍵盤を押します。 ②デュアルボイスオン/オフボタンのランプが付いていたら押してオフにします。 ③ボイスセレクトボタンで、低音側の音色を指定します。 (指定した音色の番号が左2桁に表示されます。)

4 高音側のデュアル音色を指定

- ①高音側のいずれかの鍵盤を押します。
- ②デュアルボイスオン/オフボタンを押してランプを点灯させます。
- ③ボイスセレクトボタンで、高音側のもう一方の音色を指定します。
(指定した音色の番号が右2桁に表示されます。)

5 低音側のデュアル音色を指定

- ①低音側のいずれかの鍵盤を押します。
- ②デュアルボイスオン/オフボタンを押してランプを点灯させます。
- ③ボイスセレクトボタンで、低音側のもう一方の音色を指定します。
(指定した音色の番号が左2桁に表示されます。)

6 演奏

好きな曲を弾いてみましょう。

●どの状態の時にどの音色を指定できるか？

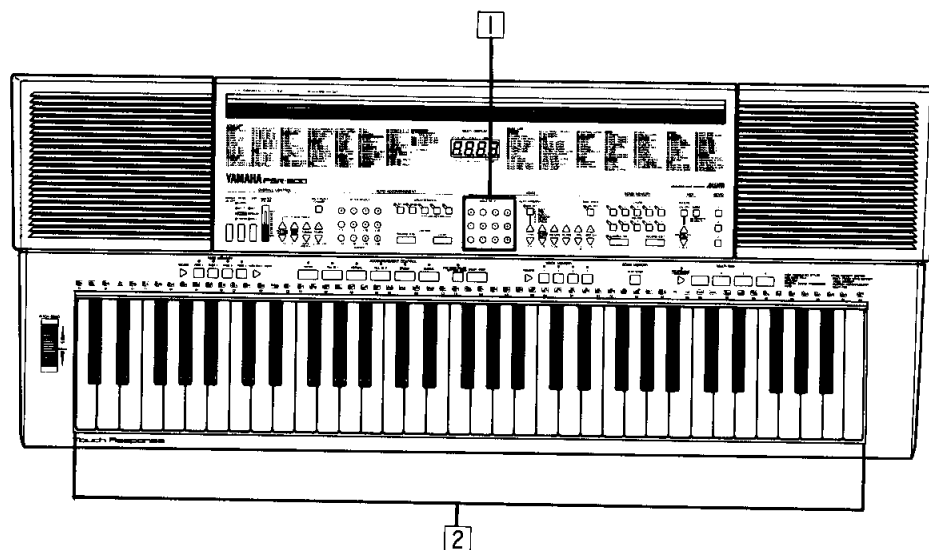
表中のノーマル音色は、1音色の状態にした時に鳴る音色を意味し、デュアル音色は2音色の状態にした時のみ鳴るもう一方の音色を意味します。

	低音側の鍵盤を押した後	高音側の鍵盤を押した後
デュアルボイスオフ (ランプ消灯)時	低音側のノーマル音色を指定できる。	高音側のノーマル音色を指定できる。
デュアルボイスオン (ランプ点灯)時	低音側のデュアル音色を指定できる。	高音側のデュアル音色を指定できる。

8. パーカッション

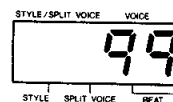
音色番号を94～99のパーカッション系の番号にすると、打楽器の音が各鍵盤に割り付けられ、鍵盤上での打楽器演奏が可能になります。

※音色番号98および99の時の各鍵盤への割り付けが、PSR-500の鍵盤上のパネルに印刷されています。



1 音色番号を指定

ボイスセレクトボタンで、音色番号94～99のいずれかにします。



2 打楽器演奏

鍵盤を押してリズム演奏してみましょう。

※パーカッションの音色番号を選んだ時、各鍵盤へ次のように割り付けられます。

94 スクラッチ ピッチ付

鍵盤	楽 器
C1~C6	スクラッチ

95 キック&スネア ピッチ付

鍵盤	楽 器
C1~B1	バスドラム(ヘヴィ)
C2~B2	バスドラム(ライト)
C3~B3	スネアドラム(ロー)
C4~B4	スネアドラム(ハイ)
C5~C6	スネアドラム(シンセ)

96 タム ピッチ付































鍵盤	楽 器
C1~B2	タム(アコースティック)
C3~C6	タム(シンセ)
































97 ラテンパーカッション ピッチ付

鍵盤	楽 器
C1~B1	コンガ
C2~B2	ボンゴ
C3~B3	ティンバレス
C4~B4	アゴゴ
C5~C6	クイーカ

98 パーカッション ゲート付

99 パーカッション

鍵盤	楽 器
C1	 バスドラム(ロー)
C#1	 トライアングル(ミュート)
D1	 スネアドラム(シンセ)
D#1	 トライアングル(オープン)
E1	 タム(シンセ バス)
F1	 タム(シンセ ロー)
F#1	 タム(シンセ ミッド)
G1	 タム(シンセ ハイ)
G#1	 バスドラム(ハイ)
A1	 バスドラム(ミッド)
A#1	 クローズリムショット
B1	 タム(ベース)
C2	 タム(ロー)
C#2	 スネア(ハイ)
D2	 タム(ミッド)
D#2	 オープンリムショット
E2	 スネアドラム(ロー)
F2	 タム(ハイ)
F#2	 ハンドクラップ
G2	 カウベル
G#2	 カバサ
A2	 ハイハット(クローズ)
A#2	 ブラッシュ(ヒット)
B2	 ハイハット(オープン)
C3	 クラッシュシンバル
C#3	 スプラッシュシンバル
D3	 ライドシンバル(1)
D#3	 ライドシンバル(2)
E3	 コンガ(ロー)
F3	 コンガ(ハイ)

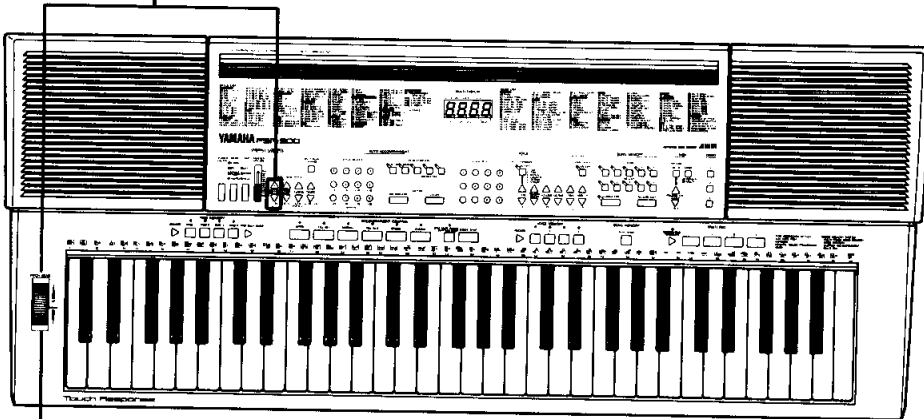
鍵盤	楽 器
F#3	 コンガ(ミュート)
G3	 ボンゴ(ロー)
G#3	 ボンゴ(ハイ)
A3	 ティンバレス(ロー)
A#3	 ティンバレス(ハイ)
B3	 タンバリン
C4	 クラベス(ロー)
C#4	 クラベス(ハイ)
D4	 アゴゴ(ロー)
D#4	 アゴゴ(ハイ)
E4	 クイーカ(ロー)
F4	 クイーカ(ハイ)
F#4	 ホイッスル
G4	 ブラッシュ(スクイーズ)
G#4	 ハイハット(フット)
A4	 スネアドラム(ロー ゲートリバーブ付)
A#4	 声1
B4	 声2
C5	 声3
C#5	 声4
D5	 スクラッチ(ロー)
D#5	 スクラッチ(ハイ)
E5	 ボンゴ(ミュート)
F5	 マラカス
F#5	 バスドラム(ハウス)
G5	 スネアドラム(ハウス)
G#5	 タム(ハウス バス)
A5	 タム(ハウス ロー)
A#5	 タム(ハウス ミッド)
B5	 タム(ハウス ハイ)
C6	 ハイハット(ハウス)

4.音に効果をかけてみよう

1. ピッチベンド

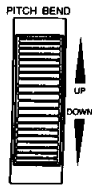
演奏しながらピッチベンドホイールを回すことにより、手弾き音の音程を上げ下げできます。ちょうどギターのコッキング奏法のような効果が得られます。

・ピッチベンドの可変範囲を変更する。



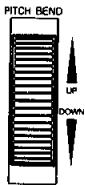
・ピッチベンド効果をかける。

効果をかける

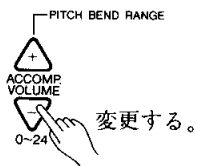


手弾き演奏しながら、ピッチベンドホイールをアップ側に回すと音程が上がり、ダウン側に回すと下がります。

可変範囲を変更するには



どちらかに回しきった状態で



変更する。

- ①ピッチベンドホイールをアップ側最大、またはダウン側最大に回したまま、
 - ②アンプボリューム/ピッチベンドレンジボタンで変更します。
- ※可変範囲を、±半音～±12半音(1オクターブ)のいずれかに変更できます。



可変範囲は±オクターブで、ホイールの方向性が逆になる。

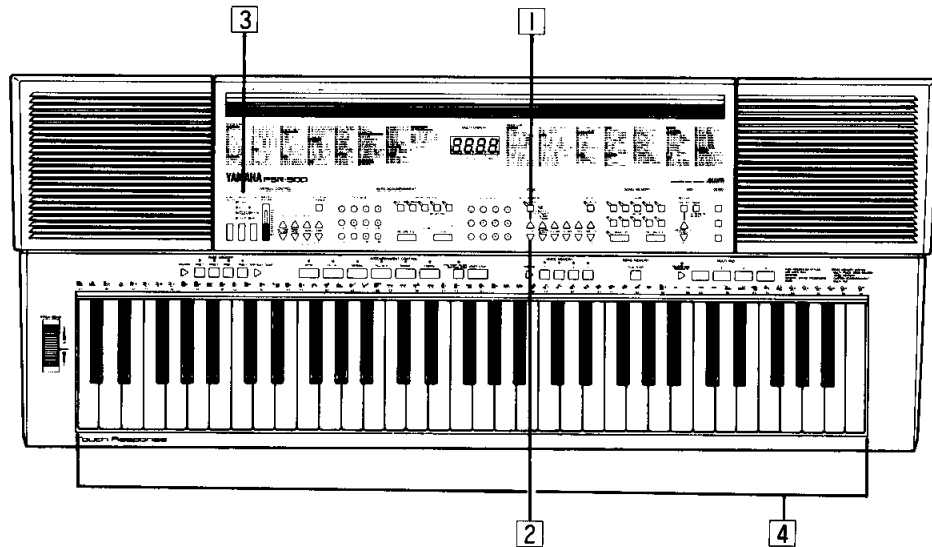
可変範囲は±オクターブで、ホイールの方向性はそのまま。

※マイナスの値を指定した場合は、ピッチベンドホイールのアップ/ダウンの方向性が変わります。(アップ側に回すと音程が下がり、ダウン側に回すと音程が上がるようになります。)

※ピッチベンドホイールをアップ側に最大またはダウン側に最大まで回したまま、アンプボリュームボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、可変範囲が初期値の2(±全音)に戻ります。

2. オートハーモニー

オートハーモニーは、手弾き音に厚みを与える効果です。サビなどの盛り上げたい所でオンにすると、メリハリが付いて効果的です。

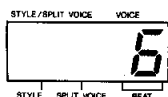
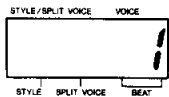
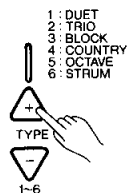


1 オートハーモニーをオンにする



オートハーモニーオン/オフボタンを押してランプを点灯させます。

2 タイプを選ぶ



タイプボタンを押して、タイプを指定します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

1：デュエット

2音のハーモニーになります。(手弾き音よりも音程の低い音が1音付加されます。)

2：トリオ

3音のハーモニーになります。(手弾き音よりも音程の低い音が2音付加されます。)

3：ブロック

ジャズ風のハーモニーになります。(ブロックコードで演奏した時のようになります。)

4：カントリー

カントリー調のハーモニーになります。(手弾き音よりも音程の高い音が1音付加されます。)

5：オクターブ

オクターブユニゾンのハーモニーになります。(1オクターブ下の音が付加されます。)

6：ストラム

弦楽器をストローク奏法で弾いた時のようなハーモニーになります。

3 モードを選ぶ

スプリット、シングルフィンガー、フィンガードのうち、いずれかのモードにします。

4 低音側でコードを押さえ、高音側でメロディーを演奏します。

押さえたコードにもとづいたハーモニーが、高音側メロディーに付加されます。

※オートハーモニーをオンにすると、高音側は最高音だけを検出する状態になります。複数の鍵盤を押さえても、最高音だけが検出されます。

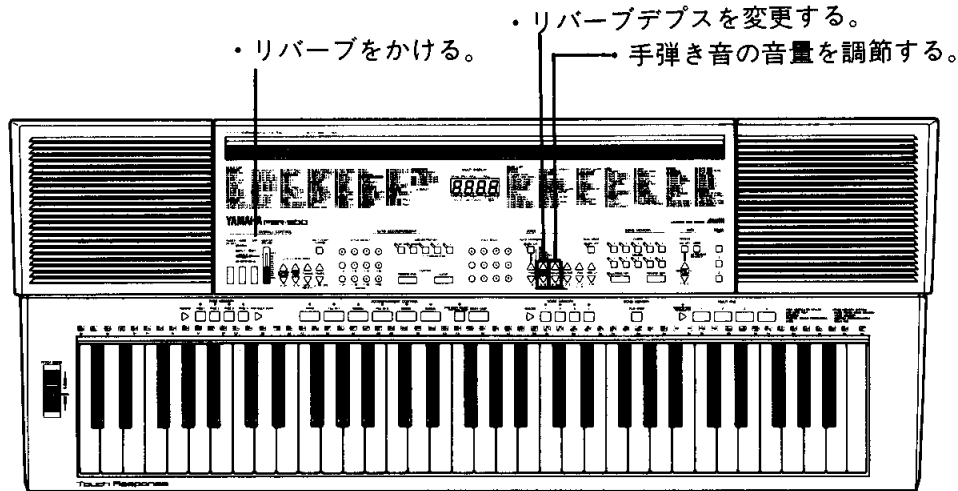
※シングルフィンガー、フィンガード、ソングメモリーのコードトラック再生時は、コードに合わせて手弾き音にハーモニーが付加されます。またスプリットの状態の時は、低音側押鍵に対してコード検出がフィンガード時と同じように行われ、そのコードに合わせて手弾き音にハーモニーが付加されます。コードが検出される前は、ハーモニー音は出ません。

※伴奏(リズム、ベース、オーケストラ)音とスプリット時の低音側の音には、この効果はかかりません。また、デュアルボイスをオンにした時のデュアル音色にも、この効果はかかりません。

※オートハーモニーオン/オフボタンをオンにした後の押鍵音に対して、ハーモニーが付加されます。

※ノーマルモードの場合、ハーモニーは付きませんが、ハーモニーオフ時と同様に複数の鍵盤で演奏できます。

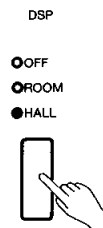
※コードが無い状態にする(52ページ参照)と、ノーマルモードの場合と同様に演奏できますので、通常演奏⇔ハーモニー演奏を瞬時に切り替えることができます。



3. DSP(リバーブ)

DSPはデジタルサウンドプロセッシングの略で、デジタル回路を用いたリバーブ(音に残響を与える)効果のことです。

リバーブをかける



DSPボタンを押して、ルームまたはホールのリバーブ効果をかけます。
ルーム
 響きやすい部屋で弾いた時のような響きが得られます。
ホール
 コンサートホールで弾いた時のような響きが得られます。

リバーブデプスを変更するには



リバーブデプスボタンを押してリバーブの深さを変更します。
 ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。
 ※0(かからない)~15(最も深くかかる)の中で指定できます。



※リバーブデプスボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の6に戻ります。

※リバーブは全てのパート(自動伴奏やソングメモリーも含む)にかかります。ただしパートによって、異なった深さが設定されています。DSPをオフにすると、全てのパートのリバーブがオフになります。またルームやホールにすると、全てのパートのリバーブの種類がそのリバーブタイプになります。リバーブデプスの値を変更すると、手弾き音のみリバーブの深さが変わります。

※スプリット時やデュアルボイス時には、音色ごとにリバーブデプスの値を指定できます。たとえばスプリット+デュアルの状態では各音色のリバーブデプスの値を指定するには、高音側のノーマル、デュアル、低音側のノーマル、デュアルそれぞれの音色を指定した時に、リバーブデプスの値も指定します。(22ページ参照)

4. ボリューム

自動伴奏やソングメモリーなど他の音量を変えないで、手弾き音の音量だけを調節できます。

手弾き音の音量を調節する



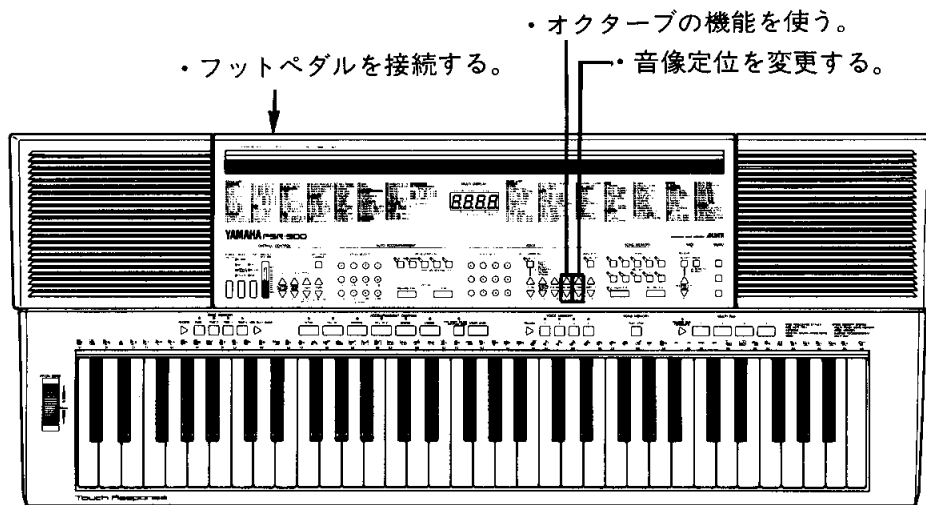
ボイス部のボリュームボタンで調節します。
ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※0(音が出ない)~24(最大)の中で指定できます。



※ボリュームボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の21に戻ります。

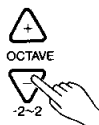
※スプリット時やデュアルボイス時には、音色ごとに音量を指定できます。たとえばスプリット+デュアルの状態では、高音側のノーマル、デュアル、低音側のノーマル、デュアルそれぞれの音色を指定した時に、音量も指定します。(22ページ参照)



5. オクターブ

オクターブの機能を使うことにより、手弾き音の発音をオクターブ単位でずらすことができます。スプリットモード時に低音側や高音側のオクターブを調整したり、デュアル時にデュアル音やノーマル音のオクターブを調整したり、また、鍵盤の最低音より低い音や最高音より高い音が必要な時に役立ちます。

オクターブの機能を使う



オクターブボタンを押して、ずらす量を指定します。ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※-2(2オクターブ下がる)~+2(2オクターブ上がる)の中で、1オクターブ単位で指定できます。



※オクターブボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の0(元の音程のまま)に戻ります。

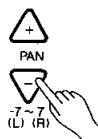
- ※手弾き音にのみオクターブの機能が働きます。
- ※スプリット時やデュアルボイス時には、音色ごとにオクターブの値を指定できます。たとえばスプリット+デュアルの状態では、各音色のオクターブの値を指定するには、高音側のノーマル、デュアル、低音側のノーマル、デュアルそれぞれの音色を指定した時に、オクターブの値も指定します。(22ページ参照)
- ※押鍵中はオクターブを変更できません。

- ※音色には最高音の限界があります。最高音を越えて弾いた場合は、サイン波が発音されます。
- また、C₋₂より低い音を出そうとした時は、その音が1オクターブ上げられて発音されます。G₈より高い音を出そうとした時は、その音が1オクターブ下げられて発音されます。(C₋₂、G₈とは、A₃=440Hzとした時の絶対音程を指します。)

6. パン

手弾き音が左右のスピーカー間のどのあたりから聞こえるようにするか変更できます。

音像定位を変更する



パンボタンで指定します。
ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。
※-7(左スピーカーの位置から聞こえる)~7(右スピーカーの位置から聞こえる)の中で指定できます。



※パンボタンの+ボタンと-ボタンを同時に押すと、標準の0に戻ります。

※手弾き音にのみパン機能が働きます。

※残響音(リバーブ音)の音像定位は、変更できません。

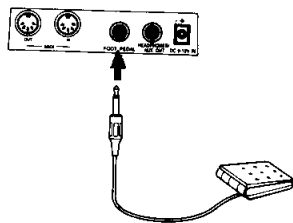
※スプリット時やデュアルボイス時には、音色ごとにパンの値を指定できます。たとえばスプリット+デュアルの状態では各音色のパンの値を指定するには、高音側のノーマル、デュアル、低音側のノーマル、デュアルそれぞれの音色を指定した時に、パンの値も指定します。(22ページ参照)

※設定前から押鍵していた音に対しては、押鍵時のパン設定のまま発音されます。

7. サスティン

ピアノのダンパーペダルと同様に、手弾き音の離鍵後の余韻をのばす機能です。

1 フットペダルを接続する



リアパネルのフットペダル接続用端子に、付属の専用フットペダルを接続します。

※フットペダルを踏みながら、接続したり電源を入れたりしないでください。フットペダルのオン/オフが逆になってしまいます。

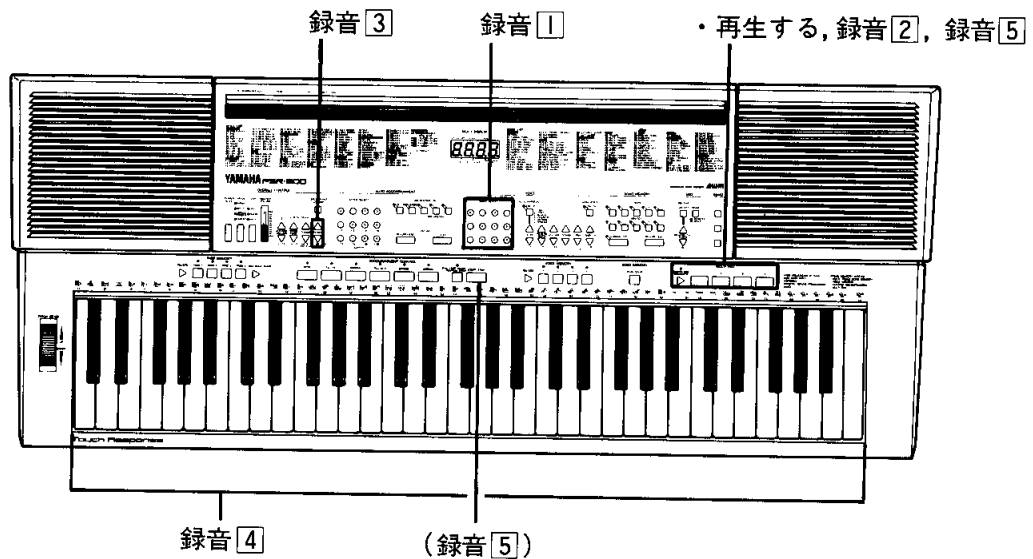
2 持続させる音を弾いた上で、タイミング良くフットペダルを踏む

※手弾き音の離鍵の音にのみサスティン効果がかかります。

※音色番号26のミュートギター、41のマリンバ、99のパークッションなど、一部の音色に対しては、サスティンはかかりません。

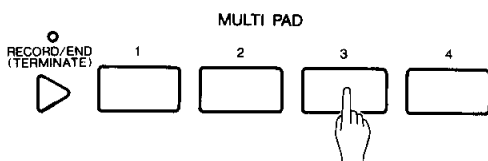
8. マルチパッド

あらかじめ、マルチパッドにフィルインやオブリガート等を録音しておけば、演奏中にマルチパッドを押してそれらの音を付加できます。



再生

再生する



希望するパッドを押して再生させます。

※最後まで再生されると、そこで再生が止まります。

※再生の途中で同じパッドを押すと、最初から再生し直されます。(故意に繰り返し押しても、面白い効果が得られます。)

※2ヶ以上のパッドを押して、いっしょに再生させることもできます。

※テンポを変えると、再生の速さも変わります。

※再生を途中で停止させる場合は、レコード/エンド(ターミネイト)ボタンを押します。

録音

マルチパッドの録音内容を、オリジナルの録音内容に変更できます。

1 音色を選ぶ

録音する音の音色を選びます。もちろんパーカッション系の音色を選ぶこともできます。

※必要に応じてハーモニー、リバーブデプス、音量、オクターブ、パン、デュアルオン、デュアル音色をセットできます。

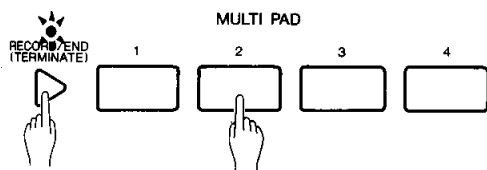
2 録音待機状態に

マルチパッド部のレコード/エンドボタンを押しながら、録音先のマルチパッドを押します。

※この操作をした時点で、録音待機状態(押鍵すると録音が始まる状態)になります。

※この操作をした時点で、メトロノーム音が1拍ごとに鳴り出すと共に、レコード/エンドボタン上のランプも点滅を始めます。

※録音をやめる場合は、再びレコード/エンドボタンを押します。(ここでやめた場合は、前の録音内容は消えません。)



3 テンポを設定する

メトロノーム音を聴きながら、録音しやすいテンポにします。

※再生時は、再生時のテンポで再生されません。

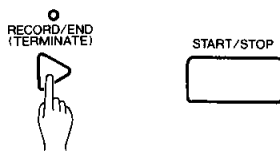
4 録音の開始

鍵盤を弾くか、またはスタート/ストップボタンを押すと録音が始まります。メトロノーム音を聴きながら、録音内容を弾きます。

※ピッチベンドホイールやサステイン機能を使うこともできます。

5 録音の終了

レコード/エンドボタンまたはスタート/ストップボタンを押して録音終了です。



次のデータを録音できます。

- ・ノートオン/オフ(ベロシティ付)
- ・オートハーモニーオン/オフとタイプ
- ・デュアルオン/オフ
- ・音色番号(またはボイスメモリーボタンの番号)
- ・リバーブデプス
- ・ボリューム
- ・オクターブ
- ・パン
- ・ピッチベンド
- ・サステイン

※録音時には、オートハーモニーをオンにしてもハーモニーは付きません。オートハーモニーのオン/オフとタイプのみ録音しておき、再生時にスプリット、シングルフィンガー、フィンガードモードのいずれかにすることにより、ハーモニーが付きます。

※録音容量が一杯になると、録音が強制的に終了します。1つのパッドに約70音符録音できます。

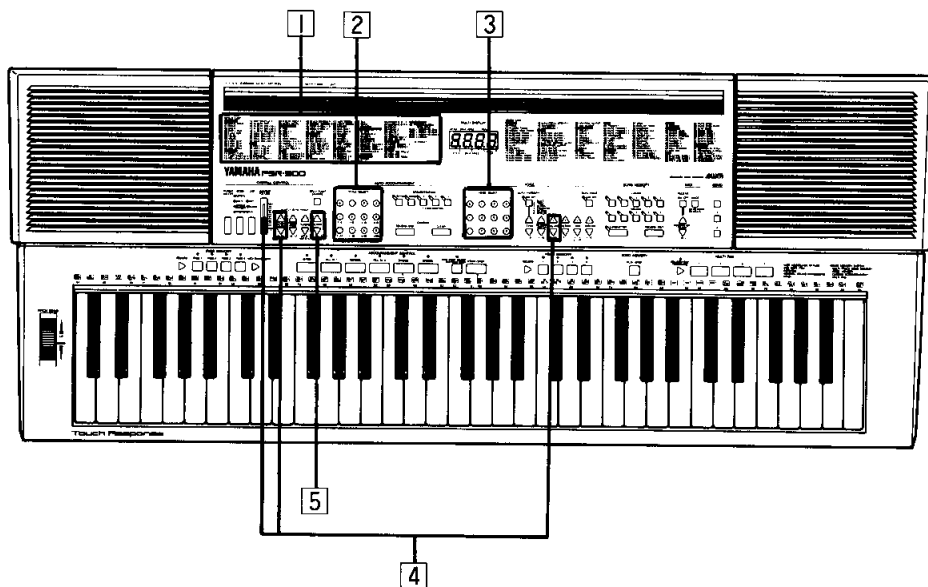
※録音した内容は、ページメモリー機能を使って、さらにページメモリーに記憶されることをお勧めします。ページメモリーに記憶させなければ、ページを変えた時点で消えてしまいます。

5. リズムに合わせて弾こう

1. リズムに合わせて弾く

PSR-500には103種類のリズムスタイルがあります。いろいろなスタイルに切り替えて、リズムに合わせて弾いてみましょう。

※パネルのスタイルリストを見るとスタイル番号は00～99までの100種類ですが、99番のプログラマブル(カスタムスタイル)の所をよく見ると、ページごとに初期内容が異なり、103種類あることが解ります。また、99番のページ1～4の内容は、自分の好みのパターンに変更できます。(パターンの作り方は、55ページ参照)



1 リズムスタイル番号の確認

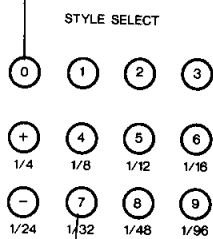
スタイルリストの中から、曲に合うスタイルを見つけます。

2 リズムスタイルの指定

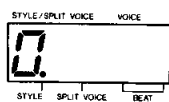
1～0ボタンで指定する場合

例) スタイル番号07のユーロビート1を指定する。

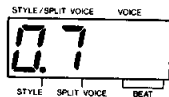
0ボタンを押して、



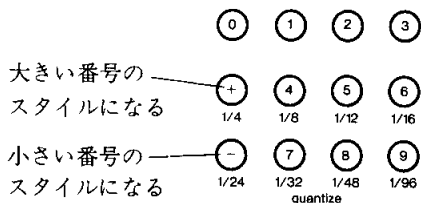
次に7を押す。



↑
リズムスタイルの番号を示していることを意味する点



＋、－ボタンで指定する場合



指定の方法には2種類あります。

10の位のボタンを押したうえで、1の位のボタンを押します。

＋ボタンを押すと1大きい番号のスタイルになり、－ボタンを押すと1小さい番号のスタイルになります。押し続けると連続して変わります。

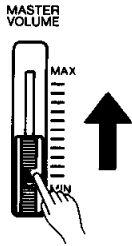
※リズムスタイルにより、パターンの長さが異なります。

3 音色の指定

ボイスセレクトボタンで、手弾き音の音色を指定します。

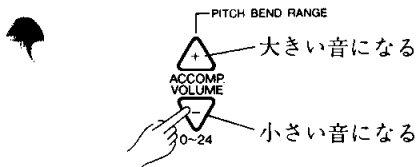
4 音量調節

リズム音と手弾き音の両音量を調節する場合



マスターボリュームで調節します。

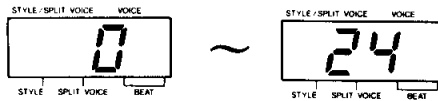
リズム音の音量のみ調節する場合



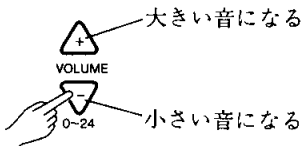
アカンパニメントボリュームボタンで調節します。

ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※0(音が出ない)~24(最大)の中で指定できます。



手弾き音の音量のみ調節する場合



ボイス部のボリュームボタンで調節します。

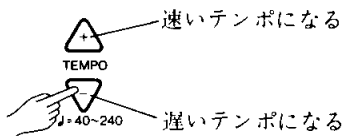
ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※0(音が出ない)~24(最大)の中で指定できます。



※どちらの音量も、+ボタンと-ボタンを同時に押すと標準の21の大きさに戻ります。

5 テンポの調節



リズムの速さをテンポボタンで調節します。演奏しやすい速さに調節してください。

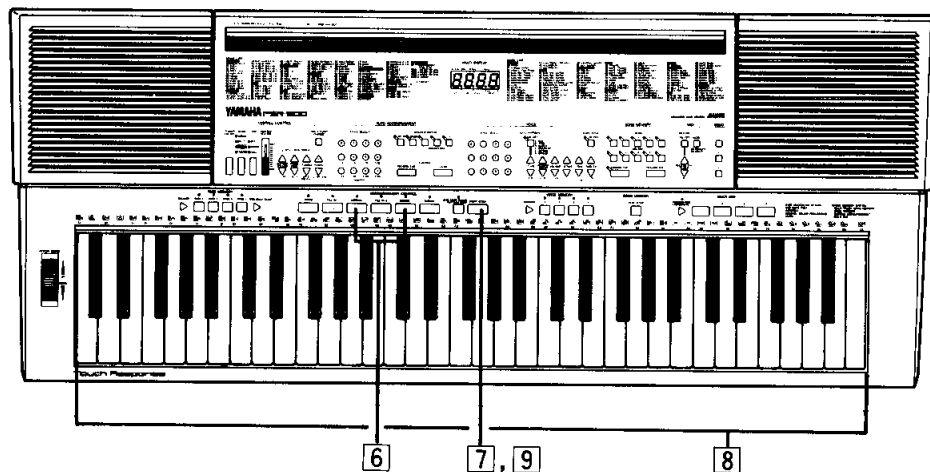
ボタンを押すと、現在値が表示されます。現在値の表示の間にボタンを押すと、値が変更されます。

※40(J=40)~240(J=240)の中で指定できます。



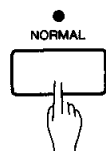
※リズム停止中にリズムスタイルを指定した時、テンポは指定したスタイルの標準テンポにセットされます。

※+ボタンと-ボタンを同時に押すと、そのスタイルの標準テンポに戻ります。

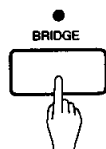


6 ノーマル/ブリッジの選択

基本パターンを先に持ってくる場合



盛り上がりパターンを先に持ってくる場合



選んだリズムスタイルのノーマルパターンを鳴らすか、ブリッジパターンを鳴らすかを決めます。

ノーマルボタンを押します。

ブリッジボタンを押します。

※曲の中で2つのパターンをうまく使い、曲にメリハリをつけましょう。

7 スタート

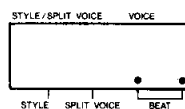


スタート/ストップボタンを押します。

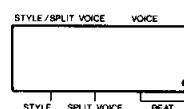
※リズムがすぐにスタートします。

※スタート後、マルチディスプレイ内の点が1拍ごとに点滅します。

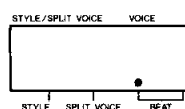
1 拍目



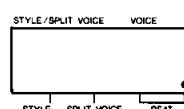
2 拍目



3 拍目



4 拍目



3拍子系のスタイルでは、3拍目の点滅後1拍目に戻ります。

8 演奏

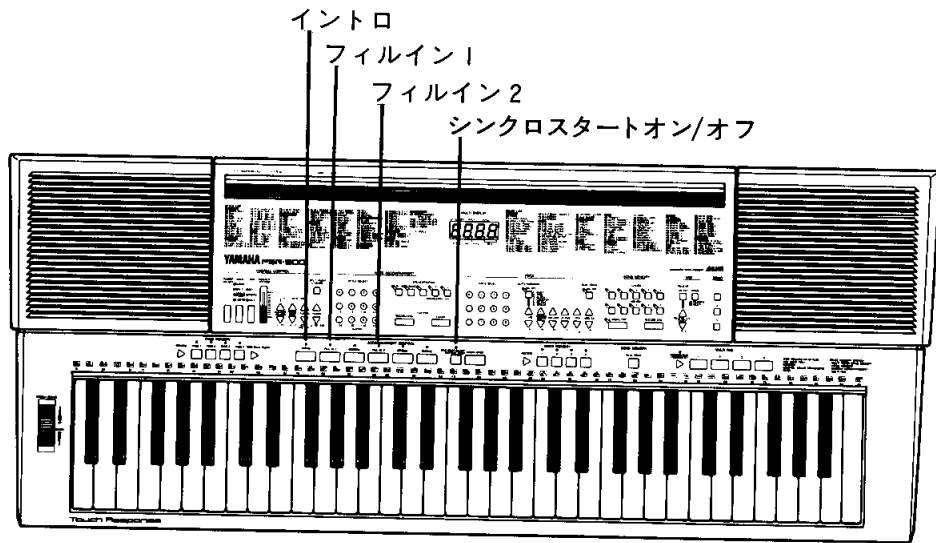
弾いてみましょう。

9 ストップ

スタート/ストップボタンを押します。
※リズムがすぐにストップします。



- ※いろいろなリズムスタイルに切り替えて弾いてみましょう。
- ※演奏中、別のリズムスタイルに切り替えることもできます。この場合、スタイル指定を終えた次の小節から、新しいスタイルに切り替わります。なお、スタイルを切り替えても、切り替え前のテンポが維持されます。



2. シンクロスタート

押鍵と共にリズムをスタートさせることができます。

1 シンクロスタート待機状態にする



シンクロスタートオン/オフボタンを押します。

※シンクロスタートオン/オフボタンのランプと、マルチディスプレイ内の点が一拍ごとに点滅します。

※シンクロスタート待機状態を解除する場合は、もう一度シンクロスタートオン/オフボタンを押します。

※シンクロスタート待機状態であっても、スタート/ストップボタンを押すと、すぐにスタートします。

2 演奏

弾いてみましょう。

※演奏の開始と共に、リズムもスタートします。

※スプリット、シングルフィンガー、フィンガードモードの場合は、低側の鍵盤を押さないとスタートしません。

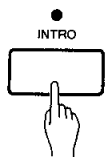
※イントロ、フィルイン1、ノーマル、フィルイン2、ブリッジ、エンディングのパターンからシンクロスタートさせることもできます。

※シンクロスタートオン/オフボタンでも、リズムを止めることができます。シンクロスタートオン/オフボタンを押して止めた場合は、シンクロスタート待機状態になります。

3. イントロ

イントロのパターンからリズムをスタートさせることができます。

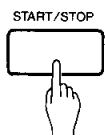
1 イントロスタート待機状態に



イントロボタンを押して、ランプを点灯させます。

※ノーマルボタンまたはブリッジボタンのランプは点滅します。(次のパターンとして待機していることを意味します。)

2 スタート



スタート/ストップボタンを押すか、またはシンクロススタートオン/オフボタンを押してから押鍵します。

※リズムがスタートします。イントロパターンが終わると、ノーマルパターンまたはブリッジパターンに変わります。

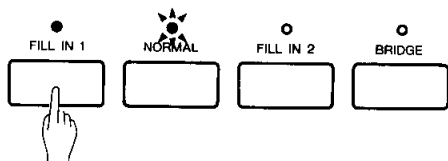
※イントロパターン中にイントロ、ノーマル、ブリッジ、エンディングボタンを押すと、イントロパターンが終わった後にそのパターンに変わります。

※イントロパターンは曲の初めだけでなく、リズムをスタートさせた後(曲の途中)に入れることも可能です。ボタンを押すと、次の小節からイントロパターンが入ります。

※イントロパターンの長さは、リズムスタイルによって異なります。
※イントロパターン中にリズムスタイルを切り替えても、新しいスタイルに変わるのは、現在のイントロパターン終了後です。

4. フィルイン

曲の途中でフィルインパターン(一般的にオカズと言われる変則的なパターン)を入れることができます。



フィルイン1または2ボタンを押します。

※フィルイン1と2では、パターンが異なります。

※ボタンを押した小節の終わりまで、フィルインパターンが入ります。ただし4拍目が過ぎてから押すと、次の小節にフィルインパターンが入ります。

※フィルイン1が終わるとノーマルパターンになり、フィルイン2が終わるとブリッジパターンになりますが、フィルインパターン再生中にノーマルまたはブリッジボタンを押して次のパターンを予約し直すこともできます。

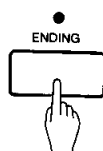
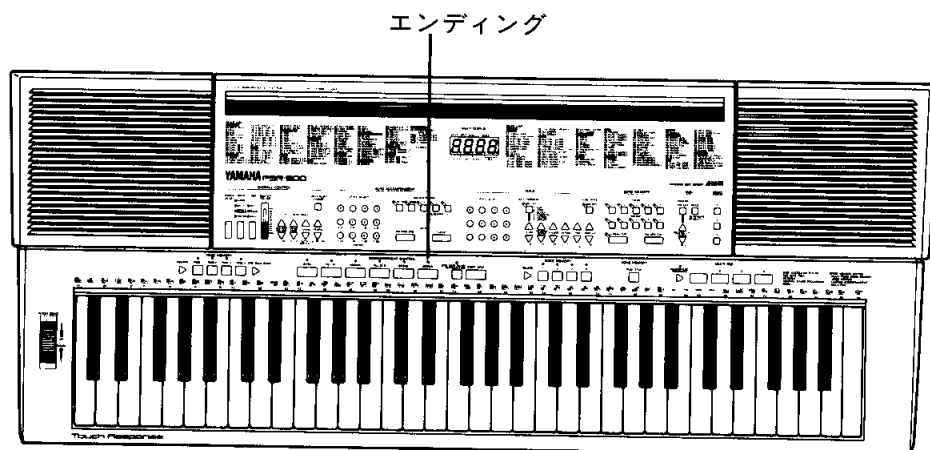
※フィルインボタンを押し続けるとフィルインパターンが繰り返され、ボタンを離すと次の小節からノーマルまたはブリッジパターンになります。

※フィルインパターンから、リズムをスタートさせることもできます。その場合は、フィルイン1ボタンまたはフィルイン2ボタンを押した上で、シンクロススタートまたはスタートの操作をし

てください。フィルインからのシンクロススタート待機中に、フィルイン1の次にブリッジパターンを、またはフィルイン2の次にノーマルパターンを、という逆の予約もできます。

5. エンディング

エンディングのパターンを最後に、リズムをストップさせることができます。



エンディングボタンを押します。

※次の小節の頭からエンディングパターンになり、エンディングパターンが終わるとストップします。

※エンディングパターンに変わるまで、エンディングボタンのランプが点滅します。(次のパターンとして待機していることを意味します。)

※エンディングパターン中にイントロ、ノーマル、ブリッジ、エンディングボタンを押すと、エンディングパターンが終わった後にそのパターンに変わります。

※エンディングパターンの長さは、リズムスタイルによって異なります。

※エンディングパターン中にリズムスタイルを切り替えても、新しいスタイルが有効になるのは、現在のエンディングパターンが終了した後です。

※エンディングパターンから、リズムをスタートさせることもできます。その場合は、エンディングボタンを押してからスタートさせてください。

6. オートアカンパニメント(自動伴奏機能)を活用しよう

1. モードについて

PSR-500には、自動伴奏できるモードとしてシングルフィンガーモードとフィンガードモードがあります。自動伴奏の機能を使えば、自分一人で自動伴奏の各パート(リズム、ベース、オーケストラ)とメロディーパートを弾くことができます。

「これだけのパートを自分一人で弾く。」なんて聞くと、なんだか難しそうだなと思われるかも知れませんが、実はとても簡単です。左手(低音側)でコードを押さえるだけで、リズムに合わせてベース音とオーケストラ音が自動的に鳴ります。ですから、あとは右手でメロディーを弾けば、これだけのパートを自分一人で演奏できてしまうわけです。

シングルフィンガーモードで楽々演奏

一般的なコードの押さえ方をしなくても大丈夫です。コードの押さえ方を良く知らないという人や、慣れていない人でも、このモードなら簡単に自動伴奏させることができます。

たとえばメジャーコードなら指1本で、その他のコードでも2、3鍵押さえるだけでOKです。

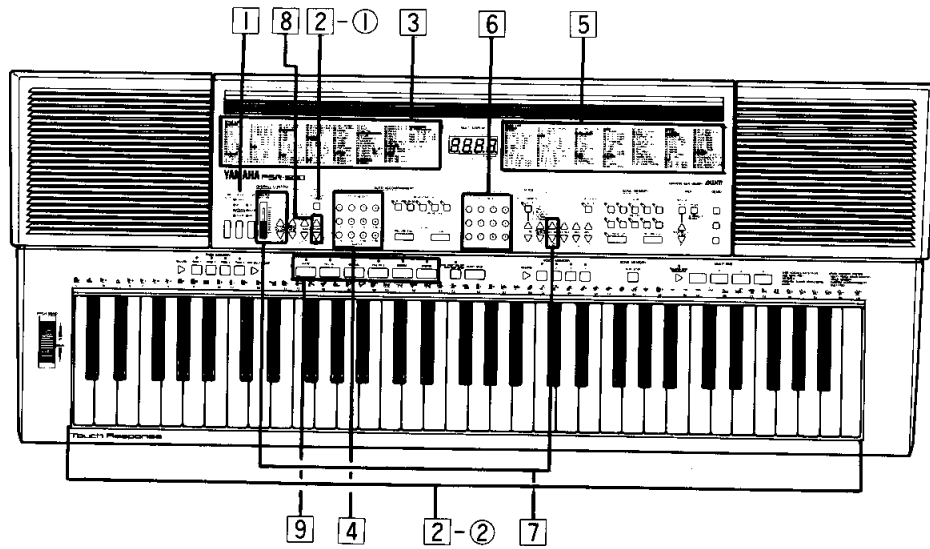
一般的なコードの押さえ方をよく知らないという方や、演奏に慣れていない方に便利です。

フィンガードモードできっちり演奏

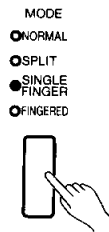
一般的なコードの押さえ方で自動伴奏させることができるため、一般的なコードの押さえ方を知っている方は、むしろこのフィンガードモードで演奏する方が簡単かもしれません。

また、このモードはシングルフィンガーモードに比べて、検出できるコードのタイプが多いため、演奏しようとする曲が持つ本来の微妙な雰囲気表現しやすくなります。

2. シングルフィンガーモードで楽々演奏



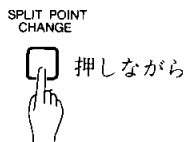
1 シングルフィンガーモードにする



モードボタンを押してシングルフィンガーのランプを点灯させます。

2 スプリットポイントの指定

①



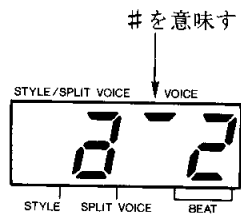
②



スプリットポイントチェンジボタンを押すと、マルチディスプレイに低音側と高音側の境が表示されます。必要であれば、次の方法で、低音側と高音側の境を変更します。

- ①スプリットポイントチェンジボタンを押しながら、
- ②境にする鍵盤(高音側の最低音)を押します。

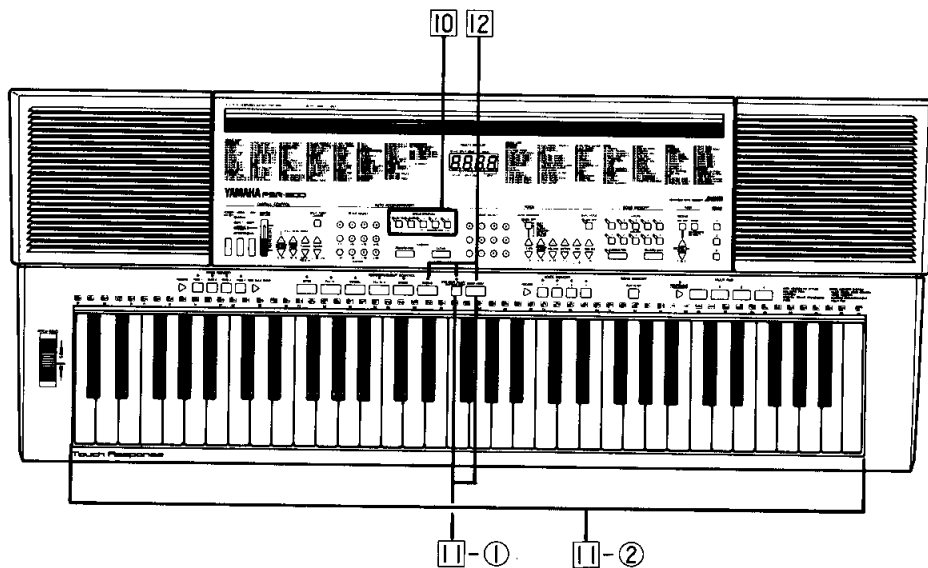
例) A#2をスプリットポイントにした時の表示



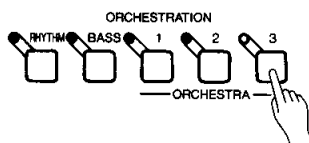
3 伴奏スタイル番号の確認

スタイルリストの中から、曲に合うスタイルを見つけます。

4 伴奏スタイルの指定	スタイルセレクトボタンで、演奏に使うスタイルを指定します。(指定したスタイルの番号が左2桁に表示されます。)				
5 音色番号の確認	ボイスリストの中から、高音側(メロディー)の音色を見つけます。				
6 高音側の音色の指定	高音側の鍵盤を押さえた後、ボイスセレクトボタンで高音側の音色を指定します。 (指定した音色の番号が右2桁に表示されます。)				
7 音量調節 伴奏音と高音側の両音量を調節する場合 伴奏音の音量のみ調節する場合 高音側の音量のみ調節する場合	マスターボリュームで調節します。 アカンパニメントボリュームボタンで調節します。 ※0(音が出ない)～24(最大)の中で指定できます。 ボイス部のボリュームボタンで調節します。 ※0(音が出ない)～24(最大)の中で指定できます。 ※どちらの音量も、+ボタンと-ボタンを同時に押すと標準の21の大きさに戻ります。				
8 テンポの調節	リズムの速さをテンポボタンで調節します。演奏しやすい速さに調節してください。 ※自動伴奏スタート前に伴奏スタイルを指定した時、テンポは指定したスタイルの標準テンポにセットされます。				
9 スタート時のパターンの選択	イントロ、フィルイン1、ノーマル、フィルイン2、ブリッジ、エンディングボタンを押すと、押したボタンのランプが点灯してそのパターンからスタートすることを予告します。ノーマル、ブリッジ以外のボタンを押した場合は、この時、同時にノーマルまたはブリッジボタンのランプが点滅し、2番目のパターンとして待機していることを示します。この状態の時、ノーマルまたはブリッジの点滅していない方のボタンを押して、2番目の待機パターンを変更できます。また、点滅または点灯しているボタンを押すと、ノーマルまたはブリッジの点灯のみになります。 <table border="1" data-bbox="699 1397 1451 1563"> <tr> <td data-bbox="699 1397 1013 1480"> 最初の再生として選べるもの (ランプ点灯) </td> <td data-bbox="1018 1397 1451 1480"> イントロ、フィルイン1、2、ノーマル、ブリッジ、エンディング </td> </tr> <tr> <td data-bbox="699 1487 1013 1563"> 2番目の再生として選べるもの (ランプ点滅) </td> <td data-bbox="1018 1487 1451 1563"> ノーマル、ブリッジ </td> </tr> </table>	最初の再生として選べるもの (ランプ点灯)	イントロ、フィルイン1、2、ノーマル、ブリッジ、エンディング	2番目の再生として選べるもの (ランプ点滅)	ノーマル、ブリッジ
最初の再生として選べるもの (ランプ点灯)	イントロ、フィルイン1、2、ノーマル、ブリッジ、エンディング				
2番目の再生として選べるもの (ランプ点滅)	ノーマル、ブリッジ				



10 パートのオン/オフ



伴奏音の中で鳴らしたくないパートがある場合は、そのパートを指定します。オーケストレーションボタンの中の該当するボタンを押してランプを消灯させてください。

※スタイルによっては、演奏データが入っていないパートもあります。

11 演奏のスタート

シンクロスタートさせる場合

2つのスタート方法がありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

- ①シンクロスタートオン/オフボタンを押します。すると、シンクロスタート待機状態になります。
- ②演奏を開始します。低音側の鍵盤を押すと、自動伴奏が同時にスタートします。

リズムからスタートさせる場合

- ①スタート/ストップボタンを押します。すると、リズムパートのみスタートします。
- ②演奏を開始します。低音側の鍵盤を押すと同時に、残りの自動伴奏のパートが加わります。

※低音側の鍵盤の押し方は、46～48ページ参照。

※フィルインをはじめ、いろいろなパターンを使って演奏を盛り上げましょう。

12 ストップ

エンディングのパターンで停止させる場合

自動伴奏は止めるまで鳴ります。2つの方法がありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

エンディングボタンを押します。

すぐに停止させる場合

スタート/ストップボタン、またはシンクロスタートオン/オフボタンを押します。

シンクロスタートオン/オフボタンで停止させた場合は、シンクロスタート待機状態になります。

※いろいろな伴奏スタイルに切り替えて弾いてみましょう。

※演奏中、別のスタイルに切り替えることもできます。別のスタイルを指定すると、次の小節から切り替わります。なおスタイル

ルを切り替えても、切り替え前のテンポが維持されます。

※スプリットポイントは、スプリット、シングルフィンガー、フィンガードモード別に指定できます。

★シングルフィンガーモードでの低音側の鍵盤の押し方
メジャーコードの場合

根音の鍵盤を押します。たとえばコードCの場合なら、



のように押します。

マイナーコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の黒鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC_mの場合なら、



のように押します。

セブンスコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の白鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC₇の場合なら、



のように押します。

マイナーセブンスコードの場合

根音の鍵盤と、それよりも左側の白鍵(どれでもよい)と黒鍵(どれでもよい)を同時に押します。たとえばコードC_{m7}の場合なら、



のように押します。

※コードを変える時、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離した上で、次の鍵盤を押すようにしてください。

※鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり、コードを変える時だけ押せばOKです。

※スプリットポイントより低音側の鍵盤であれば、根音をどのオクターブの鍵盤で押しても、コード検出されます。

※シングルフィンガーモードでリズムをスタートさせずに低音側鍵盤を押さえると、シングルフィンガーのコード検出ルールに従って、コード音とベース音が発音されます。この時のコード音の音色は、低音側鍵盤を弾いた直後にボイスセレクトボタンを使って変更できます。ベース音色については、現在のスタイルにプリセットされている音色が適用されます。(手弾き音色と同様に、この時のコード音色のリバープ、ボリューム、オクターブ、パンの値をセット可能です。ただし、デュアルボイスは使えません。)

※リズムスタート後の伴奏の音色を変えることはできません。

※伴奏とメロディーを両方鳴らすと、最大同時発音数を越えることがあります。(86ページ参照)

3. シングルフィンガーコード一覧表

検出できるシングルフィンガーコードの一覧表です。

メジャー コード
そのコード名の鍵盤を押します。

C	
C [#] /D ^b	
D	
D [#] /E ^b	
E	
F	
F [#] /G ^b	
G	
G [#] /A ^b	
A	
A [#] /B ^b	
B	

マイナー コード
そのコード名の鍵盤と、左の黒鍵(どれでも良い)を同時に押します。

Cm	
C [#] m/D ^b m	
Dm	
D [#] m/E ^b m	
Em	
Fm	
F [#] m/G ^b m	
Gm	
G [#] m/A ^b m	
Am	
A [#] m/B ^b m	
Bm	

セブンス コード

そのコード名の鍵盤と、左の白鍵(どれでも良い)を同時に押します。

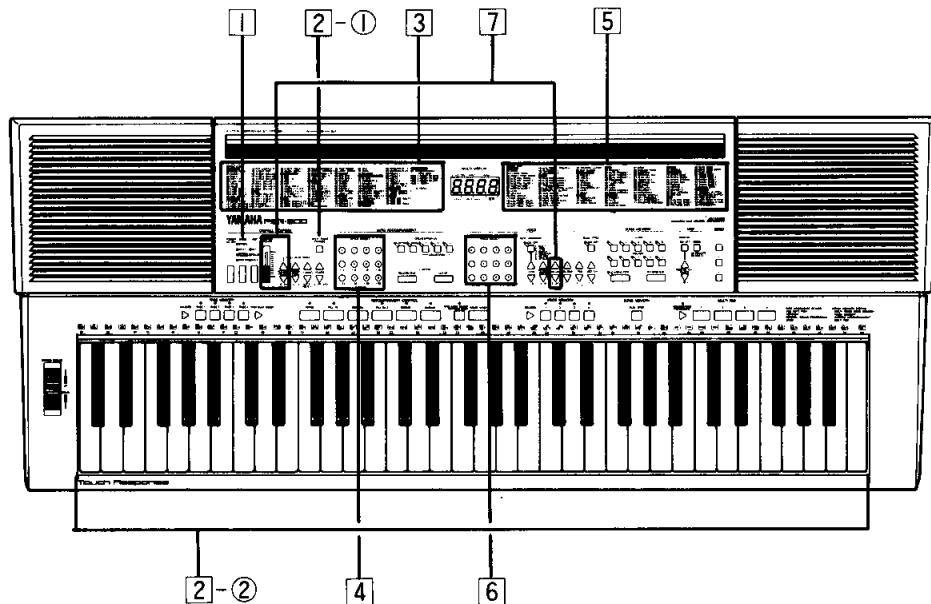
C ₇	
C [#] ₇ /D ^b ₇	
D ₇	
D [#] ₇ /E ^b ₇	
E ₇	
F ₇	
F [#] ₇ /G ^b ₇	
G ₇	
G [#] ₇ /A ^b ₇	
A ₇	
A [#] ₇ /B ^b ₇	
B ₇	

マイナー セブンス コード

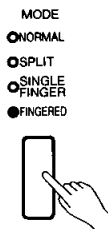
そのコード名の鍵盤と、左の黒鍵(どれでも良い)と白鍵(どれでも良い)を同時に押します。

Cm ₇	
C [#] m ₇ /D ^b m ₇	
Dm ₇	
D [#] m ₇ /E ^b m ₇	
Em ₇	
Fm ₇	
F [#] m ₇ /G ^b m ₇	
Gm ₇	
G [#] m ₇ /A ^b m ₇	
Am ₇	
A [#] m ₇ /B ^b m ₇	
Bm ₇	

4. フィンガードモードできっちり演奏



1 フィンガードモードにする



モードボタンを押してフィンガードのランプを点灯させます。

2 スプリットポイントの指定

①



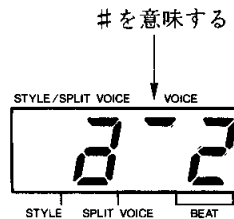
スプリットポイントチェンジボタンを押すと、マルチディスプレイに低音側と高音側の境が表示されます。必要であれば、次の方法で、低音側と高音側の境を変更します。

- ① スプリットポイントチェンジボタンを押しながら、
- ② 境にする鍵盤(高音側の最低音)を押します。

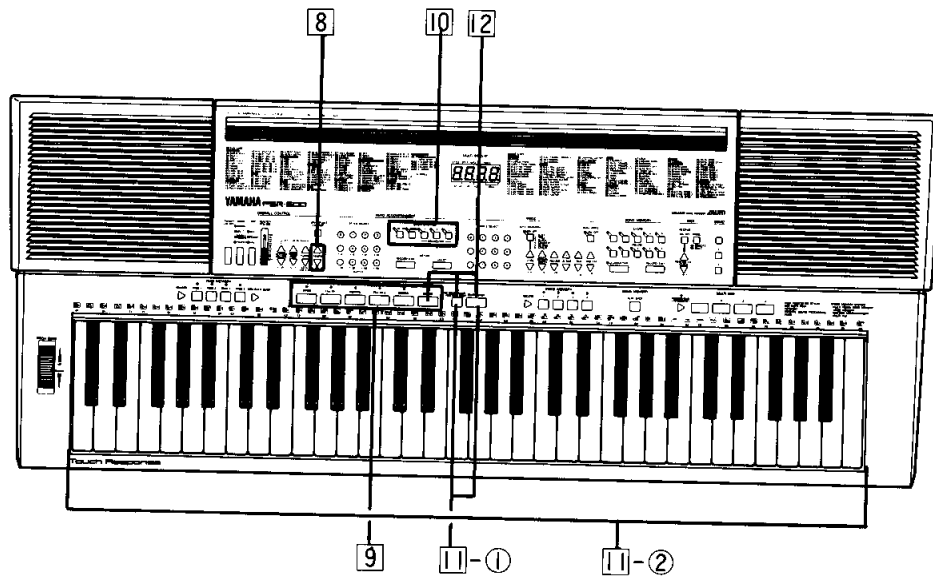
②



例) A#2をスプリットポイントにした時の表示



3 伴奏スタイル番号の確認	スタイルリストの中から、曲に合うスタイルを見つけます。
4 伴奏スタイルの指定	スタイルセレクトボタンで、演奏に使うスタイルを指定します。(指定したスタイルの番号が左2桁に表示されます。)
5 音色番号の確認	ボイスリストの中から、高音側(メロディー)の音色を見つけます。
6 高音側の音色の指定	高音側の鍵盤を押さえた後、ボイスセレクトボタンで、高音側の音色を指定します。 (指定した音色の番号が右2桁に表示されます。)
7 必要に応じて音量調節 伴奏音と高音側の両音量を調節する場合 伴奏音の音量のみ調節する場合 高音側の音量のみ調節する場合	マスターボリュームで調節します。 アカンパニメントボリュームボタンで調節します。 ※0(音が出ない)～24(最大)の中で指定できます。 ボイス部のボリュームボタンで調節します。 ※0(音が出ない)～24(最大)の中で指定できます。 ※どちらの音量も、+ボタンと-ボタンを同時に押すと標準の21の大きさに戻ります。



8 テンポの調節

リズムの速さをテンポボタンで調節します。演奏しやすい速さに調節してください。

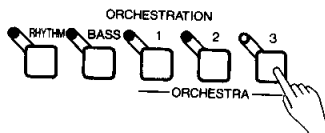
※自動伴奏スタート前に伴奏スタイルを指定した時、テンポは指定したスタイルの標準テンポにセットされます。

9 スタート時のパターンの選択

イントロ、フィルイン1、ノーマル、フィルイン2、ブリッジ、エンディングボタンを押すと、押したボタンのランプが点灯してそのパターンからスタートすることを予告します。ノーマル、ブリッジ以外のボタンを押した場合は、この時、同時にノーマルまたはブリッジボタンのランプが点滅し、2番目のパターンとして待機していることを示します。この状態の時、ノーマルまたはブリッジの点滅していない方のボタンを押して、2番目の待機パターンを変更できます。また、点滅または点灯しているボタンを押すと、ノーマルまたはブリッジの点灯のみになります。

最初の再生として選べるもの (ランプ点灯)	イントロ、フィルイン1、2、ノーマル、ブリッジ、エンディング
2番目の再生として選べるもの (ランプ点灯)	ノーマル、ブリッジ

10 パートのオン/オフ



伴奏音の中で鳴らしたくないパートがある場合は、そのパートを指定します。オーケストレーションボタンの中の該当するボタンを押してランプを消灯させてください。

※スタイルによっては、演奏データが入っていないパートもあります。

11 演奏のスタート

シンクロスタートさせる場合

リズムからスタートさせる場合

2つのスタート方法がありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

- ①シンクロスタートオン/オフボタンを押します。すると、シンクロスタート待機状態になります。
- ②演奏を開始します。低音側の鍵盤を押すと、自動伴奏が同時にスタートします。

- ①スタート/ストップボタンを押します。すると、リズムパートのみスタートします。
 - ②演奏を開始します。低音側の鍵盤でコードを押すと同時に、残りの自動伴奏のパートが加わります。
- ※低音側の鍵盤の押さえ方は、本ページ下記の文章および53、54ページ参照。
- ※フィルインをはじめ、いろいろなパターンを使って演奏を盛り上げましょう。

12 ストップ

エンディングのパターンで停止させる場合

すぐに停止させる場合

自動伴奏は止めるまで鳴ります。2つの方法がありますので、曲調や好みに合わせてお選びください。

エンディングボタンを押します。

スタート/ストップボタン、またはシンクロスタートオン/オフボタンを押します。

シンクロスタートオン/オフボタンで停止させた場合は、シンクロスタート待機状態になります。

※いろいろな伴奏スタイルに切り替えて弾いてみましょう。

※演奏中、別のスタイルに切り替えることもできます。別のスタイルを指定すると、次の小節から切り替わります。なおスタイルを切り替えても、切り替え前のテンポが維持されます。

※スプリットポイントは、スプリット、シングルフィンガー、フィンガードモード別に指定できます。

※鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり、コードを変える時だけ押せばOKです。

※コードを変える時、鍵盤から指を離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離した上で、次の鍵盤を押すようにしてください。

※フィンガードの場合は、次の13種類のコードを検出できます。

(53、54ページの“5.フィンガードコード一覧表”を参照)

- ・メジャー
- ・マイナー
- ・セブンス
- ・マイナー セブンス
- ・メジャー セブンス
- ・マイナー メジャー セブンス
- ・オーギュメント(オーギュメント セブンス)
- ・ディミニッシュ(ディミニッシュ セブンス)
- ・サスフォー
- ・マイナー セブンス フラット ファイブ
- ・セブンス フラット ファイブ
- ・マイナー シックス
- ・セブンス サスフォー

※13種類のコード以外や押鍵ミスの場合は、前のコードが継続されます。

※1オクターブ離れた同じ音を2音同時に押すと、伴奏音は根音だけで鳴ります。また、5度離れた2音を押すと、伴奏音は1度と5度の音だけで鳴ります。


※フィンガードモードでリズムをスタートさせずに低音側鍵盤を押さえ、フィンガードのルールに従ってコード検出されると、現在のスタイルのベース音が発音されます。また、コード検出の有無にかかわらず、低音側押鍵通りにコード音が鳴ります。この時のコード音の音色は、低音側鍵盤を弾いた直後にボイスセレクトボタンを使って変更できます。ベース音色については、現在のスタイルにプリセットされている音色が適当されます。(手弾き音色と同様に、この時のコード音色のリバース、ボリューム、オクターブ、パンの値をセット可能です。ただし、デュアルボイスは使えません。)


※連続した3鍵を同時に押えると、コードが無い状態となり、リズムパートのみ鳴ります。その後コード指定すると、伴奏も鳴ります。


※伴奏とメロディーを両方鳴らすと、最大同時発音数を越えることがあります。(86ページ参照)


5. フィンガードコード一覧表


メジャーコード


C 


C[♯] (D[♭]) 


D 


D[♯] (E[♭]) 


E 


F 


F[♯] (G[♭]) 

G 


G[♯] (A[♭]) 


A 


A[♯] (B[♭]) 


B 


マイナーコード


Cm 

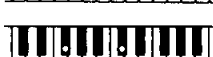
C[♯]m (D[♭]m) 


Dm 


D[♯]m (E[♭]m) 


Em 


Fm 

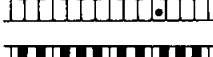
F[♯]m (G[♭]m) 

Gm 


G[♯]m (A[♭]m) 


Am 


A[♯]m (B[♭]m) 


Bm 


セブンスコード


C₇ 


C[♯]₇ (D[♭]₇) 


D₇ 


D[♯]₇ (E[♭]₇) 


E₇ 


F₇ 


F[♯]₇ (G[♭]₇) 

G₇ 


G[♯]₇ (A[♭]₇) 


A₇ 


A[♯]₇ (B[♭]₇) 


B₇ 


マイナーセブンスコード


Cm₇ 


C[♯]m₇ (D[♭]m₇) 


Dm₇ 


D[♯]m₇ (E[♭]m₇) 


Em₇ 


Fm₇ 


F[♯]m₇ (G[♭]m₇) 

Gm₇ 


G[♯]m₇ (A[♭]m₇) 


Am₇ 


A[♯]m₇ (B[♭]m₇) 


Bm₇ 


メジャーセブンスコード


CM₇ 

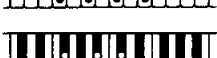
C[♯]M₇ (D[♭]M₇) 


DM₇ 


D[♯]M₇ (E[♭]M₇) 


EM₇ 


FM₇ 


F[♯]M₇ (G[♭]M₇) 

GM₇ 


G[♯]M₇ (A[♭]M₇) 


AM₇ 


A[♯]M₇ (B[♭]M₇) 


BM₇ 


マイナーメジャーセブンスコード


CmM₇ 

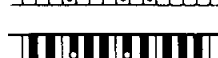
C[♯]mM₇ 


DmM₇ 


D[♯]mM₇ 

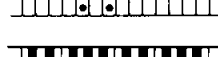
EmM₇ 

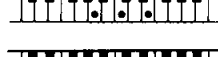
FmM₇ 

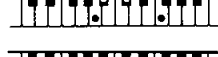
F[♯]mM₇ 

GmM₇ 

G[♯]mM₇ 


AmM₇ 


A[♯]mM₇ 


BmM₇ 


オーギュメントコード


(オーギュメントセブンスコード)


Caug 

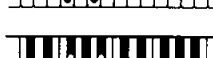
C[♯]aug (D[♭]aug) 


Daug 


D[♯]aug (E[♭]aug) 

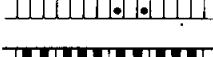
Eaug 


Faug 


F[♯]aug (G[♭]aug) 

Gaug 

G[♯]aug (A[♭]aug) 


Aaug 


A[♯]aug (B[♭]aug) 


Baug 


ディミニッシュコード


(ディミニッシュセブンスコード)


Cdim 


C[♯]dim (D[♭]dim) 


Ddim 


D[♯]dim (E[♭]dim) 


Edim 


Fdim 


F[♯]dim (G[♭]dim) 

Gdim 


G[♯]dim (A[♭]dim) 


Adim 


A[♯]dim (B[♭]dim) 


Bdim 


サスフォーコード


Csus₄ 


C[♯] sus₄
(D[♭] sus₄) 


Dsus₄ 


D[♯] sus₄
(E[♭] sus₄) 


Esus₄ 


Fsus₄ 


F[♯] sus₄
(C[♭] sus₄) 

Gsus₄ 


G[♯] sus₄
(A[♭] sus₄) 


Asus₄ 


A[♯] sus₄
(B[♭] sus₄) 


Bsus₄ 


マイナーセブンスフラット
ファイブコード


Cm₇⁻⁵ 


C[♯] m₇⁻⁵
(D[♭] m₇⁻⁵) 


Dm₇⁻⁵ 


D[♯] m₇⁻⁵
(E[♭] m₇⁻⁵) 


Em₇⁻⁵ 


Fm₇⁻⁵ 


F[♯] m₇⁻⁵
(G[♭] m₇⁻⁵) 

Gm₇⁻⁵ 


G[♯] m₇⁻⁵
(A[♭] m₇⁻⁵) 


Am₇⁻⁵ 


A[♯] m₇⁻⁵
(B[♭] m₇⁻⁵) 


Bm₇⁻⁵ 


セブンスフラットファイブ
コード


C₇⁻⁵ 


C[♯]₇⁻⁵
(D[♭]₇⁻⁵) 


D₇⁻⁵ 


D[♯]₇⁻⁵
(E[♭]₇⁻⁵) 


E₇⁻⁵ 


F₇⁻⁵ 


F[♯]₇⁻⁵
(G[♭]₇⁻⁵) 

G₇⁻⁵ 


G[♯]₇⁻⁵
(A[♭]₇⁻⁵) 


A₇⁻⁵ 


A[♯]₇⁻⁵
(B[♭]₇⁻⁵) 


B₇⁻⁵ 


マイナーシックスコード


Cm₆ 


C[♯] m₆
(D[♭] m₆) 


Dm₆ 


D[♯] m₆
(E[♭] m₆) 


Em₆ 


Fm₆ 


F[♯] m₆
(G[♭] m₆) 

Gm₆ 


G[♯] m₆
(A[♭] m₆) 


Am₆ 


A[♯] m₆
(B[♭] m₆) 


Bm₆ 


セブンスサスフォーコード


C₇ sus₄ 


C[♯]₇ sus₄
(D[♭]₇ sus₄) 


D₇ sus₄ 


D[♯]₇ sus₄
(E[♭]₇ sus₄) 


E₇ sus₄ 


F₇ sus₄ 


F[♯]₇ sus₄
(G[♭]₇ sus₄) 

G₇ sus₄ 

G[♯]₇ sus₄
(A[♭]₇ sus₄) 

A₇ sus₄ 

A[♯]₇ sus₄
(B[♭]₇ sus₄) 

B₇ sus₄ 

※ここに示すものは全て基本形ですが、次の例外を除き、全ての転回形も受け付けます。

- ・オーギュメント、ディミニッシュセブンスは、押鍵の最低音を根音とみなします。
- ・セブンスフラットファイブは、押鍵の最低音を根音またはb7とみなします。
- ・マイナーシックスは、押鍵の最低音が根音の場合のみ受け付けます。

※演奏する曲のコードを確認し、低音側に必要な鍵盤範囲をあらかじめ確保してください。(□付きのコードは、スプリットポイントを切り替える必要があります。)

6. カスタムスタイルのパターンを作る

カスタムスタイルであるスタイル番号99の伴奏パターンを、好みの伴奏パターンに変更できます。

伴奏トラックは、

リズム、

ベース、

オーケストラ1

オーケストラ2(トラックA/Bに分割)、

オーケストラ3(トラックA/Bに分割)、

の7トラックあり、それぞれ

イントロ、

フィルイン1、

ノーマル、

フィルイン2、

ブリッジ、

エンディングの6パターンあります。

つまり7トラック×6パターン＝42トラックの中から、トラックを指定して変更できることになります。

※変更した42トラックを1セットとして、ページメモリーのページ1～4に1セットずつメモリーできます。(73ページ参照)

※初期状態では、各ページにスタイル番号99として次のパターンが録音されています。(初期化については82ページ参照)

ページ1；デモンストレーション1用の伴奏パターン、

ページ2；デモンストレーション2用の伴奏パターン、

ページ3；デモンストレーション3用の伴奏パターン、

ページ4；ランバダの伴奏パターン

なお、ページ1～ページ3の伴奏パターンを変更しても、デモ演奏の再生ができなくなることはありません。

※リズムトラックのパターン変更時は、音色番号94～99(パーカッション音色)のいずれかを指定できます。

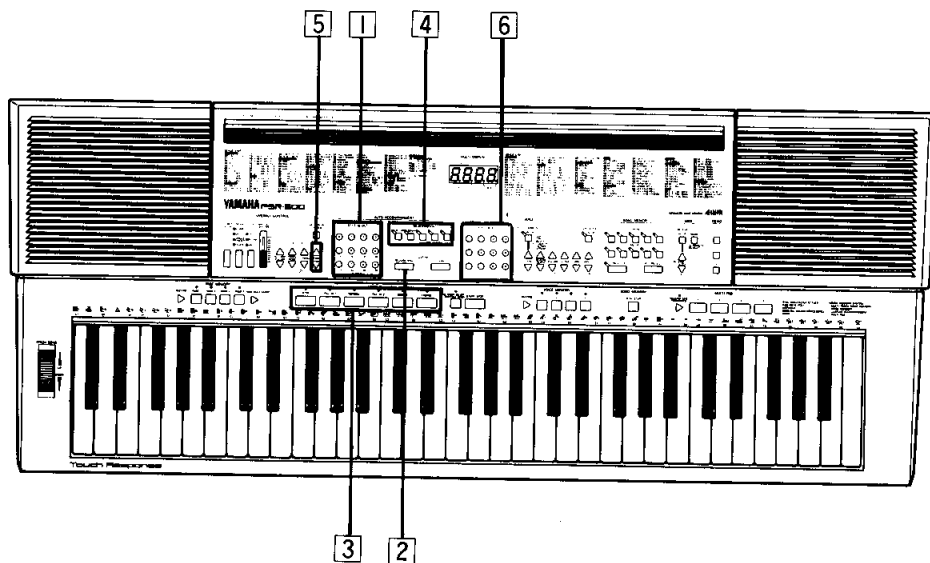
※ベーストラックは、ベース用に特殊な音程変換がされますので、なるべくベースパートのトラックとして使用してください。

※その他のパートは、パーカッション音色も含めてどの音色でもかまいません。

※パターンは、コードCの時のものを入力してください。他のコードへPSR-500が自動的に変換します。

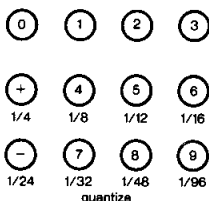
※音色番号94～99(パーカッション音色)および76(シンセタム)を入力した場合は、他のコードへ変換されません。また、カスタム再生時にリズムのみ再生させると、これらの音色で発音されます。ただし、パーカッション音色以外のデュアル音側に使用した場合は、コード変換されます。

※パーカッション音色以外で入力した場合は、自動的に他のコードへ変換されます。ただし、パーカッション音色のデュアル音側に使用した場合は、コード変換されません。



1 流用するスタイルを指定

STYLE SELECT



スタイル00～99の中で、流用するスタイルを選びます。

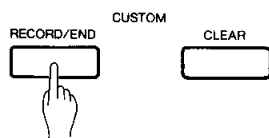
※基本的に、カスタムスタイルのパターンは白紙の状態から作成するのではなく、流用するパターンを選び、それを変更してカスタムスタイルのパターンにする方法をとります。

※流用するパターンがなくて、白紙の状態から作成する方が都合が良い場合も、とりあえず何らかのスタイルを指定してください。(後で流用パターンを消去して、白紙の状態にできます。)

※ワルツ(3/4)のパターンを元に4拍子のパターンを作ったり、12/8拍子のパターンを元に8ビートのパターンを作るというようなことは、かなり困難ですので、拍子を考慮して指定してください。

※流用するスタイルにより、パターンの長さが異なります。

2 カスタム録音を可能に

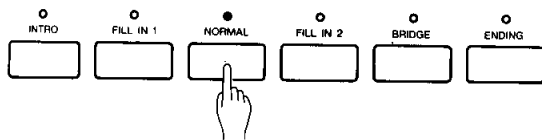


カスタム部のレコード/エンドボタンを押して、カスタム録音を可能にします。

※マルチディスプレイのスタイル表示が99になります。

※アカンパニメントコントロールの6つのボタンのランプが点滅し始めます。

3 変更するパターンを指定



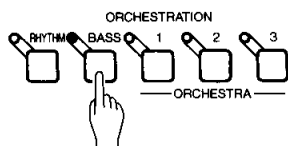
アカンパニメントコントロール部のボタンの中で、変更するパターンのボタンを押します。

※指定したパターンのボタンが点灯状態になると共に、指定したパターンがコードCで繰り返し鳴り始めます。

※パターン再生と同時にクリック音が鳴りますが、これは入力の目安にするための音で、録音されません。

※オーケストレーションの5つのボタンのランプが点滅し始めます。

4 変更するトラックを指定



オーケストレーションボタンの中で、変更するトラックのボタンを押します。

※指定したトラックのボタンが点灯状態に変わり、そのトラックの音が強調されます。ここでもう1回同じボタンを押すとトラック指定は解除され、全体がバランスのとれた音量に戻ります。

※オーケストラ2と3は、1つのパートに2トラック分の演奏が入っています。ボタンを1回押すとトラックA、もう1回押すとトラックB、さらにもう1回押すと解除されます。

※トラックの指定時には、そのトラックで使用されている音色番号が表示されます。

※押鍵中にトラックを変更することはできません。

5 テンポを指定

録音しやすい速さにします。

※指定した速さに変わります。テンポは録音の最終段階で変更できるため、録音しやすい速さでかまいません。

(操作10の前に、実際のテンポに戻してください。)

6 音色を指定

指定したトラックの音色を、ボイスセレクトボタンで変更できます。

※指定トラックの音色だけが、変更した音色に切り替わります。

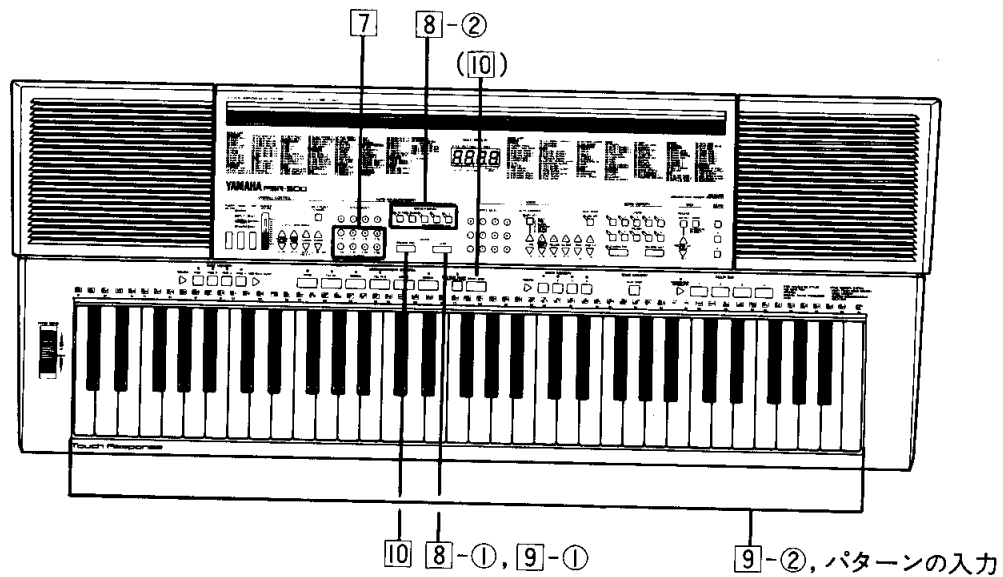
※リバーブデプス、ボリューム、パンの設定も変更できます。

※デュアルボイスオンにすることもできます。

※オートハーモニーも使用可能です。

※音色およびその周辺の設定(上記参照)は、同一トラックの全てのパターンに対して共通の設定になります。ひとつのパターン内で変更すると、同一トラックの他パターンの設定も変更されます。

ただし、他パターン内に音色変更データが入っている場合は、必ずしも変更されません。



7 クオンタイズを指定



押鍵のタイミングのバラツキを補正するように、クオンタイズを設定しておくことができます。

1/4~1/96の中で指定できます。入力する音符の最短音符の長さに合わせ、該当するセレクトボタンを押してください。するとマルチディスプレイ左2桁にクオンタイズ値が表示されます。たとえば最短音符が16分音符の場合は、1/16のボタンである6ボタンを押します。

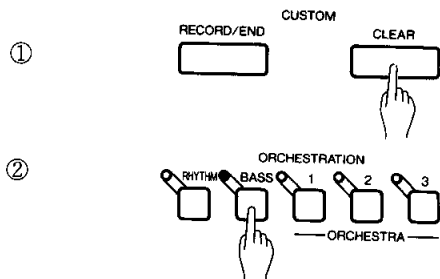
※1/4：4分、1/8：8分、1/12：3連8分、1/16：16分、1/24：3連16分、1/32：32分、1/48：48分、1/96：96分

※クオンタイズを設定する前は、1/96になっています。

※これから入力する音に対してのみ補正されます。

※クオンタイズを最短音符よりも長い値に設定すると、音符が思ったより短くなったり、長くなったりします。適切なクオンタイズ値を選んで録音してください。

8 白紙の状態から作成する場合は



現在鳴っているパターンを流用せずに、白紙の状態から作成する場合は、

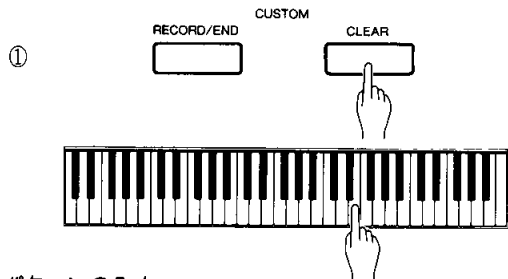
①クリアボタンを押しながら、

②該当するオーケストレーションボタン(現在のトラックのボタン)を押します。

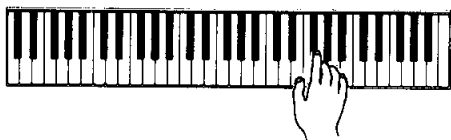
※鳴っていたパターンが消去されて、音がなくなります。

9 演奏

余分な音を1音単位で消去する場合は



パターンの入力



現在鳴っているトラックの中で、特定の音程の音を消去したい場合は、

- ①クリアボタンを押しながら、
- ②消去したい音程の鍵盤を押してください。

※この方法は、特にリズムパートを作成する時に、楽器別に消去できるため便利です。

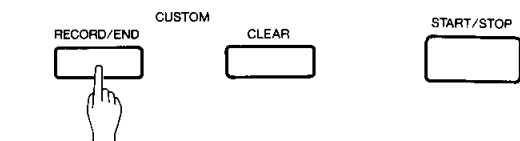
鍵盤を押してパターンを入力します。パターンは繰り返されますので、パターンの最初から最後まで1回で入力する必要はありません。少しずつ加えていくことができます。

※リズムパート以外は、コードCの時のパターンを入力してください。(再生時には、コードCのパターンを元に他のコードが転回され再生されます。)

※ベロシティ(押鍵の強弱)付きで入力できます。

※ピッチベンド、サステイン効果も使えます。

10 録音の終了



カスタム部のレコード/エンドボタンまたはスタート/ストップボタンを押して、カスタム録音を終了します。

※押鍵中にストップさせることはできません。

※メモリー容量は、イントロ、フィルイン1、2、ノーマル、ブリッジ、エンディング込みで、1スタイルあたり約1,600音符です。

※録音中のパターンのメモリーが一杯になると、[End]と表示された後、強制的にそこで録音が終了します。(終了した時点までは録音されています。)

※お気に入りのパターンが完成したら、必ずページメモリーに記憶させてください。(73ページ参照)

ページメモリーに記憶させる前にページメモリーを選ぶと、せっかく録音したパターンが消えてしまいます。

ページメモリーに記憶させた場合、それまでのページメモリーのデータは、新しいもの書き換わります。

※電源アダプターを外したり、乾電池を抜いて10分以上放置するか、または初期化すると、ページメモリーした後も初期状態のパターンに戻ってしまいます。(初期化については82ページ参照)

※カスタムスタイルは、内蔵スタイルより、やや簡単なフォーマットを採用しています。内蔵スタイルのパターンをカスタムスタイルに取り込む時に、内部でフォーマットの変換を行うため、少しパターンが書き換わることがあります。

※ノートオン/オフをベロシティ付で録音できます。さらに次のデータも録音できます。

- ・テンポ(録音終了時の値)を1スタイルあたり1つ
- ・オートハーモニーとタイプ(録音終了時の値)を1トラックに1つずつ(全パターン共通)
- ・音色番号(またはボイスメモリーボタンの番号)を1トラックに1つずつ(全パターン共通)
- ・リバーブデプス、ボリューム、パン、デュアル音の音色番号を1トラックに1つずつ(全パターン共通)
- ・ピッチベンド操作、サステイン操作

※たくさんの音を入力した場合、再生音の音のリリース(余韻)が短くなる場合があります。

7. レッツプレイ

それでは、これまでの説明を参考に、実際に曲を弾いてみましょう。

曲はビートルズの“Let it be”です。演奏モードはシングルフィンガー、フィンガードのどちらでも可能です。左手でコードを押さえながら、右手でメロディーを弾きましょう。

※ボイスメモリー1~4に、音色やオートハーモニーの設定を記憶させておきます(72ページ参照)。ボイスメモリー2および3は、デュアルボイスオンの状態です。

スタート前の設定

モード：シングルフィンガーまたはフィンガード

オーケストレーション全パートオン

スタイル：26(ソフト8ビート3)

ボイスメモリー1：03(エレクトリックピアノ1)

オートハーモニーオン、タイプ2(トリオ)

” 2：12(エレクトロニックオルガン1)+

77(ファンタジー1)、

オートハーモニーオフ

” 3：35(ストリングス1)+40(ピブラフォン)、

オートハーモニーオフ

” 4：00(ピアノ)、オートハーモニーオン、

タイプ2(トリオ)

シンクロスタート：オン

アカンパニメントコントロール：ノーマル

テンポ：♩=64

LET IT BE

レット・イット・ビー

Words & Music by John Lennon and Paul McCartney

ボイスメモリー1

C G Am F C G F C

ボイスメモリー2

C G Am F C G F C

フィルイン2
ボイスメモリー3

C G Am F C G F C

Am G F C C G F

Am G F C C G F C

ボイスメモリー 4

F C G F C F C G F C

エンディング

© 1970 by NORTHERN SONGS LTD.
 ALL rights reserved. Used by permission.
 Rights for Japan assigned to MCA MUSIC K.K., c/o NICHION, INC.
 日本音楽著作権協会(出)許諾第9170651-101号

7. ソングメモリーを活用しよう

1. 10個の録音トラックについて

PSR-500には、自動伴奏(コード進行)録音用に5トラック、メロディー等の録音用に5トラックあります。これらのトラックを使うことにより、録音した内容を再生させながら手弾き演奏したり、録音内容を組み合わせて1曲に仕上げるなど、多彩なプレイを楽しむことができます。

コード1~5の各ボタンに録音できる内容

それぞれのボタン(トラック)に、自動伴奏(コード進行)を録音できます。具体的には、操作のタイミングも含めて下記の内容を録音できます。

- ・低音側でのコード演奏情報
- ・イントロ、フィルイン1、ノーマル、フィルイン2、ブリッジ、エンディングボタン操作
- ・オーケストレーションボタンのオン/オフ操作
- ・スタイル選択操作
- ・テンポの設定操作(録音開始時の設定値のみ)
- ・伴奏のボリューム設定値(録音開始時の設定値のみ)
- ・メロディー1~5ボタンのオン/オフ操作

メロディー1~5の各ボタンに録音できる内容

操作のタイミングも含めて、下記の内容を録音できます。

- ・演奏情報(押鍵の強さも含めて)
- ・音色選択操作(ボイスメモリーボタン操作も含む)
- ・ピッチベンドホイールの操作
- ・サスティンオン/オフ
- ・デュアルボイスの設定操作(音色選択とオン/オフ)
- ・オートハーモニーの設定操作(タイプ選択とオン/オフ)
- ・リバーブデプス
- ・ボイス部のボリューム設定操作
- ・オクターブの設定操作
- ・パンの設定操作
- ・マルチパッドの再生開始/終了操作

2. 録音の方法

録音の前に

録音したい曲が決まったら、録音の前に、10個のトラックの使い分けと録音の順番を想定しておきます。

たとえば次のような流れの曲があったとします。

[A] [B] [A] [C]

このような場合、A、B、Cそれぞれのコード進行とメロディーを個別に録音して、後でコンタクターの機能を使い連結すれば、曲に仕上がります。(69ページ参照)

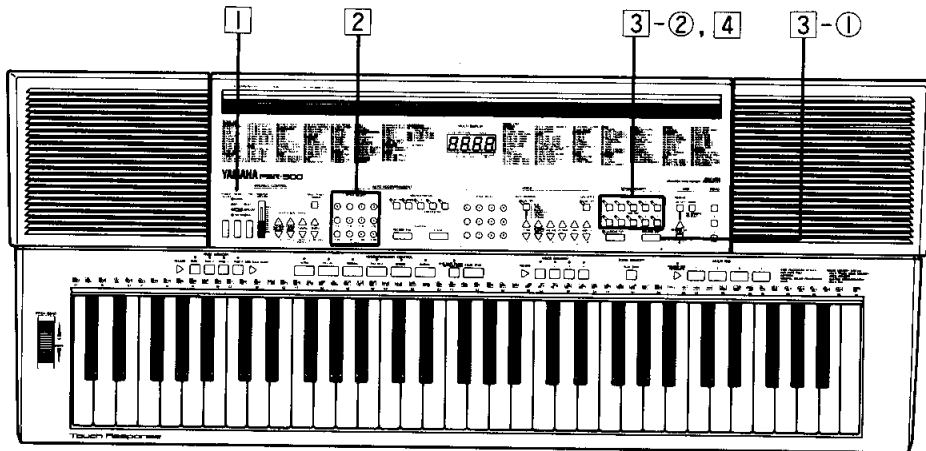
録音の順番(例)

- ①A部のメロディーをメロディー1に録音する。
- ②A部のコード進行をコード1に録音する。
- ③B部のメロディーをメロディー2に録音する。
- ④B部のコード進行をコード2に録音する。
- ⑤C部のメロディーをメロディー3に録音する。
- ⑥C部のコード進行をコード3に録音する。
- ⑦連結する。

	[A]	[B]	[A]	[C]
	↓	↓	↓	↓
コード	1	2	1	3
メロディー	1	2	1	3

※もちろん、コード進行とメロディーをそれぞれのトラックに同時に録音することも可能です。

メロディートラックへの録音



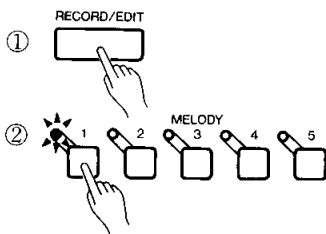
1 演奏モードを指定

どのモードで録音するか指定します。
 ※スプリット、シングルフィンガーおよびフィンガードモード時の低音側鍵盤の演奏は録音されません。

2 伴奏スタイルを指定

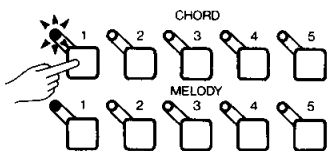
リズムスタイルを指定します。必要に応じてテンポも指定してください。
 ※スタイル番号やテンポ値は記憶されません。メロディー演奏しやすいスタイル、テンポにしてください。

3 録音待機状態に

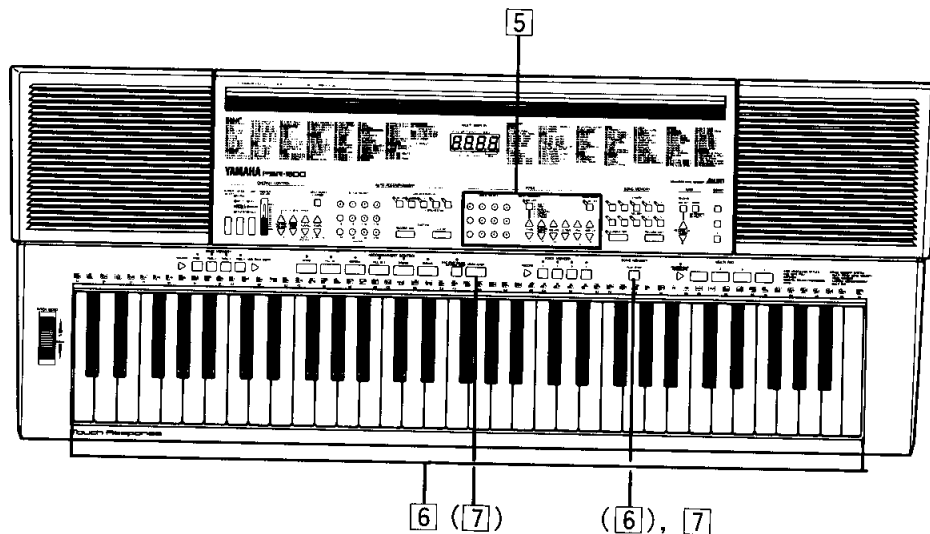


①レコード/エディットボタンを押しながら、
 ②メロディー1~5いずれかのボタンを押します。
 ※この操作をした時点で、録音待機状態(押鍵と同時に録音が始まる状態)になり、メトロノーム音が1拍ごとに鳴り出すと共に、押した番号のメロディーボタンが高速で点滅します。
 ※この時点で録音を中止する場合は、録音待機状態にしたトラックのボタンを押します。
 ※複数のトラックに同時に録音することはできません。

4 再生トラックを指定する



すでに録音済みのトラックを聞きながら録音する場合は、再生させるトラックのボタンを押して指定します。
 ※再生トラックは記憶されません。
 ※再生トラックは低速で点滅します。
 ※コードトラックは1つだけ、メロディートラックは複数指定して再生させることが可能です。



5 音色等を指定

音色番号を指定します。(ボイスメモリーボタンによる呼び出しも可能です。)
 ※必要に応じて、オートハーモニー、リバーブデプス、ボリューム、オクターブ、パンの設定もします。
 ※録音スタート後の設定変更も記憶されます。

6 録音スタート

演奏と同時に録音スタートさせる場合

演奏を始めます。
 ※録音がスタートします。

無録音部分を持たせる場合

ソングメモリー一部のプレイ/ストップボタンを押して、リズムをスタートさせます。無録音部分にする拍数だけ聞いたら、演奏を開始してください。

SONG MEMORY

PLAY/STOP



7 録音の終了

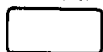
ソングメモリー一部のプレイ/ストップボタンを押して、録音を終了させます。
 ※エンディングボタンまたはスタート/ストップボタンを押しても終了します。

SONG MEMORY

PLAY/STOP



START/STOP



※録音容量が一杯になると、“End”の表示の後、録音が強制的に終了します。ただし“End”表示されるまでのデータは、全て録音されています。

※録音容量は1トラックあたり約700音符です。

※録音済みのトラックに録音しなすと、そのトラックの前の内容は消えます。

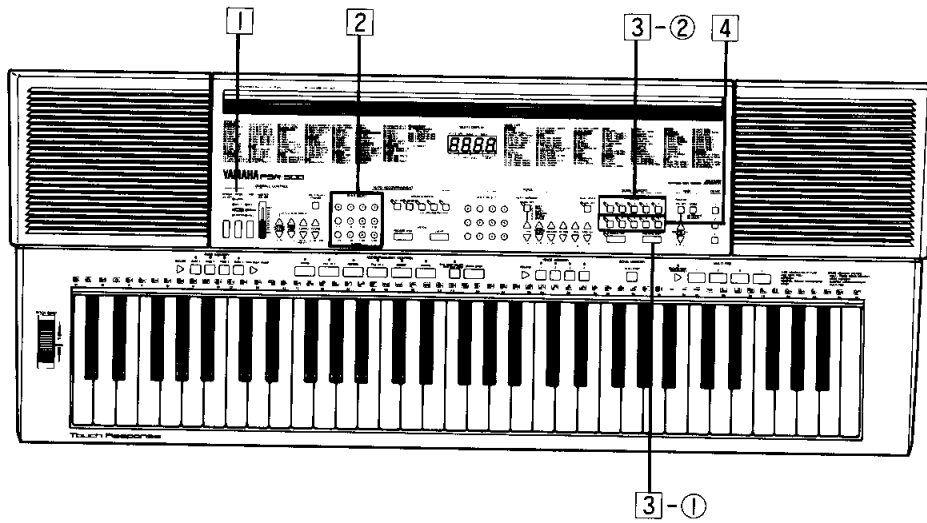
※録音した内容は、ページメモリー機能を使って記憶されることをお勧めします。(73ページ参照)
ソングメモリーに記憶させても、ページメモリーに記憶させなければ、ページを変えた時点で消えてしまいます。

※電源アダプターを外したり、乾電池を抜いて約10分以上放置したり、初期化すると、全てのトラック内容が消えます。(82ページ参照)

※リズム音が不要な時は、オーケストレーションのリズムボタンをオフにしてください。ただし、メロディトラックにリズムのオフを記憶させることはできません。(コードトラックに記憶させることはできます。)

※ボイスメモリーを使ってメロディトラックを録音した場合、そのトラックのエディット中は、ボイスメモリーの記憶内容(音色番号、ボリューム値など)を変更することはできません。

コードトラックへの録音



1 演奏モードを指定

シングルフィンガーで録音するか、フィンガードで録音するか指定します。
※必要であれば、スプリットポイントを変更します。

2 伴奏スタイルを指定

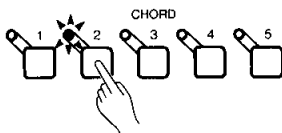
リズムスタイルを指定します。必要に応じてテンポも指定してください。
※録音中のスタイル番号の変更は記憶されます。テンポは録音開始時のものが記憶されます。

3 録音待機状態に

①

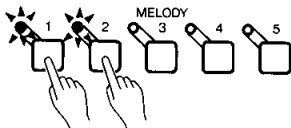


②



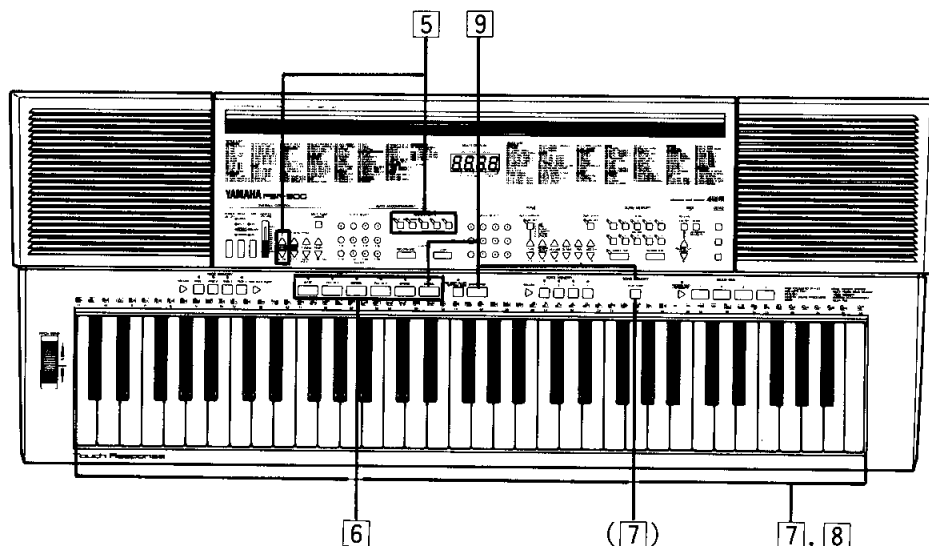
①レコード/エディットボタンを押しながら、
②コード1~5いずれかのボタンを押します。
※この操作をした時点で、録音待機状態(コードを押すと同時に録音がスタートする状態)になります。
※この操作をした時点で、メトロノーム音が1拍ごとに鳴り出すと共に、押した番号のコードボタンが高速で点滅します。
※操作1でシングルフィンガーモードにした場合以外は、この時点で自動的にフィンガードモードに設定されます。録音待機状態になるとノーマルやスプリットモードに変えることはできません。また、録音をスタートさせるとモード変更は一切できません。

4 組み合わせるメロディートラックを指定する



再生させるメロディートラックのボタンを押すことにより、メロディートラックの再生音を聞きながら、コードトラックを録音することができます。また、この時のメロディートラックのオン/オフは、コードトラックに記憶されます。

※押したメロディートラックが、低速で点滅します。
※ソングメモリー部のレコード/エディットボタンを押しながら、メロディートラックのボタンを押すと、高音側の演奏(メロディー)も録音状態になります。(メロディー&コード同時録音)



5 伴奏音量等を指定

必要に応じて伴奏音量の指定や、オーケストレーションのオン/オフ指定もしてください。

※オーケストレーションについては、録音スタート後の設定変更も記憶されます。

6 スタート時のパターンを指定

イントロ、フィルイン1、ノーマル、フィルイン2、ブリッジ、エンディングの中で最初のパターンを決めます。ボタンを押してください。

※録音スタート後の操作も記憶されます。

7 録音スタート

コード演奏と同時に録音スタートさせる場合

コード演奏を始めます。
※録音が始まります。

リズムのみ先にスタートさせる場合



ソングメモリー部のプレイ/ストップボタンを押して、リズムのみ先にスタートさせることができます。リズムのみにする拍数だけ聞いたら、コード演奏を開始します。

8 演奏の開始

コードを押さえると自動伴奏音が鳴り出します。曲の流れにそってコードを押さえていってください。

9 録音の終了

エンディングを最後に終了させる場合

エンディングボタンを押して、録音を終了させます。
※エンディングパターンで終了させると、そのコード進行の再生は繰り返されなくなります。

エンディングを入れないで終了させる場合



ソングメモリー部のプレイ/ストップボタンを押して、録音を終了させます。
※小節の途中でプレイ/ストップボタンを押して終了させても、再生時はその小節の終わりまで再生が続きます。
※この方法で終了させた場合の再生時には、最後まで再生されると頭に返って再生されます。(エンディング中にプレイ/ストップボタンで終了させた場合も、再生は繰り返されます。)

※録音容量が一杯になると、“End”の表示の後、録音が強制的に終了します。ただし“End”表示されるまでのデータは、全て録音されています。コードメモリーの容量は、1トラックあたり約150コードです。

※録音済みのトラックに録音しなおすと、そのトラックの前の内容は消えます。

※録音した内容は、ページメモリー機能を使って記憶されることをお勧めします。(73ページ参照)

ページメモリーに記憶させなければ、ページを変えた時点で消えてしまいます。

※電源アダプターを外したり、乾電池を抜いてから約10分以上経過したり、初期化すると、全てのトラックの内容が消えます。(82ページ参照)

録音内容の変更(エディット)

必要に応じて、録音したデータをトラックごとに変更できます。

コードトラックの中で変更可能なデータ

アカンパニメントボリューム
テンポ

※トラックごとに初期設定を書き換えることができます。何度でもやり直すことができ、いちばん最後の値に書き換えられます。

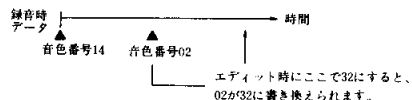
メロディトラックの中で変更可能なデータ

- ・音色切替操作(録音されたボイスメモリー番号の変更)
- ・ピッチベンドホイールの操作
- ・オートハーモニー、リバーブデプス、ボリューム、オクターブ、パン操作

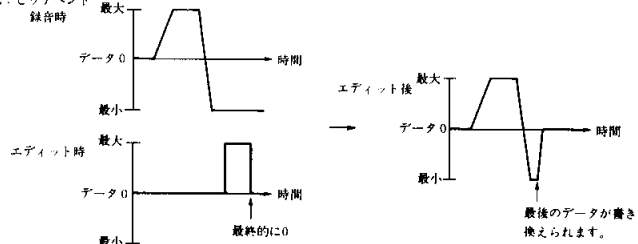
※各値を変更すると、録音の際の変更時点にさかのぼって書き換えられます。何度でもやり直すことができ、それぞれの範囲内でいちばん最後の値に書き換えられます。

※ボイスメモリーのオン/オフの設定変更はできません。

例1: 音色番号



例2: ピッチベンド



1 希望するトラックを修正可能状態に

- ①レコード/エディットボタンを押しながら、
 - ②メロディー1~5、コード1~5ボタンのうち、修正したいトラックのボタン1つを2回押します。
- ※押したトラックのランプが、最低速で点滅します。

2 エディットスタート

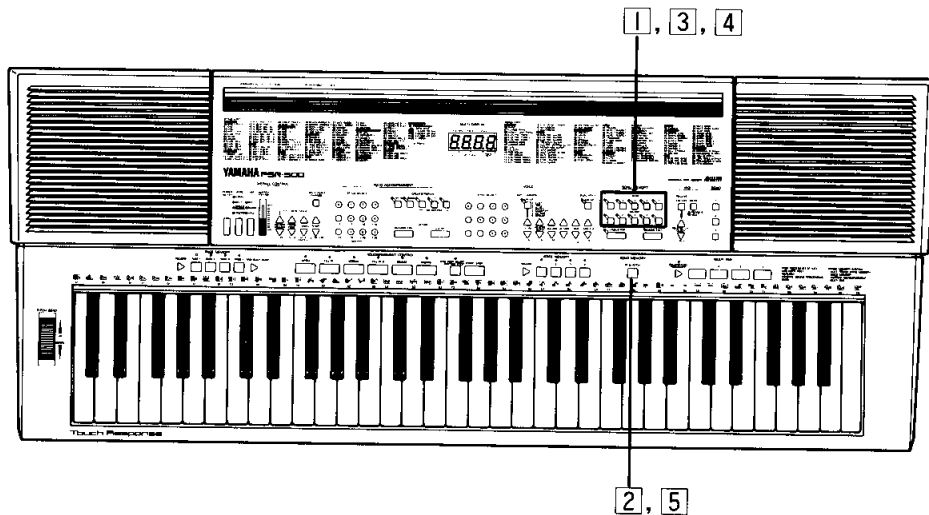
プレイ/ストップボタンを押すと再生がスタートします。再生音を聞きながらデータを変更できます。(上記の“録音内容の変更”を参照)

3 エディット終了

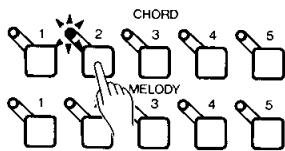
プレイ/ストップボタンを押してエディットを終了します。

3. 再生の方法

各トラックに録音したコード進行やメロディーを、好みの順序でリアルタイム再生させることができます。なお、メロディーについては2つ以上のトラックをいっしょに再生させることもできます。



1 スタート時の再生トラックを指定



コード1~5の中のいずれか1つと、メロディー1~5の中のいずれか(複数選択も可)を押します。

※コードボタン、メロディーボタンのどちらかだけでもかまいません。

※押したトラックのランプが低速で点滅します。

※再生待機状態になります。

2 再生スタート

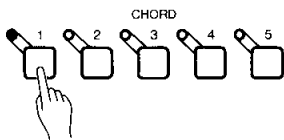


ソングメモリー部のプレイ/ストップボタンを押すか、または演奏を開始します。

※どちらの方法でも再生がスタートします。

※再生に合わせて演奏してみましょう。

3 他のコードボタンを押すと



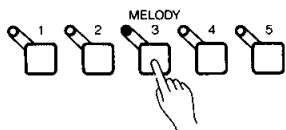
ボタンを押した次の小節から、押したボタンのコード進行に移ります。

※次小節までは点滅、再生になると点灯に変わります。

※コード再生は、最後まで再生されると、自動的にそのコード再生の頭に戻ります。ただし、エンディングパターンで終了している場合は、繰り返されずに自動停止します。

※再生中のコードボタンを押すと、最後のコードのままリズムが止まらずにコードメモリーの再生が終了し、以前のモードに戻ります。以前のモードがシングルフィーガーまたはフィンガードなら、続けて下鍵盤でコード指定できます。

4 他のメロディーボタンを押すと



ボタンを押した次の小節から、押したボタンのメロディーが加わります。
※次小節までは点滅、再生になると点灯に変わります。
※メロディー再生は、最後まで再生されるとそこで終わりです。ただし、メロディー再生の終了が、コード進行の再生を強制的に終了させることはありません。
※再生中のメロディーボタンを押すと、消灯に変わってそのメロディーの再生はそこで停止します。

5 再生の終了

ソングメモリー部のプレイ/ストップボタンを押して、再生を停止させます。

自動伴奏中にソングメモリーを再生させる

自動伴奏(リズムだけの場合も含む)中に、ソングメモリーを再生させることができます。

メロディートラック

自動伴奏(リズムだけの場合も含む)中に、1つでも、複数でも再生可能です。ちょっとしたリフやバックギングパターンを再生させると演奏が盛り上がります。

希望するメロディーボタンを押す

押したメロディーボタンのランプが点滅し、そのトラックの録音内容が、次の小節から1回だけ再生されます。
※再生中のメロディーボタンを押すと、そのトラックの再生のみ中止されます。

コードトラック

自動伴奏(リズムだけの場合も含む)中に、特定の部分だけをコードメモリーに任せて、両手弾きをすることが可能です。

希望するコードボタンを押す

押したコードボタンのランプが点滅し、そのトラックの録音内容が、次の小節から再生されます。
※再生中のコードボタンを押すと、そのトラックの再生のみ中止され、元の自動伴奏(またはリズム)の状態に戻ります。ただし、スタイル、アカンパニメントボリューム、テンポ、オーケストレーション、アカンパニメントコントロールの設定は、中止させたコードボタンのもので継続されます。

※スプリットモードになっていた場合以外は、コードトラックの再生中は自動的にノーマルモードになります。

4. 再生の順番設定

各ボタンに録音したコード進行やメロディーを連結させて、1曲に仕上げることができます。

連結の例

リアルタイム再生時と同じように、2つ以上のメロディートラックを重ねることもできます。

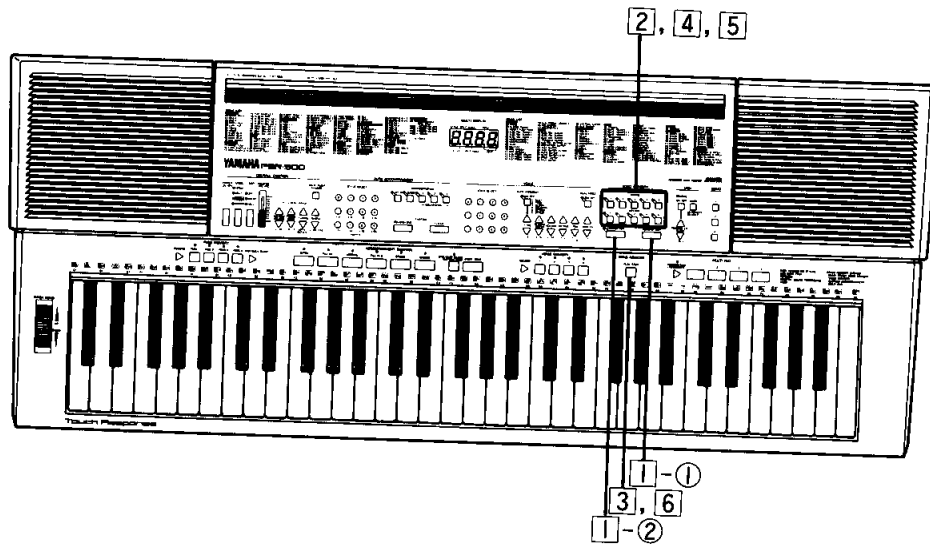
コード	コード1		コード2	コード3
メロディー	メロディー1	メロディー2	メロディー3	メロディー4
			メロディー5	

連結録音できる内容

コンダクターボタンに、操作のタイミングも含めて下記の内容を録音できます。

- ・コード1~5ボタンのオン/オフ操作
- ・メロディー1~5ボタンのオン/オフ操作

連結のしかた



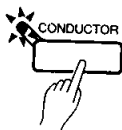
1 連結録音を可能に

①



①ソングメモリー部のレコード/エディットボタンを押しながら、

②



②コンダクターボタンを押します。

※録音済みのトラックのランプが、一齐に低速で点滅します。(連結の対象になるトラックであることを意味します。)

※録音済みでないトラックのランプは消灯しています。

2 スタート時のトラックを指定	<p>コード1~5の中のいずれか1つと、メロディー1~5の中のいずれか(複数押しも可)を押します。</p> <p>※連結録音の待機状態になります。</p> <p>※コードボタン、メロディーボタンのどちらかだけでもかまいません。</p> <p>※押したトラックのランプが点灯します。</p> <p>※ここで連結を中止させる場合は、コンダクターボタンを押します。</p>
3 連結録音スタート	<p>ソングメモリー部のプレイ/ストップボタンを押すか、または演奏を開始します。</p> <p>※どちらの方法でも連結録音がスタートします。(再生させた通りに録音されます。)</p> <p>※演奏音は録音されません。</p>
4 他のコードのボタンを押すと	<p>ボタンを押した次の小節から、押したボタンのコード進行に移ります。</p> <p>※次小節までは点滅、再生になると点灯に変わります。</p> <p>※コード再生は、最後まで再生されると、自動的にそのコード再生の頭に戻ります。ただし、エンディングパターンが最後の場合は、繰り返されずに録音が自動終了します。(エンディングで終了させたくない場合は、エンディング中にスタート/ストップボタンまたはソングメモリー部のプレイストップボタンで終了させた録音をしておいてください。)</p>
5 他のメロディーのボタンを押すと	<p>次の小節から、押したボタンの再生が加わります。</p> <p>※次小節までは点滅、再生になると点灯に変わります。</p> <p>※メロディー再生は、最後まで再生されるとそこで終わりです。ただし、メロディー再生の終了が、コード進行の再生を強制的に終了させることはありません。</p> <p>※再生中のメロディーボタンを押すと、消灯に変わってそのメロディーの再生はそこで停止します。</p>
6 録音の終了	<p>ソングメモリー部のプレイ/ストップボタンを押して、録音を終了させます。</p>

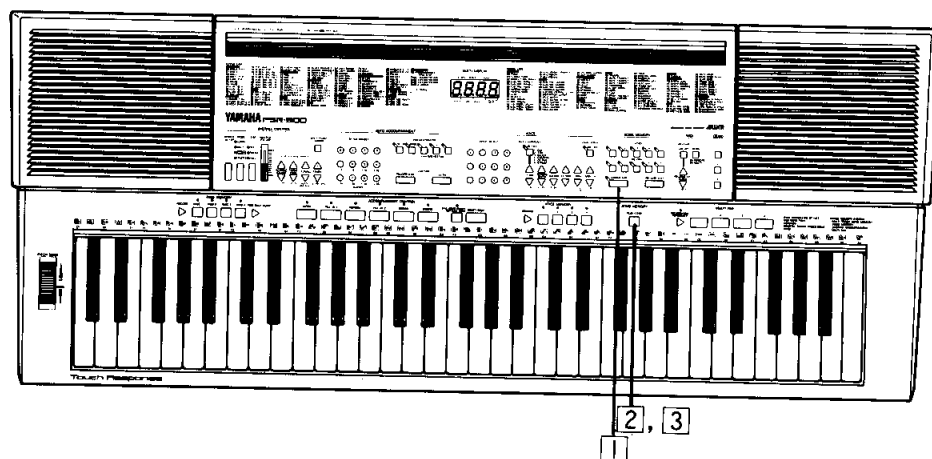
● 連結録音の容量は、オン/オフそれぞれ1イベントとして数え約200イベントです。容量一杯になると、“End”の表示の後、連結録音が強制的に終了します。ただし“End”表示されるまでは録音されています。

※連結録音した内容は、ページメモリー機能を使って記憶されることをお勧めします。(73ページ参照)

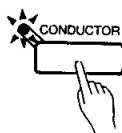
※電源アダプターを外したり、乾電池を抜いて約10分以上放置したり、初期化すると、連結録音の内容が消えます。(82ページ参照)

連結させたものを再生

連結させて仕上げた曲を再生させてみましょう。



1 連結再生を可能に



ソングメモリー一部のコンダクターボタンを押します。
※コンダクターボタンのランプが、低速で点滅します。
(連結再生の待機状態であることを意味します。)

2 連結再生スタート

ソングメモリー一部のプレイ/ストップボタンを押すか、または演奏を開始します。
※どちらの方法でも連結再生がスタートします。(連結録音時の再生通りに、再生されます。)
※連結再生に合わせて演奏できます。
※コンダクターボタンのランプが、点滅から点灯に変わります。

3 連結再生の終了

最後まで連結再生されると、自動的に停止します。
※連結再生を途中で停止させる場合は、ソングメモリー一部のプレイ/ストップボタンを押します。すると、すぐに停止します。

8. その他の機能

1. ボイスメモリー

指定した音色番号を、ボイスメモリー部の設定と合わせて、ボイスメモリーボタン1~4にそれぞれ記憶させることができます。なお、ページ1~4それぞれに、ボイスメモリー機能がありますので、ボイスメモリー4種類×ページメモリー4ページ=16種類記憶させることができます。

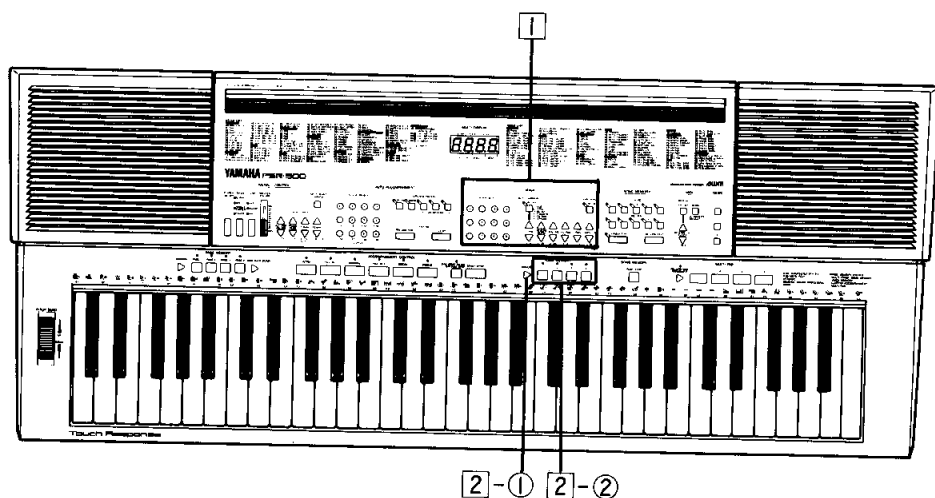
※曲の流れに合わせた設定を、ボイスメモリー1~4に記憶させましょう。演奏しながら設定を変えるわずらわしさが、最小限で済むようになります。

記憶させることができる内容

ボイスメモリー1~4の各ボタンに、下記の内容を記憶させることができます。

- ・音色番号
- ・デュアルオン/オフ
- ・デュアル時のデュアル音色番号
- ・スプリット時の低音側音色番号
- ・スプリット+デュアル時の低音側デュアル音色番号

- ・オートハーモニーのオン/オフ
- ・オートハーモニータイプ
- ・リバーブデプス値(高音側/低音側、ノーマル/デュアル計4つ)
- ・ボイス部のボリューム値(高音側/低音側、ノーマル/デュアル計4つ)
- ・オクターブの設定値(高音側/低音側、ノーマル/デュアル計4つ)
- ・パンの設定値(高音側/低音側、ノーマル/デュアル計4つ)
- ・MIDI送信チャンネル(高音側/低音側計2つ)

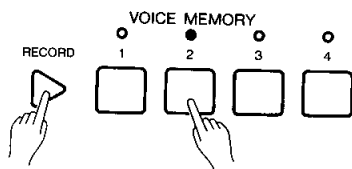


記憶

1 音色番号等を指定

音色番号をはじめ、ボイスメモリー部の各設定をします。

2 記憶



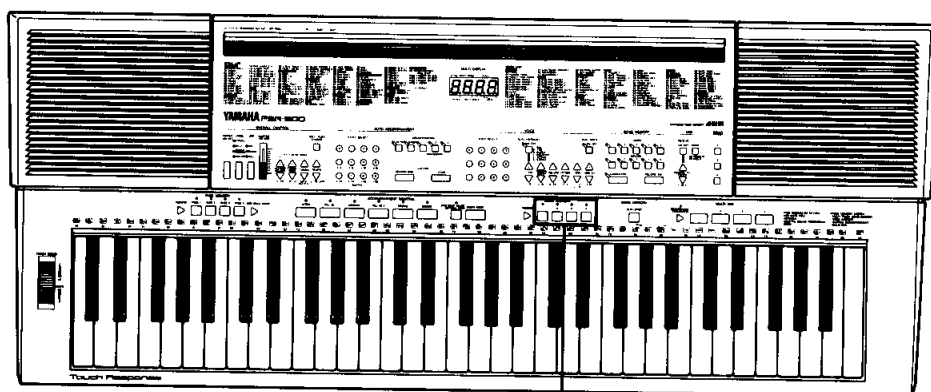
- ①ボイスメモリー部のレコードボタンを押しながら、
 - ②ボイスメモリー1~4いずれかのボタンを押します。
- ※押したボタンのランプが点灯し、記憶されます。

※記憶済みのボタンに記憶しなおすと、そのボタンの前の内容は消えます。

※記憶させた内容は、ページメモリー機能を使って、さらにページメモリーに記憶されることをお勧めします。(73ページ参照)ボイスメモリーに記憶させても、ページメモリーに記憶させなければ、ページを変えた時点で消えてしまいます。

※電源アダプターを外したり、乾電池を抜いて約10分以上放置したり、初期化すると、1~4ボタン全ての記憶内容が消えます。(82ページ参照)

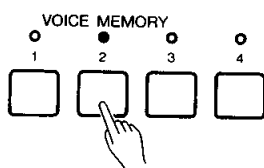
※ボイスメモリーを使ってカスタムスタイルのパターン、ソングメモリー、マルチパッドの録音をした場合、それらの再生中にボイスメモリーを変更しても、すぐに変更は反映されません。再スタートより反映されます。



呼び出し

呼び出し

呼び出し



ボイスメモリー1~4ボタンの内、呼び出したい内容が記憶されたボタンを押します。

※押したボタンのランプが点灯し、呼び出されます。

※呼び出した後、ボイスメモリー部分の設定を少しでも変えると、そのボタンのランプが点滅します。(記憶内容と異なった設定になったことを意味します。)

※点灯中のボタンを押すと消灯し、ボイスメモリー呼び出し前の音色に戻ります。

2. ページメモリー

パネル全体の設定および各部の記憶内容を、ページメモリーボタン1~4にそれぞれ記憶させることができます。

※曲ごとにページメモリーに記憶させることをお勧めします。曲ごとに設定を変えるわずらわしさが、最小限で済むようになります。

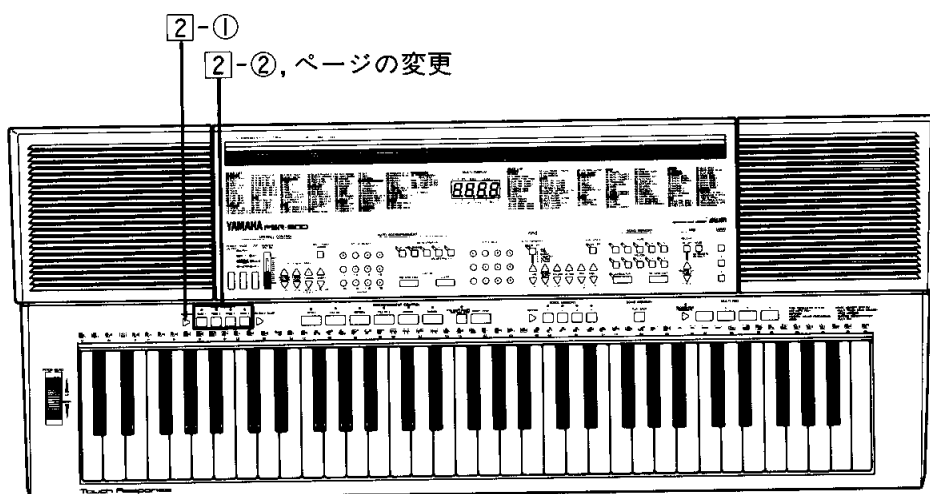
記憶させることができる内容

ページメモリー1~4の各ボタンに、下記の内容を記憶させることができます。

- ・全体のコントロール部の各設定(マスターボリュームを除く)
- ・オートアカンパニメント部の各設定
- ・ボイス部の各設定
- ・ソングメモリー部の記憶内容

- ・カスタムアカンパニメントの記憶内容
- ・MIDI受信チャンネル、内部クロック/外部クロックの設定
- ・アカンパニメントコントロールのスタートパターン
- ・ボイスメモリー部の記憶内容
- ・マルチパッドの記憶内容

※MIDIモードは、ページを変更すると、00(リモートコントロール)モードにリセットされます。(78ページ参照)

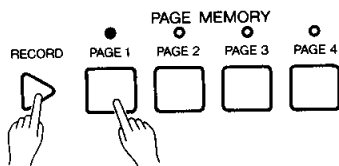


記憶

1 各部の設定

各部の設定や記憶を行います。

2 記憶



- ① ページメモリー部のレコードボタンを押しながら、
 - ② ページ1~4いずれかのボタンを押します。
- ※ 押したボタンのランプが点灯し、記憶されます。

※ 記憶済みのボタンに記憶しなおすと、そのボタンの前の内容は消えます。

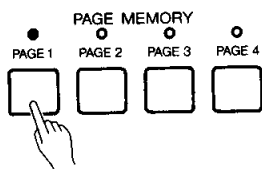
※ 電源アダプターを外したり、乾電池を抜いて約10分以上放置したり、初期化すると、現在のパネル設定とページ1~4全ての記憶内容が消えます。(82ページ参照)

※ パワースイッチをオフにただけなら、現在のパネル設定とページ1~4全ての記憶内容が保存され、再びパワースイッチをオンにした時は、オフ直前の状態が再現されます。

※ リズムや自動伴奏のスタート後、ソングメモリー録音/録音待期/再生中、パッド録音/録音待期/再生中は、ページメモリーに記憶させることはできません。停止させてから記憶させてください。

ページの変更

ページの変更



ページ1~4ボタンの内、呼び出したい内容が記憶されたボタンを押します。
 ※ 押したボタンのランプが点灯し、呼び出されます。

※ 呼び出した後、各部の設定や記憶内容を少しでも変えると、そのボタンのランプが点滅します。(それまでの記憶内容と異なった設定になったことを意味します。)

※ 点滅中に他のページを呼び出すと、点滅していた時の内容は消えます。

※ リズムや自動伴奏のスタート後、ソングメモリー録音/録音待期/再生中、パッド録音/録音待期/再生中は、ページ変更できません。停止させてからページ変更してください。

3. 他の機器と接続する

背面パネルの付属端子を使って、各機器と接続できます。

- ・MIDI(IN、OUT)端子(76ページ参照)

この端子を使い他のMIDI機器と接続して、MIDIに関する情報をやりとりさせることができます。そして、様々なコントロールが可能です。

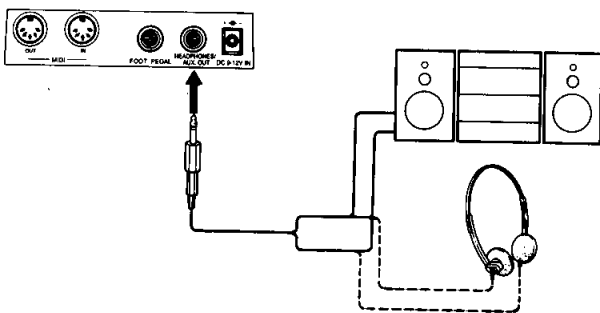
- ・フットペダル接続用端子(92ページ参照)

付属の専用フットペダルを接続するための端子です。

- ・ヘッドホン/AUX出力端子

この端子を使いステレオなどに接続して、より大きな音で鳴らしたり、カセットテープに演奏を録音することができます。また、ヘッドホンを接続して外に音を出さずに演奏できます。

※この端子にプラグを差し込むと、PSR-500のスピーカーからは音が出なくなります。



- ・電源アダプター接続用端子(3ページ参照)

付属の電源アダプターPA-5を接続するための端子です。

9. MIDI

PSR-500はMIDI機能(MIDI端子)をもった楽器です。ここでは、MIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできること、MIDIに関する設定方法を順に紹介します。

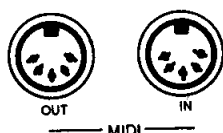
1. MIDIとは?

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス(Musical Instrument Digital Interface)の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI

製品を接続して、それらの間で演奏にまつわる様々な情報をやりとりさせ、コントロールさせようという目的で考え出された世界統一規格です。

2. 本機のMIDI端子

本機には、次のように2種類のMIDI端子があります。



MIDI OUT(ミディアウト)

PSR-500の演奏情報をデジタル信号で出力します。

MIDI IN(ミディイン)

他のMIDI製品からの演奏情報をデジタル信号で入力します。

★MIDI接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。

MIDIケーブル

(MIDI-15: 15m) ¥3,000(消費税は含まず)

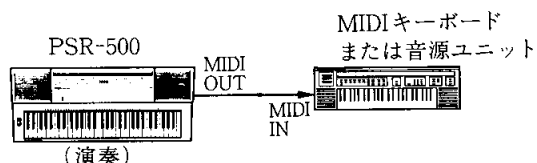
(MIDI-03: 3m) ¥1,100(消費税は含まず)

3. MIDIでできること

MIDI製品と一口にいっても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

MIDI OUT端子を使ってできること

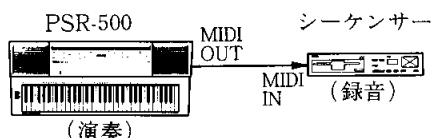
◆MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合



- ★PSR-500で鍵盤演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。
- ★PSR-500で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。切り替わる音色は、接続した製品によります。
- ※自動伴奏やソングメモリー、マルチパッドの情報は送信しません。手弾き音の情報が送信されます。

◆MIDIシーケンサーを接続した場合

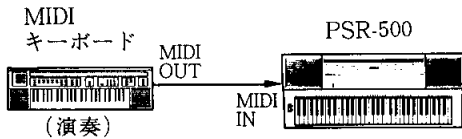
(MIDI信号などデジタル情報で演奏を録音する機器は、一般にシーケンサーと呼ばれています。)



- ★PSR-500で鍵盤演奏する内容を、MIDIシーケンサーに記録できます。MIDIシーケンサーには多くの曲を記録しておくことができ、後でそれを自由に再生できます。
- ★弾いた音符の情報だけでなく、音色の切替情報も同時に記録できます。
- ※自動伴奏やソングメモリー、マルチパッドの情報は送信しません。手弾き音の情報が送信されます。

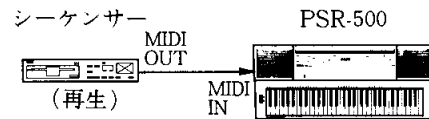
MIDI IN端子を使ってできること

◆MIDIキーボードに接続した場合



- ★外部のMIDIキーボードで演奏すると、PSR-500がそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。
- ★外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、PSR-500の音色も同時に切り替わります。切り替わる音色は、外部のMIDIキーボードによります。
- ★PSR-500が、シングルフィンガーまたはフィンガードモードの時には、外部のMIDIキーボード上で自動伴奏の演奏ができます。ただし00(リモートコントロール)モードの時に限ります。

◆MIDIシーケンサーに接続した場合



- ★MIDIシーケンサーに記録済みの演奏内容を、PSR-500の音色で再生できます。

4. MIDIの設定方法と機能

MIDI送信チャンネルの変更

MIDI送信チャンネル(+,-)ボタンを押すことにより、MIDI送信チャンネルを変更できます。スプリット時は、低音側のチャンネルも変更できます。

※変更の方法は、他の設定(ボリュームやパン)と同様です。変更したい方の鍵域を押してから変更します。

※指定したチャンネルは、音色番号等とセットでボイスメモリーに記憶させることができます。

※押鍵中はチャンネル変更できません。

MIDI受信オン/オフの切替

チャンネルごとに、MIDI受信を可能にするか/不可能にするか選択できます。

E(MIDI受信可)/d(MIDI受信不可)を選択できます。

①MIDI受信チャンネル/クロック(+,-)ボタンを押して、マルチディスプレイの右2桁にMIDIチャンネル番号を表示させます。

②MIDI受信チャンネル番号が表示されている間に、MIDI受信オン/オフボタンを押してE(受信可)/d(受信不可)を指定します。

内部クロック/外部クロックの切替

PSR-500のリズムを制御するクロックを選択できます。内部クロックの状態では、PSR-500のリズムの速さはPSR-500自身によってコントロールされ、外部クロックにすると、PSR-500のリズムの速さは外部機器によってコントロールされるようになります。

①MIDI受信チャンネル/クロック(+,-)ボタンを押して、マルチディスプレイの右端にC(クロック)の文字を表示させます。

②このCの文字が表示されている間に、MIDI受信オン/オフボタンを押してd(内部クロック)/E(外部クロック)を指定します。

※外部クロックを指定しても、外部クロックが入力されていない間は、内部クロックで動作します。

※外部クロックを受信中にテンポ(+,-)ボタンを押しても、ECと表示されてテンポ変更されません。

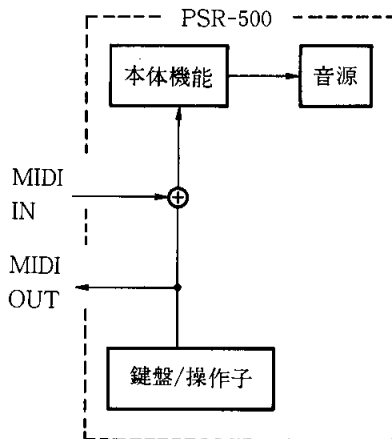
リモートコントロールモード/ マルチボイスモードの切替

MIDIモードボタンを押すことによりマルチディスプレイ右2桁にモード番号が表示され、MIDI受信モードを選択できます。

※電源オン直後およびページメモリー切替直後は、00(リモートコントロール)モードになっています。また、デモ再生させると、00(リモートコントロール)モードに切り替わります。

00(リモートコントロール)モードにした場合の受信

指定したMIDI受信チャンネルで受信する通常モードです。このモードでは、外部キーボードによる演奏がPSR-500の鍵盤を弾いたことと同じになります。また、PSR-500上でもパネル操作できます。



99(マルチボイス)モードにした場合の受信

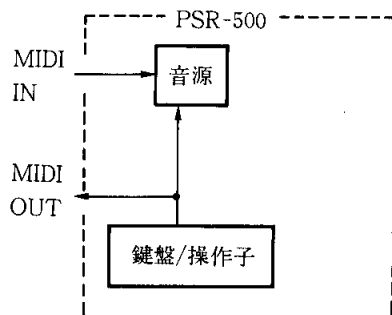
PSR-500を受信側にして、音源として使用することを前提としたモードです。

マルチボイスモードにすると、同時に複数のチャンネルの情報を受信できるようになります。たとえばMIDIシーケンサーに記録されている複数のチャンネルの演奏情報をPSR-500に受信させ、同時に複数の音色で鳴らしたい時に、マルチボイスモードにします。

※自動伴奏、カスタムパターン、ソングメモリー、マルチパッドのパネル機能は動作しません。

※外部クロック、スタート、ストップは受信しません。

※ダイナミックボイスアロケーションシステムを採用していますので、チャンネルごとの発音数の設定等は不要です。



MIDIバルクダンプの方法

ページメモリーに記憶させた内容を、もう1台のPSR-500にバルクアウトさせることができます。

①MIDIバルクダンプボタンを押します。

すると、“bdP”(バルクダンプ)と表示されると共に、ページ1~4のランプが一斉に点滅します。

②ページ1~4の中で、バルクアウトさせたいページのボタンを押します。すると、“bdP”表示が点滅から点灯に変わります。

すると、バルクダンプが開始されます。バルクダンプが終了すると、通常表示に戻ります。

ダンプ中にダンプを中止する時は、再びMIDIバルクダンプボタンを押してください。

※バルクダンプ中は全ての本体機能が停止し、鍵盤を押しても発音もされません。

MIDIバルクダンプ受信

※バルクダンプ受信は、00(リモートコントロール)モードの時のみ可能です。

※もう1台のPSR-500のエクスクルーシブメッセージを受信すると、全てのパネル機能が停止し、本体は受信に専念します。受信中は“bdP”が表示されます。

※受信が完了すると、受信したパネル設定になります。(残しておきたい設定は、バルクダンプ受信させる前にページメモリーに記憶させてください。)

※バルクダンプ受信中にエラーが発生すると、マルチディスプレイに“Err”と表示されます。この場合は、もう一度バルクダンプを行ってください。

5. MIDI 送受信メッセージ

MIDI受信可能メッセージ

00(リモートコントロール)モード時

1. ノートオン/オフ(ベロシティ付)

受信すると、PSR-500の鍵盤を弾いた時と同じように対応します。例えば、自動伴奏のコード指定時やソングメモリーの録音時も同様です。なおPSR-500のトランスポーズの設定は、受信データにも対応します。

2. ピッチベンド

受信すると、ピッチベンド値=00H, 00H~7FH, 7FHにより、ピッチが最小~最大の対応をします。なおPSR-500のピッチベンドレンジの設定は、受信データにも有効です。

3. プログラムチェンジ

受信すると、プログラムNo.=00H~63Hにより、音色番号が00~99の対応をします。

4. コントロールチェンジ

ビブラート、ボリューム、パン、サステイン、リバーブを受信し対応します。

コントロールチェンジデータ仕様

ビブラート:

ステータス 01H
コントロール値 00~0FH...0(オフ)、
10~1FH...1(最小)、
20~2FH...2、
30~3FH...3、
40~4FH...4、
50~5FH...5、
60~6FH...6、
70~7FH...7(最大)

※初期値は音色により異なります。

ボリューム:

ステータス 07H
コントロール値 00H...00(無音)、
01H...01(-24dB)、
⋮
⋮
7FH...24(最大)

※初期値は6FH(パネル上で21)です。

パン:

ステータス 0AH
コントロール値 00~07H...7(左端)、
08~0FH...6、
10~17H...5、
18~1FH...4、
20~27H...3、
28~2FH...2、
30~37H...1、
38~47H...0(中央)、
48~4FH...1、
50~57H...2、
58~5FH...3、
60~67H...4、
68~6FH...5、
70~77H...6、
78~7FH...7(右端)
※初期値は中央です。

サステイン:

ステータス 40H
コントロール値 00~3FH...オフ
40~7FH...オン
※初期値はオフです。

リバーブ:

ステータス 5BH
コントロール値 00~07H...0
08~0FH...1、
10~17H...2、
18~1FH...3、
20~27H...4、
28~2FH...5、
30~37H...6(初期値)、
38~3FH...7、
40~47H...8、
48~4FH...9、
50~57H...10、
58~5FH...11、
60~67H...12、
68~6FH...13、
70~77H...14、
78~7FH...15

5. スタート/ストップ

受信すると、PSR-500のスタート/ストップボタンを押した時と同じように対応します。

6. クロック

PSR-500のクロックの設定が外部クロックになっている時のみ受信します。

7. システムエクスクルーシブ

ページメモリーのバルクダンプメッセージを受信します。

PSR-500のバルクダンプフォーマットは、F0H, 43H, 76H, 0AH, データ, F7Hです。

99(マルチボイス)モード時

1. ノートオン/オフ(ベロシティ付)

全チャンネル受信可能です。PSR-500のトランスポーズの設定は、受信データに対して無効です。

2. ピッチベンド

全チャンネル受信可能です。PSR-500のピッチベンドレンジの設定は、全チャンネルの受信データに対応します。

3. プログラムチェンジ

全チャンネル受信可能です。

4. コントロールチェンジ

ビブラート、ボリューム、パン、サスティン、リバーブを受信します。

※コントロール値は、コントロールチェンジデータ仕様を参照。

5. スタート/ストップ

受信しません。

6. クロック

受信しません。

7. システムエクスクルーシブ

受信しません。

※電源を切った瞬間、99モードにした瞬間に、各チャンネルの設定が全て初期値になります。(ピッチベンドは標準の40H, 00H、プログラムチェンジは00H、コントロールチェンジはコントロールチェンジデータ仕様を参照。)

MIDI送信可能メッセージ

実際に鍵盤で演奏している音の情報のみ送信されます。(自動伴奏の演奏データ、カスタムパターンの演奏データ、ソングメモリーの再生データ、オートハーモニーの装飾音データ、マルチパッドの再生データ、デモ再生のデータは送信されません。)

※送信に関しては、MIDIモードはどちらでも同じです。

1. ノートオン/オフ(ベロシティ付)

送信データには、パネルのトランスポーズ、オクターブ設定が有効です。

2. ピッチベンド

パネルのピッチベンドレンジの設定により、データの可変範囲が変わります。

(例)ピッチベンドレンジ12の時…データ=00H, 00H~7FH, 7FH
ピッチベンドレンジ1の時 …データ=3CH, 3AH~20H, 45H

3. プログラムチェンジ

パネルの音色番号を切り替えると送信されます。

音色番号00~99……プログラム値00H~63H

4. コントロールチェンジ

パネルのボリューム、パン、サスティン、リバーブデプスの設定を変えると送信されます。

※コントロール値は、MIDI受信可能メッセージのコントロールチェンジデータ仕様を参照。

5. スタート/ストップ

自動伴奏、ソングメモリー、デモのスタート/ストップ操作時に送信されます。

※スプリットモード時は、高音側/低音側に異なるMIDI送信チャンネルを設定すれば、高音側/低音側別々のチャンネルで送信可能です。ピッチベンド、プログラムチェンジ、コントロールチェンジも、高音側/低音側別々の送信されます。

※デュアル音についての送信はされません。

※ボイスメモリーボタンを押して記憶内容呼び出すと、記憶内容のプログラムチェンジとコントロールチェンジが送信されます。またボイスメモリーボタンをオフにすると、ボイスメモリー呼び出し前のプログラムチェンジとコントロールチェンジが送信されます。

PSR-500

MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1991.5.19
Version: 1.0

ファンクション…	送信	受信		備考
		リモート コントロールモード	マルチモード	
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1~16チャンネル(※1) 1~16チャンネル	1~16チャンネル(※2) 1~16チャンネル(※2)	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *****	(※2) × ×	(※2)(※3) × ×
ノート ナンバー	音域	0~127 *****	0~127 0~127(※4)	
ペロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH, v=1~127 × 9nH, v=0	○ 9nH, v=1~127 × 9nH, v=0 or 8nH	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		○(※5)	○(※6)	○(※6)
コントロール チェンジ		1 × 7 ○ 10 ○ 64 ○ 91 ○	○ ○ ○ ○ ○	7ビット分解能 ビブラート ボリューム パン サスティン リバーブデプス
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○0~99(※7) *****	○ 0~99(※7) 0~99	
エクスクルーシブ		○(※8)	○(※8)	×
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	○ ○	(※9) ○	× ×
その他	ローカルON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	× ○ ○ ×	スタート/ストップ
備考	<p>※1：記憶させることが可能です。</p> <p>※2：チャンネルごとにオン/オフ指定が可能です。</p> <p>※3：マルチティンバー、ダイナミックボイスアロケーション。</p> <p>※4：高域で正弦波に置き換わる音色もあります。</p> <p>※5：パネル上のピッチベンドレンジによって、異なる範囲の値を送信します。 例)ピッチベンドレンジ12の場合：00H, 00H~7FH, 7FH ピッチベンドレンジ1の場合：3CH, 3AH~20H, 45H</p> <p>※6：パネル上で設定したピッチベンドレンジを適用して発音します。</p> <p>※7：0~99に対しては音色番号0~99がそれぞれ対応します。</p> <p>※8：ページメモリーのバルクダンプ。</p> <p>※9：内部クロック/外部クロック切替可能</p>			

モード1：オムニ・オン, ポリ モード2：オムニ・オン, モノ ○：あり
モード3：オムニ・オフ, ポリ モード4：オムニ・オフ, モノ ×：なし

10. 資料

1. 初期化する

ページメモリーの内容は、パワーオン/オフボタンをオフにしても、電源アダプターまたは乾電池がセットされていれば、各ボタンに記憶されています。また、設定中の状態や各部のメモリーも

記憶されています。

しかし、それぞれを初期化して元の状態(初めて手にした時の記憶内容)に戻すこともできます。

◆1ページだけ初期化する方法

- ①パワーオン/オフボタンを押して電源を切る。
- ②そのページのボタンを押しながら、パワーオン/オフボタンを押して電源を入れる。
- ③マルチディスプレイに“clr”が表示されたら、初期化終了です。

◆全ページ初期化する方法

- ①パワーオン/オフボタンを押して電源を切る。
- ②カスタムのレコード/エンドボタンとクリアボタンを同時に押しながら、パワーオン/オフボタンを押して電源を入れる。
- ③マルチディスプレイに“clr”が表示されたら、初期化終了です。

※初期化すると、以前のデータが全て書き換わります。
充分注意して行ってください。

◆初期設定

操作子		ページ1	ページ2	ページ3	ページ4
全体の コントロール	モード	ノーマル			
	DSP	ルーム			
	ピッチベンドレンジ	2			
	アンプボリューム	21			
	トランスポーズ	0			
	チューニング	440Hz			
	スプリットポイント				
	スプリット	C#3			
	シングル	D2			
	フィンガード	G2			
オート アカンパニメント	スタイル	00			
	オーケストレーション				
	リズム	オン			
	ベース	オン			
	オーケストラ1	オン			
	オーケストラ2	オン			
	オーケストラ3	オン			
	カスタムスタイル	デモ1用	デモ2用	デモ3用	ランバダ
	アカンパニメントコントロール	ノーマル			
	シンクロススタート	オフ			
停止時のコード音色					
音色	35				
リバーブデプス	6				
ボリューム	12				
オクターブ	2				
パン	0				
音色		ノーマル	デュアル		
	低音側				
	音色	89	35		
	リバーブデプス	6	6		
	ボリューム	21	16		
	オクターブ	1	-1		
	パン	0	0		
	MIDI送信CH	2			
	デュアルボイス	オフ			

操作子		ページ1		ページ2	ページ3	ページ4
	高音側					
	音色	00	35			
	リバーブデプス	6	6			
	ボリューム	21	16			
	オクターブ	0	0			
	パン	0	0			
	ハーモニータイプ	3				
MIDI送信CH	1					
デュアルボイス	オフ					
	オートハーモニー	オフ				
ソングメモリー	コード	1~5	全ボタン空			
	メロディー	1~5	全ボタン空			
	コンダクター		空			
MIDI	受信チャンネル	1~16	全チャンネル受信可			
	クロック		内部クロック			
マルチパッド	1		デモパターン1	デモパターン5	デモパターン9	デモパターン13
	2		デモパターン2	デモパターン6	デモパターン10	デモパターン14
	3		デモパターン3	デモパターン7	デモパターン11	デモパターン15
	4		デモパターン4	デモパターン8	デモパターン12	デモパターン16

※上表中のページ2~4の空欄部分につきましては、ページ1と同じ値です。

2. 操作不能になったら

予期されなかった操作やその他の原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、通常は電源を入れ直すことによって解決できます。それでも解決しない場合は、次の“システムリセット”操作を行ってください。

なお、“システムリセット”を行うと以前のデータが全て初期化されます。(82ページの“初期設定”の表を参照)

◆システムリセット

- ①パワーオン/オフボタンを押して電源を切る。
- ②カスタムのレコード/エンドボタンとクリアボタンを同時に押しながら、パワーオン/オフボタンを押して電源を入れる。
- ③マルチディスプレイに“clr”が表示されたら、システムリセット完了です。

※パワーオン/オフボタンが操作不能で電源を入れ直すことができない場合は、電源アダプターおよび乾電池を外してから再びそれらをセットし、その後電源を入れてください。

※“システムリセット”操作を行っても解決しない場合は、電源アダプターおよび乾電池を外して2~3時間放置してから再びそれらをセットし、その後電源を入れてください。

3. おかしいな?と思ったら

おかしいな?と思った時は、この表を見てください。

現象	原因	解決法
電源を入れたり切った時、“ポツン”と音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
電源を切っていないのに、切れている。	乾電池使用時の電源の切り忘れに対応する機能が、働いたためです。	10分以上使わないでいると、自動的に切れます。
スピーカーから音が出ない。	音量が下がっている。	マスターボリューム等を上げてください。
	ヘッドホン/AUX出力端子にプラグを差しているため。	プラグを抜いてください。
リズムがスタートしない。リズムの音が出ない。	スタートさせていない。	スタート/ストップボタン等を押してください。
	シングルフィンガーまたはフィンガードの演奏待機状態になっている。	コードを押してください。
	伴奏音量が下がっている。	伴奏音量を上げてください。
	リズムパートがオフになっている。	オーケストレーションのリズムボタンをオンにしてください。
電源が切れない。	内部のコンピュータが静電気や外部要因のため、異常をきたしたため。	乾電池および電源アダプターを抜いてください。
自動伴奏音が出ない。	シングルフィンガーまたはフィンガードの状態になっていない。	モードボタンを、シングルフィンガーまたはフィンガードモードにしてください。
	フィンガードの状態で、シングルフィンガーの押さえ方をしている。	53ページの“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
	シンクロススタートを解除した。	シンクロススタートボタンを押して、コードを弾いてください。 (39ページ参照)
	伴奏パートが全てオフになっている。	オーケストレーションの各ボタンをオンにしてください。
鍵盤の途中から音色がおかしくなる。	低音側の鍵盤を押している。	ノーマル以外のモードになっている時は、そのようになります。
自動伴奏のコード指定をしても、思ったとおりの和音が出ない。	指を離さないうちに、次のコードにしようとしている。	鍵盤から一旦指を離したうえで、次の鍵盤を押すようにしてください。
	正確に押さえしていない。	47ページの“シングルフィンガーコード一覧表”、53ページの“フィンガードコード一覧表”等をご覧ください。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	同時に鳴らせる音数には制限があります。	伴奏音や再生音も含めて、最大28音の範囲で発音させることができます。
記憶させておいたデータが消えている。	該当するメモリーボタンを押していない。 または記憶させなかった。 または電源の供給を断った。	該当するメモリーボタンを押しても呼び出されない場合は、もう一度設定したり記憶させてください。
テンポが変わらない。	外部クロックの状態になっている。	内部クロックに戻してください。
	テンポの調節範囲を越えようとしている。	テンポの調節範囲は、♩=40~240の範囲です。
ピッチベンドがかからない。	手弾き音以外の音にかけようとしている。	手弾き音にのみかかります。

4. 仕様

●鍵盤

61鍵(C1~C6)イニシャルタッチ付

●音色

100音色

●最大同時発音数

28音

●伴奏スタイル

103スタイル

●操作子

全体のコントロール；パワー(オン/オフ)、モード(ノーマル/スプリット/シングルフィンガー/フィンガード)、DSP(オフ/ルーム/ホール)、マスターボリューム、アカンパニメントボリューム(ピッチベンドレンジ、+/-)、トランスポーズ(+/-)、チューニング(+/-)、テンポ(+/-)、スプリットポイントチェンジ

ページメモリー；レコード、ページ(1~4)、MIDIバルクダンブ

ピッチベンド

オートアカンパニメント；スタイルセレクト(0~9、+、-、クオンタイズ1/4~1/96)、オーケストレーション(リズム、ベース、オーケストラ1~3)、カスタム(レコード/エンド、クリア)

アカンパニメントコントロール；イントロ、フィルイン1、ノーマル、フィルイン2、ブリッジ、エンディング、シンク羅斯ターオン/オフ(リズムストップ)、スタート/ストップ

ボイス；ボイスセレクト(0~9、+、-)、オートハーモニー(オン/オフ、+/-)、リバーブデプス(+/-)、ボリューム(+/-)、オクターブ(+/-)、パン(+/-)、MIDI送信チャンネル(+/-)、デュアルボイス(オン/オフ)

ボイスメモリー；レコード、1~4

ソングメモリー；コード(1~5)、メロディー(1~5)、コンダクター、レコード/エディット、プレイ/ストップ

マルチパッド；レコード/エンド(ターミネイト)、1~4

MIDI；レシーブ(オン/オフ)、レシーブチャンネル/クロック(+/-)、モード

デモ；1~3

●付属端子

ヘッドホン/AUX出力、フットペダル、MIDIイン、アウト、DC(9~12V)イン

●メインアンプ

8W×2(アダプター使用時)、4W×2(乾電池使用時)

●スピーカー

12cm×2

●定格電圧

DC9~12V

●使用電池

単1乾電池6本

●電池寿命

約6時間(アルカリ乾電池使用時)、

約90分(マンガン乾電池使用時)、

条件；デモ1、ボリューム最大、連続演奏、「batt」の表示が最初に出るまでの時間

●電源アダプター

PA-5(付属)

●寸法

(間口)968mm×(奥行)405mm×(高さ)136mm(譜面立て含まず)

●重量

6.3kg(乾電池を除く)

●付属品

電源アダプターPA-5、譜面立て、フットペダル、和文シート、取扱説明書

・仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

5. 同時発音数について

PSR-500の最大同時発音数は28音で、28音の中には自動伴奏、ソングメモリー、マルチパッド等も含まれます。合計28音を越える発音指示が来るとマルチディスプレイに“CFull”と表示され、それ以上は発音されません。

なおPSR-500の音色の中には、発音数を1音だけでなく2~4音使うものもあります。たとえば使用発音数2音の音色を使った場合は、発音数が半分の14音になります。使用発音数は次のとおりです。

番号	音色名	使用発音数
00	ピアノ	1
01	フランジピアノ	2
02	ホンキートンクピアノ	2
03	エレクトリックピアノ1	2
04	エレクトリックピアノ2	2
05	エレクトリックピアノ3	2
06	ハーブシコード1	1
07	ハーブシコード2	2
08	クラビ	1
09	チェレスタ	1
10	パイプオルガン1	2
11	パイプオルガン2	2
12	エレクトロニックオルガン1	2
13	エレクトロニックオルガン2	2
14	エレクトロニックオルガン3	2
15	エレクトロニックオルガン4	2
16	アコーディオン1	2
17	アコーディオン2	2
18	エレクトリックギター1	2
19	エレクトリックギター2	1
20	エレクトリックギター3	1
21	トレモロギター	2
22	エレクトリック12弦ギター	2
23	ディストーションギター	2
24	ジャズギター	1
25	ジャズギターオクターブ	2
26	ミュートギター	1
27	ミュートギターエコー	2
28	スチールギター	1
29	フォークギター	1
30	12弦ギター	2
31	ガットギター	1
32	バイオリン1	1
33	バイオリン2	1
34	チェロ	1
35	ストリングス1	2
36	ストリングス2	2
37	オーケストラヒット	1
38	ハーブ	1
39	バンジョー	1
40	ビブラフォン	2
41	マリンバ	1
42	スチールドラム	1
43	トランペット	1
44	ミュートトランペット1	2
45	ミュートトランペット2	1
46	ミュートトランペット3	1
47	トロンボーン	1
48	フリューゲルホルン	1
49	ホルン	1
50	チューバ	1
51	プラスアンサンプル1	3
52	プラスアンサンプル2	3
53	ピッコロ	1
54	フルート	1
55	クラリネット	1
56	バスクラリネット	1
57	オーボエ	1
58	イングリッシュホルン	1
59	バスーン	1
60	ソプラノサクソ	1
61	アルトサクソ	1
62	テナーサクソ	1
63	バリトンサクソ	1
64	オカリナ	1
65	パンフルート	1
66	リコーダー	1
67	ハーモニカ	1
68	サンバホイッスル	1
69	サクソアンサンプル1	2
70	サクソアンサンプル2	3
71	木管楽器アンサンプル	3
72	コーラス	2
73	シンセリード	2
74	シンセブラス	2
75	シンセストリングス	2
76	シンセタム	1
77	ファンタジー1	4
78	ファンタジー2	2
79	ファンタジー3	4
80	ベルストリングス	4
81	シークパッド	3
82	エレクトリックベース1	1
83	エレクトリックベース2	1
84	フレットレスベース	1
85	ミュートベース	1
86	ミュートベースエコー	2
87	スラップベース	1
88	ウッドベース1	1
89	ウッドベース2	1
90	シンセベース1	1
91	シンセベース2	1
92	シンセベース3	1
93	ポウドベース	1
94	スクラッチ ピッチ付	1
95	キック&スネア ピッチ付	1
96	タム ピッチ付	1
97	ラテンパーカッション ピッチ付	1
98	パーカッション ゲート付	1
99	パーカッション	1